

MNOseries

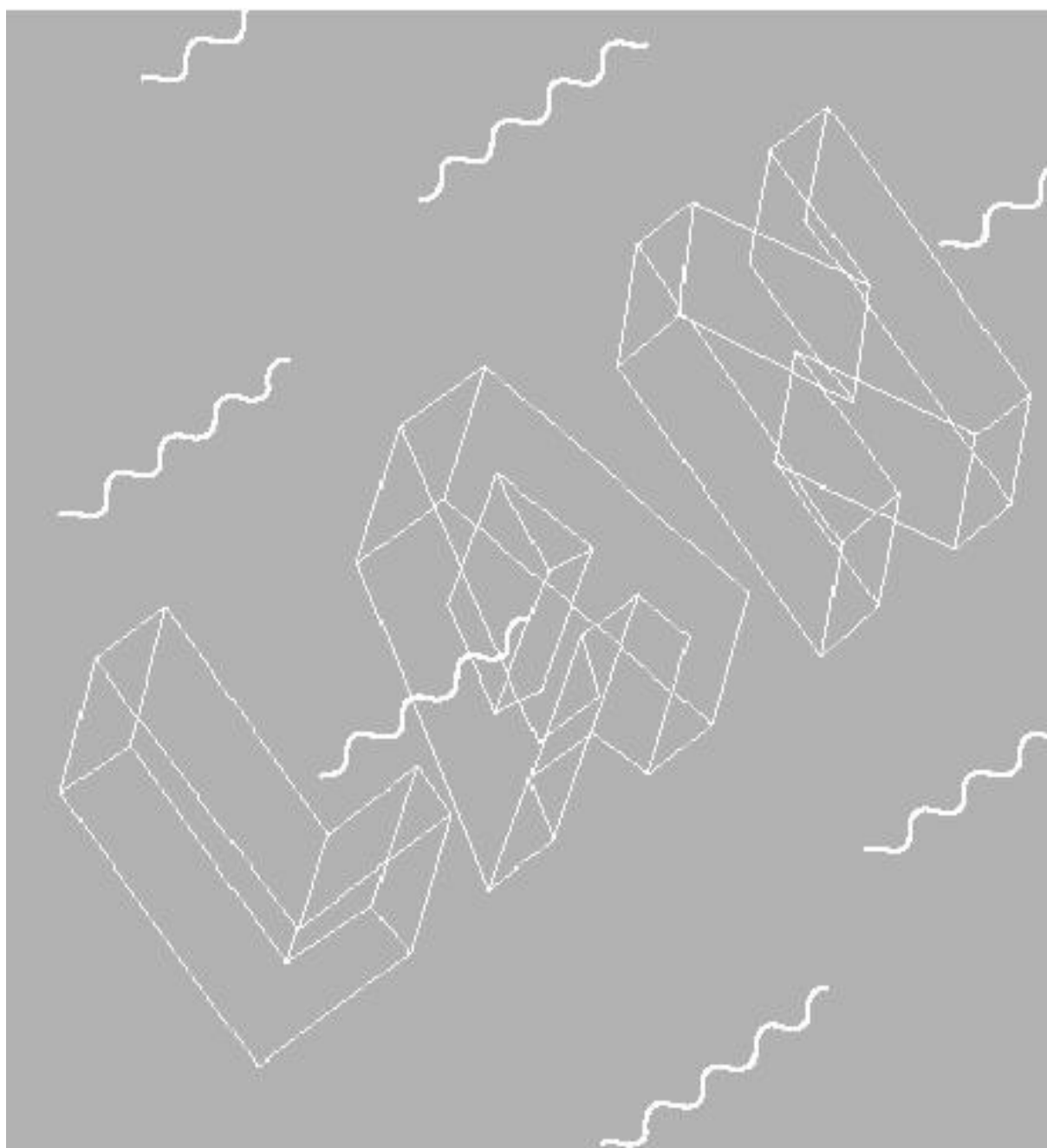
保証書別添付

Switch-M24G

品番 MN26240

取扱説明書 (メニュー編)

- お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(2ページ)を必ずお読みください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。



安全上のご注意



- 交流100V以外では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 必ずアース線を接続してください。感電や誤動作の原因となることがあります。
- 雷が発生したときはこの装置や接続ケーブルに触れないでください。感電の原因となることがあります。
- この装置を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、はさみ込んだり、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 開口部から内部に金属や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 水のある場所の近く、湿気やほこりの多い場所に設置しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 直射日光のあたるところや温度の高いところに設置しないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所や不安定な場所に設置しないでください。落下して、ケガ・故障の原因となることがあります。
- この装置を壁面に取り付ける場合は、本体および接続ケーブルの重みにより落下しないよう確実に取り付け設置してください。ケガ・故障の原因となることがあります。
- ツイストペアポートに10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T以外の機器を接続しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

使用上のご注意

- 内部の点検・修理は販売店にご依頼ください。
- 商用電源は必ず本装置の近くで、取り扱いやすいところからお取りください。
- この装置の電源を切るときは電源コードをはずしてください。
- この装置を清掃する際は、その前に電源コードをはずしてください。
- 仕様限界をこえると誤動作の原因となりますので、ご注意ください。
- RJ45コネクタの金属端子やコネクタに接続されたツイストペアケーブルのモジュラプラグの金属端子に触れたり、帯電したものを近づけたりしないでください。静電気により故障の原因となることがあります。
- コネクタに接続されたツイストペアケーブルのモジュラプラグをカーペットなどの帯電するものの上や近辺に放置しないでください。静電気により故障の原因となることがあります。

※本書に記載されています会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

●ご注意

1. お客様の本取扱説明書に従わない操作に起因する損害およびこの装置の故障・誤動作などの要因によって通信の機会を逸したために生じた損害については、弊社はその責任を負いかねますのでご了承ください。
2. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
3. 万一ご不審な点がございましたら、販売店までご連絡ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

目次

安全上のご注意.....	2
使用上のご注意.....	3
1. はじめに	8
1.1. 製品の特徴	8
1.2. 同梱品の確認.....	9
1.3. 別売オプション	9
1.4. 各部の機能と名称.....	10
2. 設置	11
2.1. 19インチラックへの設置	11
3. 接続	12
3.1. ツイストペアポートを使用した接続	12
3.2. SFP拡張ポートを使用した接続	13
3.3. 電源の接続	14
3.4. LEDの動作	15
3.4.1. 起動時のLEDの動作	15
3.4.2. 動作中のLEDの動作	15
4. 設定	16
4.1. コンソールポートへの接続	16
4.2. ログイン.....	17
4.3. 画面の基本的な操作	19
4.4. メインメニュー(Main Menu).....	20
4.5. 基本情報の表示(General Information Menu)	21
4.6. 基本機能の設定(Basic Switch Configuration)	23
4.6.1. 管理情報の設定(System Administration Configuration).....	24
4.6.2. IPアドレスに関する設定(System IP Configuration).....	25
4.6.3. SNMPの設定(SNMP Configuration).....	27
4.6.3.a. SNMPマネージャの設定(SNMP Management Configuration)	28

4.6.3.b. トラップ送信の設定(SNMP Trap Receiver Configuration)	30
4.6.3.c. リンク状態変更時のトラップ送出(Enable/Disabled Individual Trap Menu)	32
4.6.4. 各ポートの設定(Port Configuration Basic)	34
4.6.5. 各ポートの名称設定(Port Configuration Extend)	36
4.6.6. アクセス条件の設定(System Security Configuration)	38
4.6.6.a. RADIUSの設定(RADIUS Configuration)	40
4.6.6.b. Syslog Transmissionの設定(Syslog Transmission Configuration)	42
4.6.7. E-mail通知機能の設定(Mail Report Configuration)	44
4.6.7.a. レポートデータの設定(Report Data Configuration)	46
4.6.8. MACアドレステーブルの参照(Forwarding Database)	48
4.6.8.a. MACアドレスの追加・削除	49
4.6.8.b. ポート毎のMACアドレステーブルの表示	50
4.6.8.c. 全てのMACアドレスの表示	51
4.6.8.d. VLAN毎のMACアドレステーブルの表示	52
4.6.9. 時刻同期機能の設定(SNTP Configuration)	53
4.6.10. ARPテーブル(ARP Table).....	55
4.7. 拡張機能の設定(Advanced Switch Configuration)	57
4.7.1. VLANの設定(VLAN Management)	58
4.7.1.a. 特徴.....	58
4.7.1.b. VLAN設定の操作(VLAN Management Menu)	59
4.7.1.c. VLANの作成(VLAN Creation Menu)	62
4.7.1.d. VLAN設定の変更(VLAN Modification Menu)	64
4.7.1.e. ポート毎の設定(VLAN Port Configuration Menu)	65
4.7.2. リンクアグリゲーションの設定(Link Aggregation)	67
4.7.2.a. リンクアグリゲーションについて	67
4.7.2.b. トランキングの設定(Trunk Configuration Menu)	68
4.7.2.c. ポート毎の優先値設定(Set Port Priority).....	70
4.7.2.d. LACPグループの状態表示(LACP Group Status).....	71
4.7.3. ポートモニタリング(Port Monitoring Configuration).....	72
4.7.4. スパニングツリーの設定(Rapid Spanning Tree Configuration).....	74
4.7.4.a. ポート毎の基本設定(Basic Port Configuration)	77
4.7.4.b. ポート毎の拡張設定(Advanced Port Configuration).....	80
4.7.4.c. 構成情報の表示(Designated Topology Information)	82
4.7.5. アクセスコントロールの設定 (Access Control Configuration Menu)	83
4.7.5.a. Classifierの設定(Classifier Configuration Menu)	84

4.7.5.b. Classifierの詳細設定(Create Classifier Configuration Menu)	86
4.7.5.c. Classifierの簡易情報の参照(Classifier Configuration Menu)	88
4.7.5.d. Classifierの詳細情報の参照(Show Detailed Entries Information Menu) ..	89
4.7.5.e. In-Profile Actionの設定(In-Profile Action Configuration Menu)	90
4.7.5.f. In-Profile Actionの作成(Create In-Profile Action Menu)	92
4.7.5.g. Out-Profile Actionの設定(Out-Profile Action Configuration Menu)	93
4.7.5.h. Out-Profile Actionの作成(Create Out-Profile Action Menu)	95
4.7.5.i. ポートリストの設定(Port List Configuration Menu)	97
4.7.5.j. ポリシーの設定(Policy Configuration Menu)	98
4.7.5.k. ポリシーの作成(Create Policy Configuration Menu)	100
4.7.6. QoSの設定(Quality of Service Configuration)	102
4.7.6.a. トラフィッククラスの設定(Traffic Class Configuration Menu)	103
4.7.6.b. 帯域幅の制御設定(Egress Rate Limiting Configuration Menu)	104
4.7.7. ストームコントロールの設定(Storm Control Configuration Menu)	105
4.7.8. 802.1x認証機能(802.1x Access Control Configuration)	107
4.7.8.a. ポートベース認証機能の設定(Port Based Access Control Configuration)	
.....	108
4.7.8.b. MACベース認証機能の設定 (MAC Based Access Control Configuration)	
.....	112
4.7.8.c. Force Authorized MAC Addressの設定 (Force Authorized MAC	
Configuration Menu)	116
4.7.8.d. Guest/Default VLANの設定(Guest/Default VLAN Configuration Menu)	
.....	118
4.7.8.e. 802.1x 統計情報の表示(Statistics Menu)	120
4.7.8.f. EAP-Requestの送信設定(EAP-Request Configuration Menu)	124
4.7.9. IGMPスヌーピングの設定(IGMP Snooping Configuration)	128
4.7.9.a. Leaveモードの設定(Set Leave Mode Menu)	130
4.7.9.b. VLANフィルタの設定(Show IGMP Snooping VLAN Filter Table Menu)	
.....	131
4.7.9.c. ルータポートの設定(Show Router Port Table Menu)	132
4.7.9.d. IGMP snooping Querierの設定(Set Querier Configuration Menu)	133
4.7.10. リングプロトコルの設定 (Ring Redundant Protocol Configuration)	135
4.7.10.a. ドメインの作成(RRP Domain Creation Menu)	137
4.7.10.b. ドメインの修正(RRP Domain Modification Menu)	139
4.7.10.c. ドメイン情報の表示(RRP Domain information Menu)	141
4.8. 統計情報の表示(Statistics)	143

4.9. 付加機能の設定(Switch Tools Configuration)	147
4.9.1. ソフトウェアのアップグレード(TFTP Software Upgrade)	148
4.9.2. 設定情報の保存・読込(Configuration File Upload/Download)	150
4.9.3. 再起動(System Reboot)	151
4.9.4. 例外処理(Exception Handler)	152
4.9.5. Pingの実行(Ping Execution)	153
4.9.6. システムログ(System Log)	155
4.10. 設定情報の保存(Save Configuration to Flash)	158
4.11. コマンドラインインタフェース(CLI)	159
4.12. ログアウト	160
付録A. 仕様	161
付録B. Windowsハイパーターミナルによる コンソールポート接続手順	164
故障かな？と思われたら	165
アフターサービスについて	166

1. はじめに

Switch-M24Gは22個の10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tポートと4組の排他使用可能な10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-TポートおよびSFP拡張スロット（1000BASE-SX/LX）を有する、管理機能付きオールギガ レイヤ2スイッチングハブです。

1.1. 製品の特徴

- IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX、IEEE802.3ab 1000BASE-T、IEEE802.3z 1000BASE-SX/LXに準拠し、データ伝送速度10/100/1000Mbpsを実現した管理機能付き対応スイッチングハブです。
- 標準MIB（MIB II，RMON 4グループ）をサポートし、SNMPマネージャからスイッチの管理が行えます。
- Telnetにより遠隔からスイッチの設定変更・設定確認が簡単にできます。
- オートネゴシエーション機能に対応し、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tの混在環境に対応できます。また、設定により速度・通信モードの固定が可能です。
- LEDにより機器の状態が確認できます。
- すべてのツイストペアポートがストレート/クロスケーブル自動判別機能を搭載しています。端末、ネットワーク機器の区別を意識せず、ストレートケーブルを用いて相互接続できます。（ポート通信条件を固定に設定した場合、本機能は動作しません）
- スパニングツリープロトコルをサポートし冗長性のあるシステム構築が可能です。
- IEEE802.1QのタギングVLANをサポートしており、最大256グループの設定可能です。
- IEEE802.3ad準拠のトラッキング機能を持ち、最大8ポートまでの構成が可能です。
- 通信確認のためのPingコマンドを実行することができます。
- IEEE802.1x準拠の認証機能（EAP-MD5/TLS/PEAP認証方式をサポート）が利用可能です。
- IGMP（Internet Group Management Protocol）スヌーピングをサポートしていますのでマルチキャストパケットによる帯域の占有を防ぎます。
- QoS機能をサポートしています（IEEE802.1p準拠）。

1.2. 同梱品の確認

開封時に必ず内容物をご確認ください。不足があった場合は、販売店にご連絡ください。

- | | |
|-------------------------|----|
| ● Switch-M24G本体 | 1個 |
| ● 取扱説明書 | 1冊 |
| ● CD-ROM（本取扱説明書を含む） | 1枚 |
| ● 取り付け金具（19インチラックマウント用） | 2個 |
| ● ネジ（19インチラックマウント用） | 4本 |
| ● ネジ（取り付け金具と本体接続用） | 8本 |
| ● 電源コード | 1本 |

1.3. 別売オプション

- MN54021
1000BASE-SX SFPモジュール
- MN54023
1000BASE-LX SFPモジュール
- MN54025
LX40 SFPモジュール
- MN72002
Dsub9ピン-Dsub9ピンコンソールケーブル

1.4. 各部の機能と名称

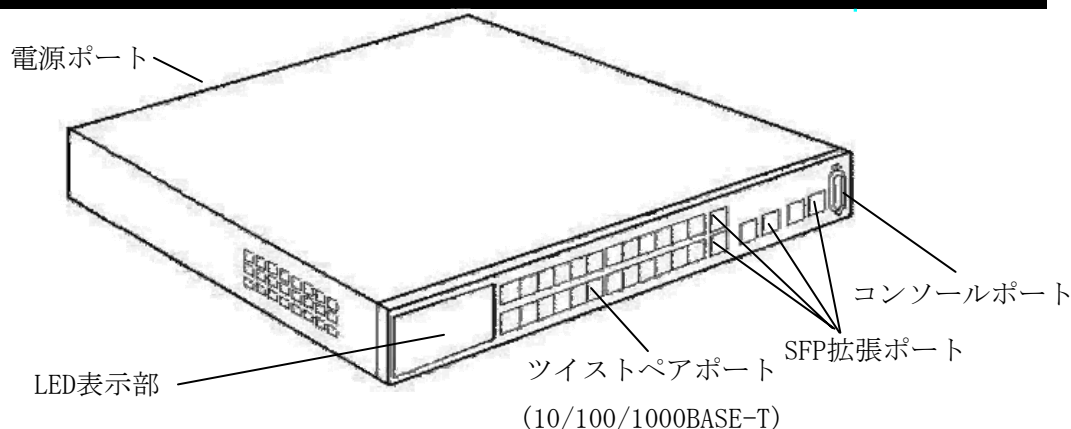


図1-1 Switch-M24G 外観

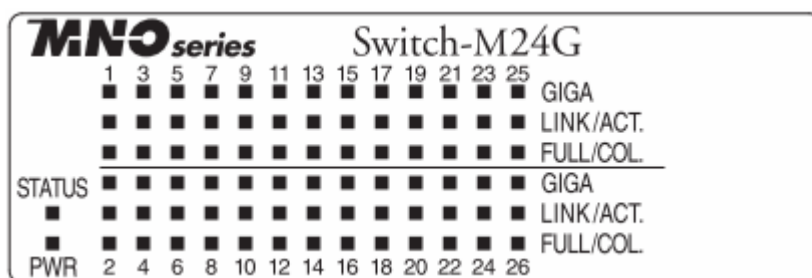


図1-2 LED表示部拡大図

● STATUS (自己診断)

- 緑点灯 : システム正常稼動
- 橙点灯 : システム起動中
- 橙点滅 : システム障害

● PWR (電源)

- 緑点灯 : 電源ON
- 消灯 : 電源OFF

● GIGA (速度モード)

- 青点灯 : 1Gbpsでリンクが確立
- 青点滅 : 1Gbpsでパケット送受信中
- 消灯 : 10Mbps、100Mbpsでリンクが確立
または端末未接続

● LINK/ACT. (リンク/送受信状態)

- 緑点灯 : 100Mbpsでリンクが確立
- 橙点灯 : 10Mbpsでリンクが確立
- 緑点滅 : 100Mbpsでパケット送受信中
- 橙点滅 : 10Mbpsでパケット送受信中
- 消灯 : 端末未接続

● FULL/COL. (接続モード)

- 緑点灯 : 全二重で動作
- 橙点灯 : 半二重で動作
- 橙点滅 : 半二重動作でコリジョン発生中
- 消灯 : 端末未接続

2. 設置

Switch-M24Gは、19インチラックへの取り付けが可能です。

また、使用する取り付け金具やネジ等は標準添付しておりますので、別途ご購入していただく必要はございません。

2.1. 19インチラックへの設置

付属品の取り付け金具とネジ（小）を取り出し、本装置の横にある4つの穴にネジで本装置と取付金具を接続してください。その後、付属品のネジ（大）もしくはラックに用意されているネジでしっかりと本装置をラックに設置してください。

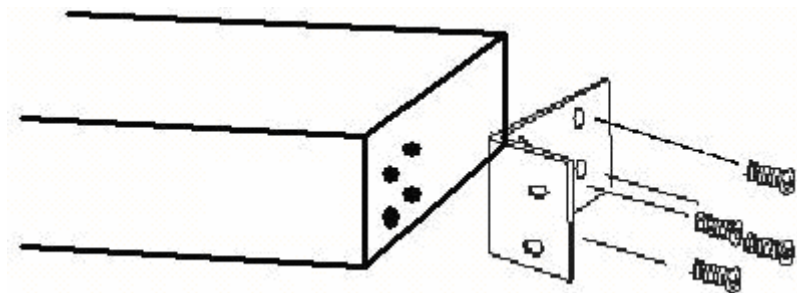


図2-1 19インチラックへの設置

3. 接続

3.1. ツイストペアポートを使用した接続

●接続ケーブル

接続には8極8心のRJ45モジュラプラグ付きのCat 5e準拠のストレートケーブル（ツイストペアケーブル）をご使用ください。

●ネットワーク構成

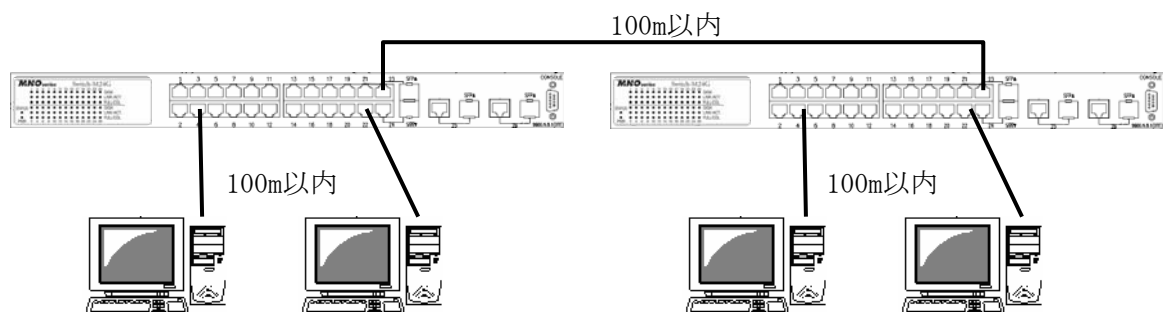


図3-1 接続構成例

各端末と本装置との間のケーブル長が100m以内に収まるように設置してください。

オートネゴシエーション機能をもった端末またはLAN機器を接続すると、各ポートは自動的に最適なモードに設定されます。

オートネゴシエーション機能を持たない機器または端末を接続すると、本装置は通信速度を自動的に判断し設定しますが、全/半二重は判断できないため半二重に設定されます。

オートネゴシエーション機能をもたない機器または端末を接続する際は、ポートの通信条件を固定するよう設定してください。設定方法の詳細については4.6.4項をご参照ください

ご注意：通信条件を固定に設定した場合はAuto-MDI/MDI-X機能は動作しませんので、スイッチ間の接続はクロスケーブルを使用する必要があります。

3.2. SFP拡張ポートを使用した接続

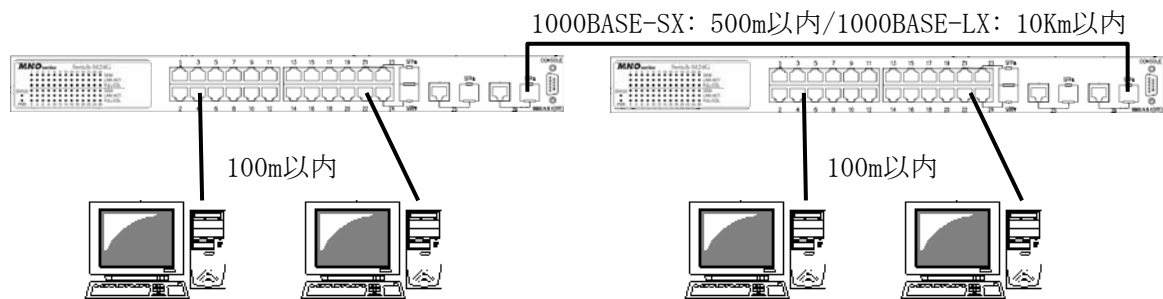


図3-2 光ファイバケーブル接続例

SFP拡張ポートへオプションのSFPモジュールを差し込むことにより、光ファイバでの接続が可能です。本製品の工場出荷時状態はツイストペアポートが有効ですが、リンクが確立した際に自動的にSFPポートが有効となります。

それぞれTXポートは相手側機器のRXポートへ、RXポートは相手側機器のTXポートへ接続してください。

弊社ではオプションとして下記のSFPモジュールをお取り扱いしております。

- ・ 1000BASE-SX SFPモジュール (品番: MN54021)
- ・ 1000BASE-LX SFPモジュール (品番: MN54023)
- ・ LX40 SFPモジュール (品番: MN54025)

3.3. 電源の接続

本装置を添付の電源コードを本体の電源ポートに接続し、電源コンセントに接続します。本装置は100V（50/60Hz）で動作します。電源スイッチがありません。電源コードを接続すると電源が投入され、動作を開始します。電源を切る際には電源コードをコンセントから抜いてください。

3.4. LEDの動作

3.4.1. 起動時のLEDの動作

本装置の電源を入れるとPWRのLEDが緑に点灯し、STATUSと全てのポートのLEDが一斉に点灯します。その後ハードウェアの自己診断を実行し、自己診断が完了すると電源LEDとステータスLEDが緑に点灯し、スイッチングハブとして動作します。

3.4.2. 動作中のLEDの動作

本装置には下記3つのポート毎に配置されているLEDにより動作中の各ポートの状態を確認することが可能です。

本体表示	名称
GIGA	速度モードLED
LINK/ACT.	リンク／送受信LED
FULL/COL.	全二重モード

各LEDの表示内容は以下のとおりです。

LED	動作	内容
GIGA	青点灯	1Gbpsでリンクが確立
	青点滅	1Gbpsでパケット送受信中
	消灯	10/100Mbpsで接続、または端末未接続
LINK/ACT.	緑点灯	100Mbpsでリンクが確立
	橙点灯	10Mbpsでリンクが確立
	緑点滅	100Mbpsでパケット送受信中
	橙点滅	10Mbpsでパケット送受信中
	消灯	端末未接続
FULL/COL.	緑点灯	全二重で動作
	橙点灯	半二重で動作
	橙点滅	半二重動作でコリジョン発生中
	消灯	端末未接続

4. 設定

本装置は電源を投入すると通常のスイッチングハブとして動作しますが、SNMP管理機能や特有の機能を使用するにはコンソールポート、Telnetのいずれかを使って設定をする必要があります。

ここでは、本装置の設定内容について説明します。

ご注意: TelnetによるアクセスはIPアドレスが設定されていなければ行えませんので、必ずはじめにコンソールポートから少なくともIPアドレスの設定を行ってからアクセスをしてください。IPアドレスの設定は4.6.2項を参照してください。

4.1. コンソールポートへの接続

DEC社製VT100互換の非同期端末、またはWindowsのハイパーターミナルのようなVT100互換端末エミュレーションソフトウェアが動作する端末を本装置のコンソールポートに接続します。

本装置側がD-sub9ピンメスのRS-232C準拠クロスケーブルの仕様になっています。

非同期端末の通信条件は、次のように設定します。

- 通信方式 : RS-232C (ITU-TS V. 24 準拠)
- エミュレーションモード : VT100
- 通信速度 : 9600bps
- データ長 : 8ビット
- ストップビット : 1ビット
- パリティ制御 : なし
- フロー制御 : なし
-

Windowsをお使いの場合は「付録B Windows ハイパーターミナルによるコンソールポート接続手順」をご覧ください。

4.2.ログイン

接続後、次のようなログイン画面が表示されます。次の画面が表示されない時は、通信条件等の設定に間違いがないかどうかをよく確認してください。コンソールからログインすると図4-2-1のような画面が表示されます。

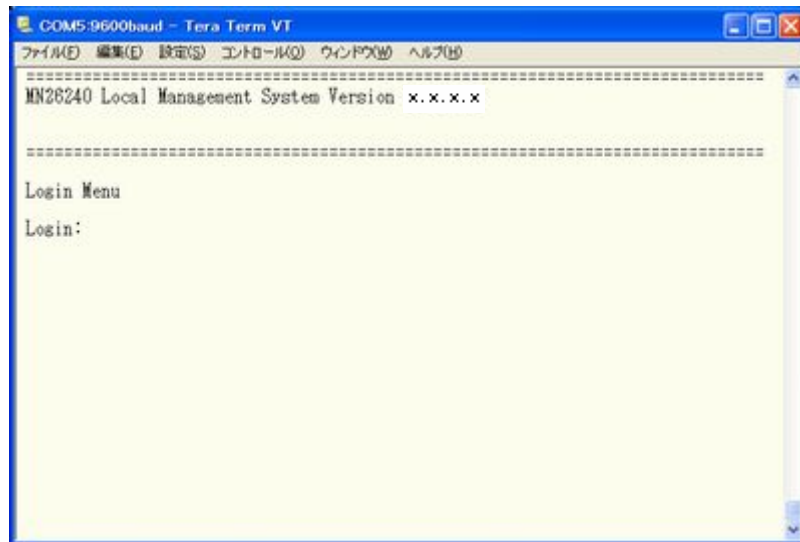


図4-2-1 ログイン画面（コンソール）

Telnetでログインすると図4-2-2のように「Remote Management System」と画面上部に表示されます。

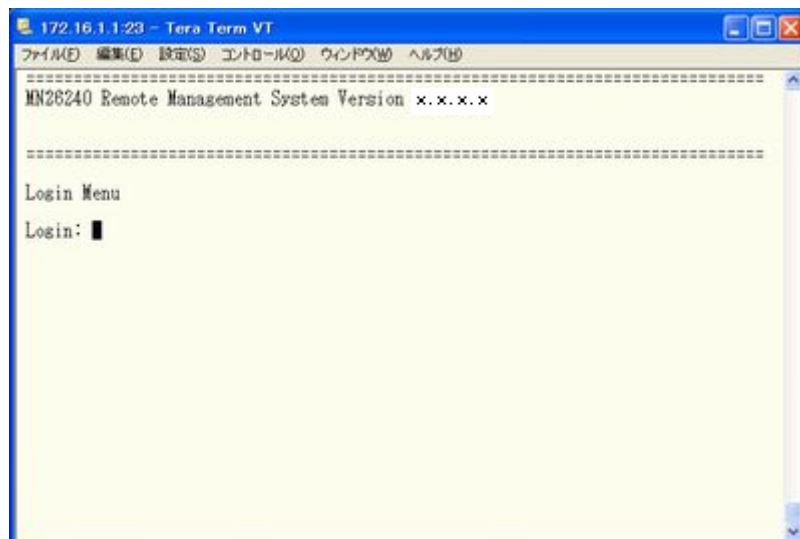


図4-2-2 ログイン画面（Telnet）

接続すると図4-2-1、図4-2-2のような画面が表示されますので、まずログイン名を入力してください。工場出荷時の設定は「manager」となっていますので、「manager」と入力し、リターンキーを押します。すると図4-2-3のようにパスワードを聞いてきます。工場出荷時に設定されているパスワードもログイン名と同じ「manager」となっていますので正しく入力し、リターンキーを押してください。

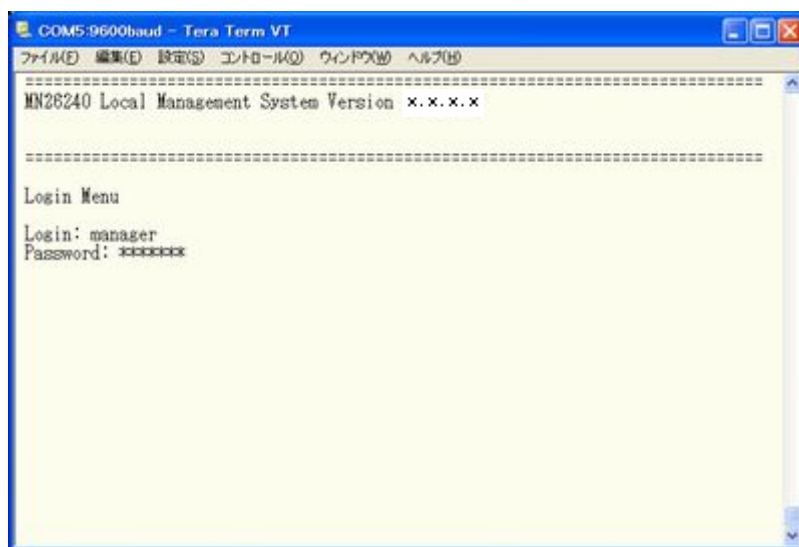


図4-2-3 パスワード入力

ログイン名およびパスワードは変更することができます。変更方法の詳細は4. 6. 6項をご参照ください。

ご注意: Telnetでは、最大4ユーザーまで同時にアクセス可能です。

4.3.画面の基本的な操作

本装置の各画面は、次のような構成になっています。

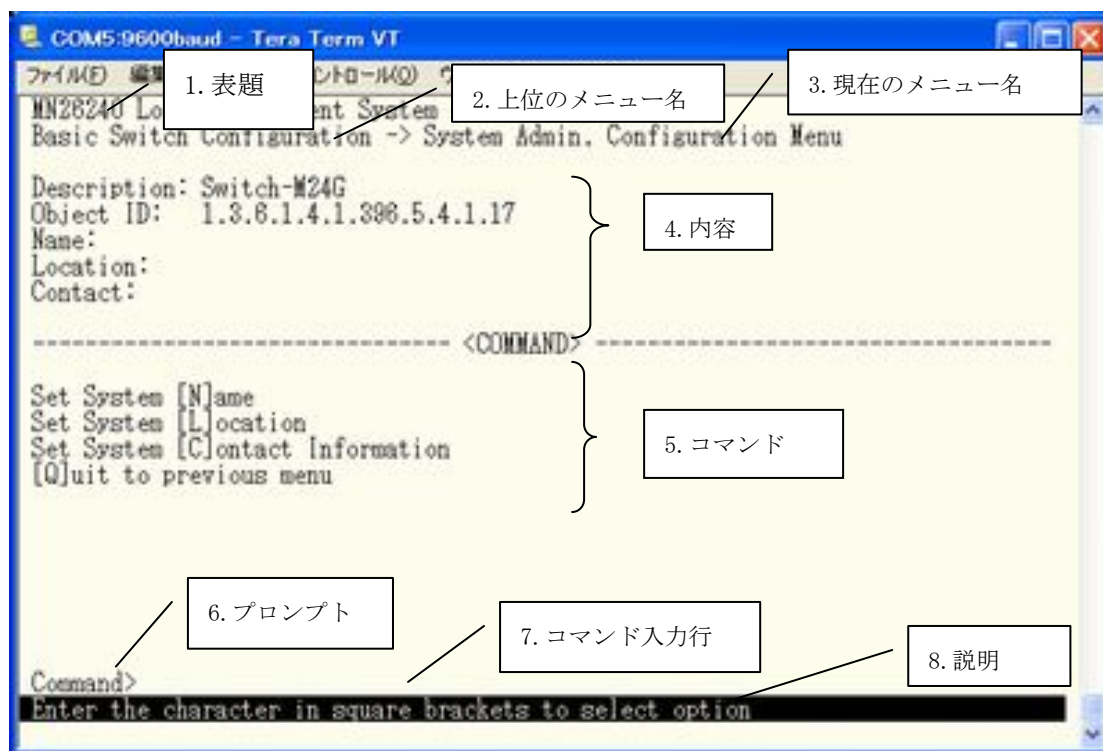


図4-3-1 画面構成

画面の説明

1.	表題	この画面の表題です。コンソールからアクセスしている場合は「Local Management System」、Telnetでアクセスしている場合は「Remote Management System」と表示されます。
2.	上位のメニュー名	ひとつ上位のメニューを表示します。後述のコマンド「Q」(上位のメニューに戻る)を使用すると、この欄に表示されているメニュー画面になります。
3.	現在のメニュー名	現在の画面のメニュー名を表します。
4.	内容	現在の画面での設定されている内容を表示します。
5.	コマンド	現在の画面で使用可能なコマンドを表示します。使用可能なコマンドは画面ごとに異なります。操作をするときはこの欄を参照してください。
6.	プロンプト	コマンド入力を行うと表示が切り替わり、次に入力を行う指示が表示されます。この欄の表示に従って入力してください。
7.	コマンド入力行	コマンドまたは設定内容を入力します。
8.	説明	現在の画面の説明および状況と入力の際のエラーが表示されます。

本装置では画面の操作はすべて文字を入力することによって行ないます。カーソル等での画面操作は行ないません。各画面で有効な文字は異なり、画面ごとにコマンド部分に表示されます。コマンド部分で[]で囲まれた文字がコマンドを表します。有効でないコマンドまたは設定を入力した場合は、説明欄にエラーメッセージが表示されます。

4.4. メインメニュー(Main Menu)

ログインが完了すると、図4-4-1のようなメインメニューが表示されます。

本装置のメニューはメインメニューとサブメニューから成り、メインメニューを中心としたツリー構造になっています。サブメニューに移動するには、コマンド文字を入力してください、戻る場合は、コマンド「Q」を入力すると上位のメニューに戻ります。現在どのメニューを表示しているかは、画面の2行目に表示されていますので、これをご確認ください。

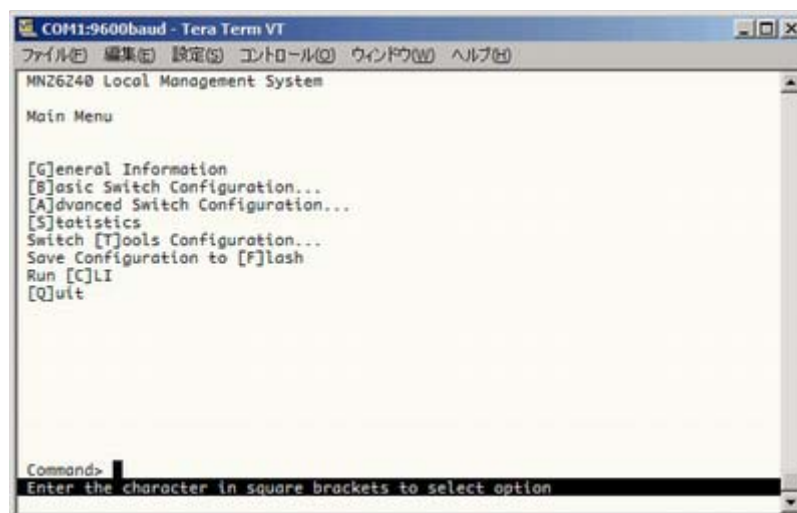


図4-4-1 メインメニュー

画面の説明

General information	本装置のハードウェアおよびソフトウェアの情報とアドレス設定の内容を表示します。
Basic Switch Configuration	本装置の基本機能(IPアドレス、SNMP、ポート設定など)の設定を行います。
Advanced Switch Configuration	本装置の特殊機能(VLAN、トランッキング、スパニングツリー、QoS、802.1x認証機能、IGMP Snooping、PoE給電機能など)の設定を行います。
Statistics	本装置の統計情報を表示します。
Switch Tools Configuration	本装置の付加機能(ソフトウェアアップグレード、設定の保存・読込、Ping、システムログなど)の設定を行います。
Save Configuration to Flash	本装置で設定した内容を内蔵メモリに書き込みます。
Run CLI	コマンドラインインタフェースに切り替えます。
Quit	メインメニューを終了し、ログイン画面に戻ります。

4.5. 基本情報の表示(General Information Menu)

「Main Menu」で「A」を選択すると図4-5-1のような「General Information Menu」になります。この画面を選択すると、本装置の情報を見ることができます。この画面は表示のみで設定する項目はありません。

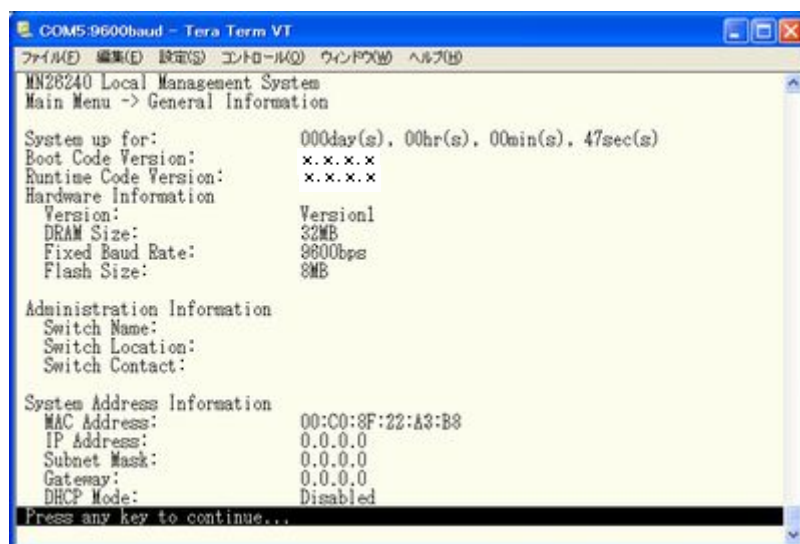


図4-5-1 スイッチの基本情報の表示

画面の説明

System up for	本装置が起動してからの通算の時間を表示します。	
Boot Code Version/Date	本装置のソフトウェアのバージョンを表示します。 ※4. 9. 1項に記載されているバージョンアップはRuntime codeのみが可能です。	
Runtime Code Version/Date		
Hardware Information	ハードウェアの情報を表示します。	
	Version	ハードウェアのバージョンを表示します。
	DRAM Size	実装されているDRAMの容量を表示します。
	Fixed Baud Rate	コンソールのボーレートを表示します。
	Flash Size	実装されているFlash memory の容量を表示します。
Administration Information	ここで表示される項目は4. 6. 1項の「System administration Configuration」で設定を行います。	
	Switch Name	設定した本装置の名前を表示します。工場出荷時には何も設定されていません。設定については4. 6. 1項を参照してください。
	Switch Location	設定した本装置の設置場所を表示します。工場出荷時には何も設定されていません。設定については4. 6. 1項を参照してください。
	Switch Contact	設定した連絡先を表示します。工場出荷時には何も設定されていません。設定については4. 6. 1項を参照してください。
System MAC Address, IP Address, Subnet Mask and Gateway	ここで表示される項目は4. 6. 2項の「System IP Configuration」で設定を行います。	
	MAC address	本装置のMACアドレスが表示されます。これは、個々の装置に固有の値で、変更することはできません。
	IP Address	本装置に設定されているIPアドレスを表示します。工場出荷時には何も設定されていませんので0. 0. 0. 0と表示されます。設定については4. 6. 2項を参照してください。
	Subnet Mask	本装置に設定されているサブネットマスクを表示します。工場出荷時には何も設定されていませんので0. 0. 0. 0と表示されます。設定については4. 6. 2項を参照してください。
	Default Gateway	デフォルトゲートウェイとなるルータのIPアドレスを表示します。工場出荷時には何も設定されていませんので0. 0. 0. 0と表示されます。設定については4. 6. 2項を参照してください。
	DHCP Mode	IPの取得にDHCPを利用するかどうかの設定を表示します。設定の変更については4. 6. 2項を参照してください。

4.6. 基本機能の設定(Basic Switch Configuration)

「Main Menu」から「B」を選択すると図4-6-1のような「Basic Switch Configuration Menu」の画面になります。この画面ではIPアドレス、SNMP、ポートの設定、スパニングツリー、アクセス制限等の設定を行います。

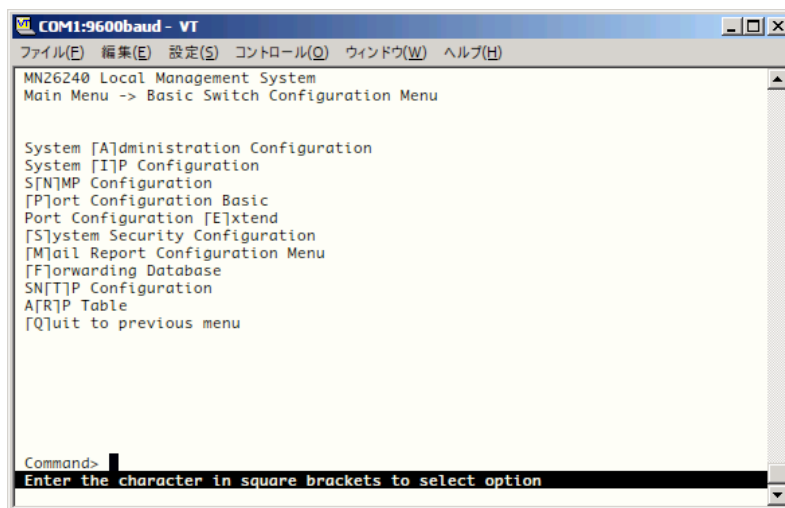


図4-6-1 スイッチの基本機能設定メニュー

画面の説明

System Administration Configuration	スイッチの名前、場所、連絡先の管理情報をメモできます。
System IP Configuration	IPアドレスに関するネットワーク情報の設定を行ないます。
SNMP Configuration	SNMPに関する設定を行ないます。
Port Configuration Basic	各ポートの設定を行ないます。
Port Configuration Extend	各ポートの名称設定を行ないます。
System Security Configuration	本装置へのアクセス条件等の設定を行ないます。
Mail Report Configuration	レポートメール送信機能の設定を行います。
Forwarding Database	MACアドレステーブルを表示します。
SNTTP Configuration	SNTTPを利用した時刻同期機能の設定を行ないます。
Quit to previous menu	メインメニューに戻ります。

4.6.1. 管理情報の設定(System Administration Configuration)

「Basic Switch Configuration Menu」でコマンド「A」を選択すると、図4-6-2のような「System Administration Configuration Menu」の画面になります。この画面では、機器名称等の管理情報を設定します。

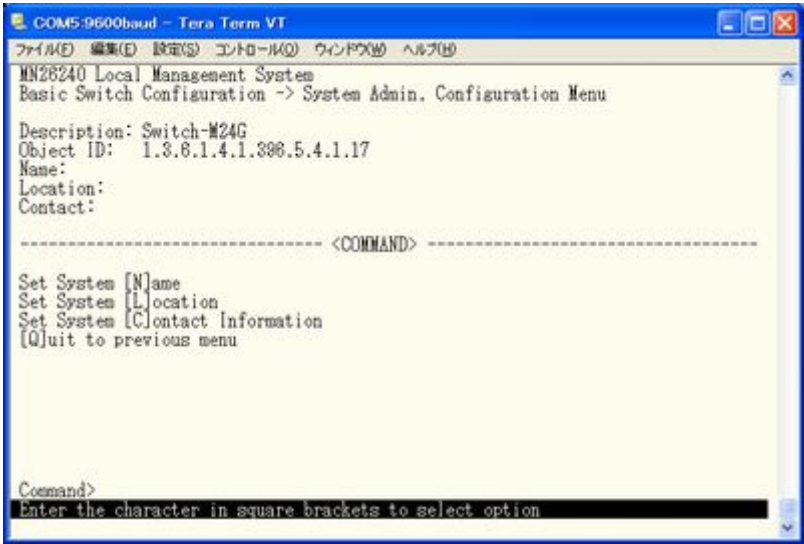


図4-6-2 管理情報の設定

画面の説明

Description	システムの説明です。変更できません
Object ID	MIBの対応するIDを表示します。変更できません。
Name	システム名を表示します。工場出荷時には何も設定されていません。
Location	設置場所を表示します。工場出荷時には何も設定されていません。
Contact	連絡先を表示します。工場出荷時には何も設定されていません。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	システム名の設定・変更を行います。
	「N」と入力するとプロンプトが「Enter system name>」となりますので、スイッチを区別するための名前を半角50文字以内で入力してください。
L	設置場所情報の設定・変更を行います。
	「L」と入力するとプロンプトが「Enter system location>」となりますので、スイッチの設置場所を区別するための名前を半角50文字以内で入力してください。
C	連絡先情報の設定・変更を行います。
	「C」と入力するとプロンプトが「Enter system contact>」となりますので、連絡先や問い合わせ先等の情報を半角50文字以内で入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.2. IPアドレスに関する設定(System IP Configuration)

「Basic Switch Configuration Menu」でコマンド「I」を選択すると、図4-6-3のような「System IP Configuration Menu」の画面になります。この画面では、本装置のIPアドレスに関する設定を行います。

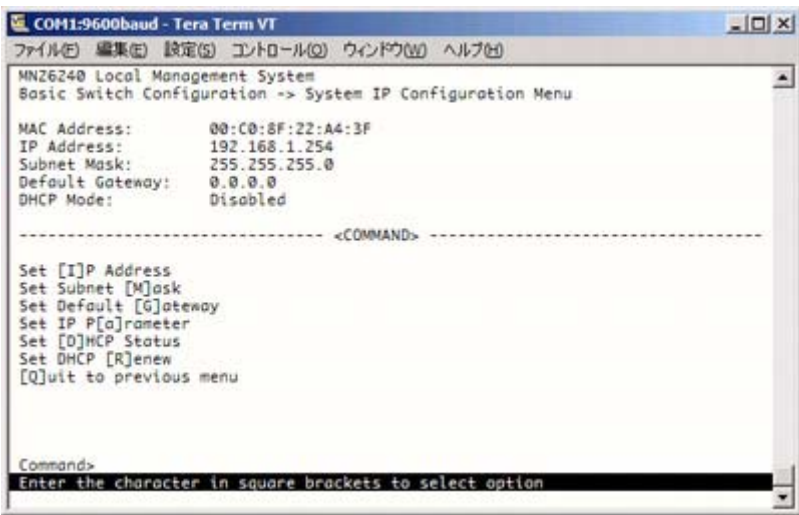


図4-6-3 IPアドレスの設定

画面の説明

MAC Address	本装置のMACアドレスが表示されます。これは装置固有の値であるため変更できません。	
IP Address	現在設定されているIPアドレスを表示します。 工場出荷時には何も設定されていないので0.0.0.0と表示されます。	
Subnet Mask	現在設定されているサブネットマスクを表示します。工場出荷時には何も設定されていないので0.0.0.0と表示されます。	
Default Gateway	現在設定されているデフォルトゲートウェイとなるルータのIPアドレスを表示します。 工場出荷時には何も設定されていないので0.0.0.0と表示されます。	
DHCP Mode	起動時にDHCPサーバにIPアドレス取得の要求をだす設定になっているかを表示します。 工場出荷時はDisabledに設定されています。	
	Enabled	起動時にDHCPサーバにIPアドレス取得の要求を行ないます。
	Disabled	起動時にDHCPサーバにIPアドレス取得の要求を行ないません。
DHCP Renew	IPアドレスをDHCPサーバから再取得します。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

I	IPアドレスの設定・変更を行います。	
		「I」と入力するとプロンプトが「Enter new IP Address>」となりますので、スイッチのIPアドレスを入力してください。
M	サブネットマスクの設定・変更を行います。	
		「M」と入力するとプロンプトが「Enter new IP subnet mask>」となりますので、サブネットマスクを入力してください。
G	デフォルトゲートウェイとなるルータのIPアドレスの設定・変更を行います。	
		「G」と入力するとプロンプトが「Enter new gateway IP>」となりますので、デフォルトゲートウェイとなるルータのIPアドレスを入力してください。
A	IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定を一括で行います。	
		「A」と入力するとプロンプトが「Enter IP address>」となりますので、スイッチのIPアドレスを入力してください。次にプロンプトが「Enter subnet mask>」となりますので、サブネットマスクを入力してください。次にプロンプトが「Enter new gateway IP address>」となりますので、デフォルトゲートウェイとなるルータのIPアドレスを入力してください。
D	DHCPサーバからのIPアドレスの自動取得モードの有効・無効を設定します。	
	E	自動取得を有効にします。(ネットワーク上にDHCPサーバが稼働中の場合のみ動作します。)
	D	自動取得を無効にします。
Q	上位のメニューに戻ります。	

ご注意: この項目を設定しなければSNMP管理機能とTelnetによるリモート接続は使用できません。必ず設定してください。どのように設定したら良いか分からない場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。ネットワーク上の他の装置のIPアドレスと重複してはいけません。また、この項目には本装置を利用するサブネット上の他の装置と同じサブネットマスクとデフォルトゲートウェイを設定してください。IPアドレスと組み合わせて、ネットワーク上の固有の装置の識別に使用されます。

4.6.3. SNMPの設定(SNMP Configuration)

「Basic Switch Configuration Menu」でコマンド「N」を選択すると、図4-6-4のような「SNMP Configuration Menu」の画面になります。この画面では、SNMPエージェントとしての設定を行います。

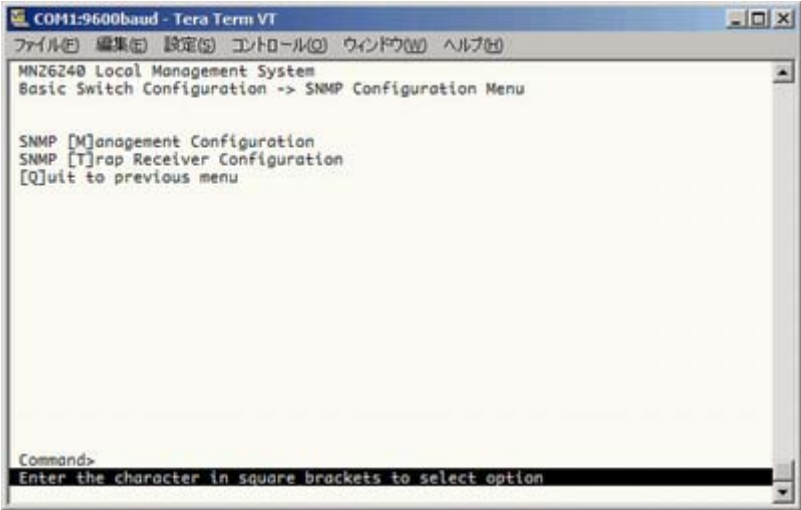


図4-6-4 SNMPの設定

画面の説明

SNMP Management Configuration	SNMPマネージャに関する設定を行います。
SNMP Trap Receiver Configuration	SNMPトラップ送信に関する設定を行います。
Quit to previous menu	上位のメニューに戻ります。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

M	SNMPマネージャの設定を行います。
	「M」と入力するとSNMP Management Configuration Menuに移動します。
T	トラップ送信の設定を行います。
	「T」と入力するとSNMP Trap Receiver Configuration Menuに移動します。
Q	SNMP Configuration Menuを終了し、上位のメニューに戻ります。

4.6.3.a. SNMPマネージャの設定(SNMP Management Configuration)

「SNMP Configuration Menu」でコマンド「M」を選択すると、図4-6-5のような「SNMP Management Configuration Menu」の画面になります。この画面では、SNMPマネージャの設定を行います。

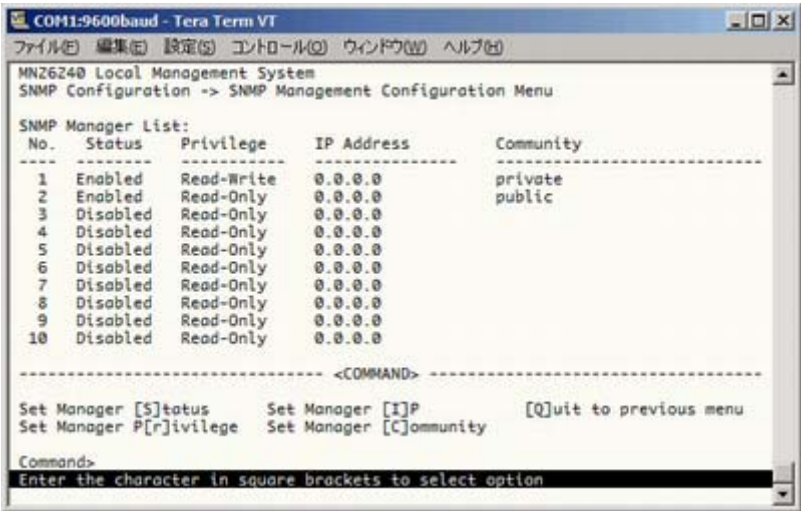


図4-6-5 SNMPマネージャの設定

画面の説明

SNMP Manager List	現在設定されているSNMPマネージャの設定を表示します。		
	No.	SNMPマネージャのエントリ番号です。	
	Status	SNMPマネージャの状態を表示します	
		Enabled	SNMPマネージャが有効であることを表します。
		Disabled	SNMPマネージャは無効であることを表します。
	Privilege	SNMPマネージャのアクセス権限を表示します。	
		Read-Write	読み書きともに可能です。
		Read-Only	読み取りのみ可能です。
	IP Address	トラップ送信先のIPアドレスを表示します。	
	Community	トラップ送信のためのコミュニティ名を表示します。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	SNMPマネージャの状態を設定します。
	「S」と入力すると、プロンプトが「Enter manager entry number>」に変わりますので、設定を行うSNMPマネージャのエントリ番号を入力してください。その後、プロンプトが「Enabled or Disabled SNMP manager (E/D)>」に変わりますので、SNMPマネージャを有効にする場合は「E」、無効にする場合は「D」を入力してください。
I	SNMPマネージャのIPアドレスを設定します。
	「I」と入力すると、プロンプトが「Enter manager entry number>」に変わりますので、設定を行うSNMPマネージャのエントリ番号を入力してください。その後、プロンプトが「Enter IP Address for manager>」に変わりますので、IPアドレスを入力してください。
R	SNMPマネージャのアクセス権限を設定します。
	「R」と入力すると、プロンプトが「Enter manager entry number>」に変わりますので、設定を行うSNMPマネージャのエントリ番号を入力してください。その後、プロンプトが「Enter the selection>」に変わりますので、読込専用 (Read-only) の場合は「1」を、読み書き可能 (Read-write) の場合は「2」を入力してください。
C	SNMPマネージャのコミュニティ名を設定します。
	「C」と入力すると、プロンプトが「Enter manager entry number>」に変わりますので、設定を行うSNMPマネージャのエントリ番号を入力してください。その後、プロンプトが「Enter community name for manager>」に変わりますので、コミュニティ名を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.3.b. トラップ送信の設定(SNMP Trap Receiver Configuration)

「SNMP Configuration Menu」でコマンド「T」を選択すると、図4-6-6のような「SNMP Trap Receiver Configuration Menu」の画面になります。この画面では、SNMPトラップ送信の設定を行います。

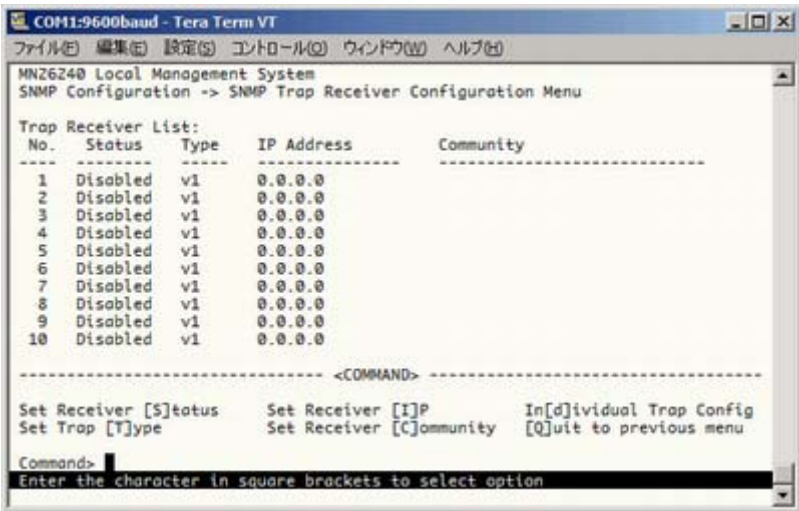


図4-6-6 SNMPトラップ送信の設定

画面の説明

Trap Receiver List	現在設定されているトラップ送信先のIPアドレスとコミュニティ名を表示します。		
	No.	トラップ送信先のエントリ番号です。	
	Status	トラップを送信するかどうかを表示します	
		Enabled	トラップを送信します。
		Disabled	トラップを送信しません。(工場出荷時設定)
	Type	トラップの種類を表示します。	
		V1	SNMP v1のトラップを送信します。(工場出荷時設定)
		V2	SNMP v2のトラップを送信します。
	IP Address	トラップ送信先のIPアドレスを表示します。	
	Community	トラップ送信する場合の、現在設定されているコミュニティ名を表示します。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	トラップ送信先の有効／無効を設定します。
	「S」と入力すると、プロンプトが「Enter manager entry number>」に変わりますので、設定を行うトラップ送信先のエントリ番号を入力してください。その後、プロンプトが「Enabled or Disabled Trap Receiver (E/D)>」に変わりますので、SNMPマネージャを有効にする場合は「E」、無効にする場合は「D」を入力してください。
I	トラップ送信先のIPアドレスを設定します。
	「I」と入力すると、プロンプトが「Enter manager entry number>」に変わりますので、設定を行うトラップ送信先のエントリ番号を入力してください。その後、プロンプトが「Enter IP Address for trap receiver>」に変わりますので、IPアドレスを入力してください。
D	リンク状態変更時のトラップ送出について設定します。
	「D」と入力すると、画面が「EnableDisabled Individual Trap Menu」に切り替わります。詳細な設定については次項(4.6.3.c)を参照ください。
T	トラップの種類を設定します。
	「T」と入力すると、プロンプトが「Enter manager entry number>」に変わりますので、設定を行うトラップ送信先のエントリ番号を入力してください。その後、プロンプトが「Enter the selection>」に変わりますので、トラップをSNMP v1とする場合は「1」を、SNMP v2とする場合は「2」を入力してください。
C	トラップ送信先のコミュニティ名を設定します。
	「C」と入力すると、プロンプトが「Enter manager entry number>」に変わりますので、設定を行うトラップ送信先のエントリ番号を入力してください。その後、プロンプトが「Enter community name for trap receiver>」に変わりますので、コミュニティ名を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.3.c. リンク状態変更時のトラップ送出(EnableDisabled Individual Trap Menu)

「SNMP Trap Receiver Configuration」でコマンド「d」を選択すると、図4-6-7のような「EnableDisabled Individual Trap Menu」の画面になります。この画面では、各ポートのリンク状態が変更された際のトラップ送出の設定を行います。

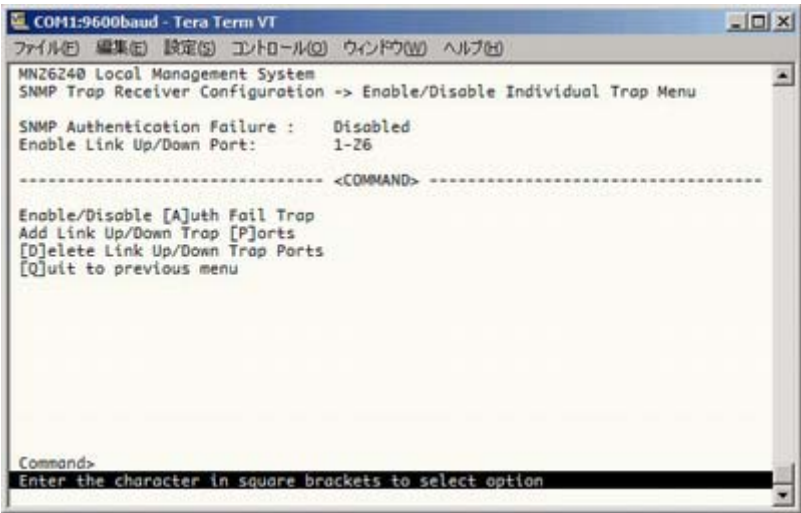


図4-6-7 リンク状態変更時のトラップ送出の設定

画面の説明

Authent Failure	リンク状態変更時のトラップ送出の有効・無効の設定を表示します。	
	Enabled	トラップ送出を有効にします。
	Disabled	トラップ送出を無効にします。(工場出荷時設定)
Enabled Link Up/Down Port	リンク状態が変更された際、トラップ送出がされる対象のポート番号を表示します。工場出荷時は全ポートに設定されています。	
PoE Trap Control	PoEトラップコントロールを有効・無効の設定を表示します。	
	Enabled	トラップ送出を有効にします。
	Disabled	トラップ送出を無効にします。(工場出荷時設定)

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

A	リンク状態変更時のトラップ送出の有効／無効を設定します。
	「A」と入力すると、プロンプトが「Enabled or Disabled SNMP Authentication trap (E/D)>」に変わりますので、トラップ送出を有効にする場合は「E」、無効にする場合は「D」を入力してください。
P	リンク状態変更時のトラップ送出の対象ポートを追加します。
	「P」と入力すると、プロンプトが「Enter port number>」に変わりますので、トラップ送出の対象としたいポート番号を入力してください。
D	リンク状態変更時のトラップ送出の対象ポートを削除します。
	「D」と入力すると、プロンプトが「Enter port number>」に変わりますので、トラップ送出の対象外としたいポート番号を入力してください。
E	PoE Global Configuration Menuで設定したPower Usage Threshold For Sending Trapのパーセンテージを超えた場合トラップ送出をします。
	「E」と入力すると、プロンプトが「Enabled or Disabled PoE trap (E/D)>」に変わりますので、トラップ送出を有効にする場合は「E」、無効にする場合は「D」を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.4. 各ポートの設定(Port Configuration Basic)

「Basic Switch Configuration Menu」でコマンド「p」を選択すると、図4-6-8のような「Port Configuration Menu」の画面になります。この画面では、各ポートの状態表示、及びポートの設定を行います。

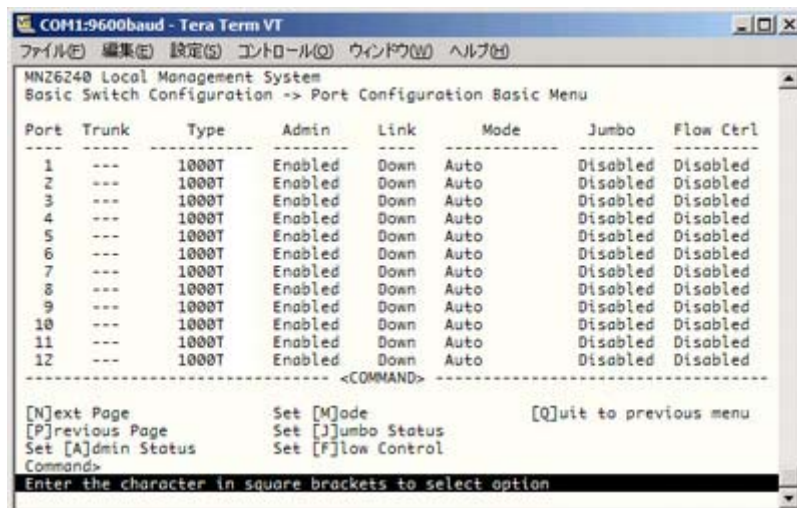


図4-6-8 各ポートの設定

画面の説明

Port	ポート番号を表します。	
Trunk	トランキングの設定状態をグループ番号で表示します。	
Type	現在のポートの接続形態を表します。	
	1000T	1000BASE-Tを表します。（通常時）
	1000X	SFPを表します。（SFPにてリンク確立時）
Admin	現在のポートの状態を表します。工場出荷時はすべて「Enabled」に設定されています。	
	Enabled	ポートが使用可能です。
	Disabled	ポートが使用不可です。
Link	現在のリンクの状態を表します。	
	Up	リンクが正常に確立した状態を表します。
	Down	リンクが確立していない状態を表します。
Mode	通信速度、全/半二重の設定状態を表します。工場出荷時はすべて「Auto」に設定されています。	
	Auto	オートネゴシエーションモード
	1000F	1Gbps全二重
	100-FDx (100F)	100Mbps全二重
	100-HDx (100H)	100Mbps半二重
	10-FDx (10F)	10Mbps全二重
	10-HDx (10H)	10Mbps半二重
Jumbo	ジャンボフレームの設定状態を表します。工場出荷時は全て「Disabled」に設定されています。	
	Enabled	ジャンボフレームが有効であることを表します。
	Disabled	ジャンボフレームが無効であることを表します。
Flow Ctrl	フローコントロールの設定状態を表します。工場出荷時は全て「Disabled」に設定されています。	
	Enabled	フローコントロールが有効であることを表します。
	Disabled	フローコントロールが無効であることを表します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

N	次のページを表示します。	
		「N」と入力すると次のポートを表示します。
P	前のページを表示します。	
		「P」と入力すると前のポートを表示します。
S	各ポートを有効か無効か (Enable/Disabled) に設定できます。	
		「S」を入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」となりますので、変更したいポート番号を入力してください。全ポートを一度に変更する場合はポート番号を「0」と入力してください。すると、プロンプトが「Enabled or Disabled port # (E/D)>」となりますので、有効 (Enabled) にする場合は「E」を無効 (Disabled) にする場合は「D」を入力してください。入力が完了し、設定が変更されると上部の表示も自動的に変更されます。
M	各ポートの速度と全／半二重を設定できます。	
		「M」を入力するとプロンプトが「Enter port number >」となりますので、変更したいポート番号を入力してください。全ポートを一度に変更する場合はポート番号を「0」と入力してください。すると、プロンプトが「Enter mode for port # (A/N)>」となりますので、オートネゴシエーションモードを使用する場合は「A」、使用しない場合は「N」を選択してください。「N」を選択した場合、プロンプトが「Enter speed for port # (10/100)>」となりますので、設定したい通信速度を入力してください。指定するとプロンプトが「Enter duplex for port # (F/H)>」に変わりますので、全二重の場合は「F」 (Full duplex)、半二重の場合は「H」 (Half duplex) を指定してください。入力が完了し、設定が変更されると上部の表示も自動的に変更されます。
	Mode	A オートネゴシエーションモードに設定 N オートネゴシエーションモードを使用しない (Gigaの速度の固定は未サポート)
	Speed	10 10Mbpsに設定
		100 100Mbpsに設定
	Duplex	F 全二重に設定
		H 半二重に設定
F	フローコントロールを使用するかどうかの設定を行うことができます。	
		「F」を入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」となりますので、変更したいポート番号を入力してください。全ポートを一度に変更する場合はポート番号を「0」と入力してください。すると、プロンプトが「Enabled or Disabled flow control for port # (E/D)>」となりますので、使用する (Enabled) 場合は「E」を、使用しない (Disabled) 場合は「D」を入力してください。入力が完了し、設定が変更されると上部の表示も自動的に変更されます。
Q	上位のメニューに戻ります。	

ご注意: この画面はポートの状態を表示していますが自動的に更新されません。最新の
状態を表示するには何らかのキー入力を行い、画面の更新をしてください。

4.6.5. 各ポートの名称設定(Port Configuration Extend)

「Basic Switch Configuration Menu」でコマンド「e」を選択すると、図4-6-9のような「Port Configuration Menu」の画面になります。この画面では、各ポートの状態表示、及びポートの設定を行います。

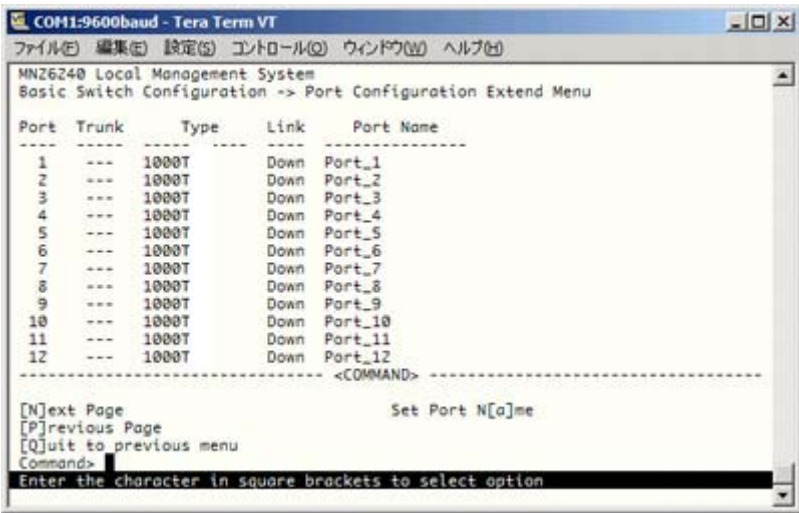


図4-6-9 各ポートの設定

画面の説明

Port	ポート番号を表します。	
Trunk	トランキングの設定状態をグループ番号で表示します。	
Type	現在のポートの接続形態を表します。	
	1000T	1000BASE-Tを表します。（通常時）
	1000X	1000BASE-SX/LXを表します。（SFPにてリンク確立時）
Link	現在のリンクの状態を表します。	
	Up	リンクが正常に確立した状態を表します。
	Down	リンクが確立していない状態を表します。
Port Name	ポートの名称を表します。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

N	次のページを表示します。	
		「N」と入力すると次のポートを表示します。
P	前のページを表示します。	
		「P」と入力すると前のポートを表示します。
A	各ポートに名称を設定できます。	
		「A」を入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」となりますので、変更したいポート番号を入力してください。全ポートを一度に変更する場合はポート番号を「0」と入力してください。すると、プロンプトが「Enter port name string>」となりますので、名称を入力してください。入力が完了し、設定が変更されると上部の表示も自動的に変更されます。
Q	上位のメニューに戻ります。	

ご注意： この画面はポートの状態を表示していますが自動的に更新されません。最新の
状態を表示するには何らかのキー入力を行い、画面の更新をしてください。

4.6.6. アクセス条件の設定(System Security Configuration)

「Basic Switch Configuration Menu」でコマンド「S」を選択すると、図4-6-10のような「System Security Configuration」の画面になります。この画面では、設定・管理時に本装置にアクセスする際の諸設定を行います。

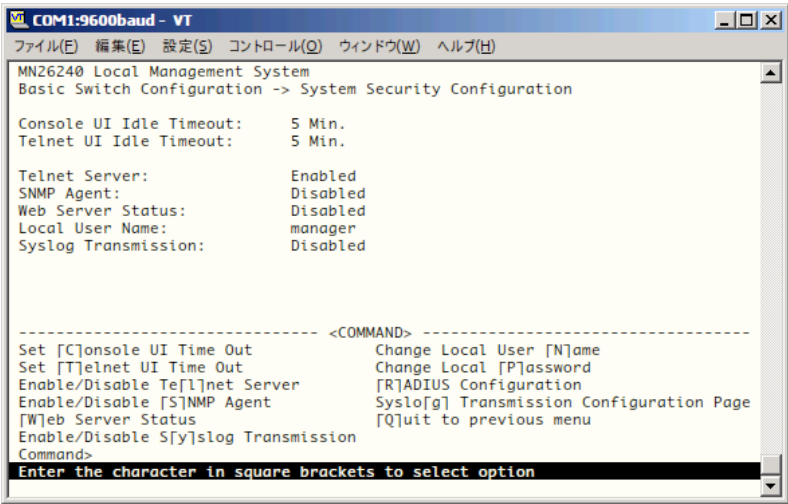


図4-6-10 アクセス条件の設定

画面の説明

Console UI Idle Time Out	コンソールで接続しているときに、何も入力があった場合のセッションが切れるまでに設定されている時間を分単位で表示します。 工場出荷時は5分に設定されています。	
Telnet UI Idle Time Out	Telnetでリモート接続しているときに、何も入力があった場合のセッションが切れるまでに設定されている時間を分単位で表示します。 工場出荷時は5分に設定されています。	
Telnet Server	Telnetでのアクセスを可能にするかどうかを表示します。 工場出荷時は「Enabled」に設定されています。	
	Enabled	アクセス可
	Disabled	アクセス不可
SNMP Agent	SNMPでのアクセスを可能にするかどうかを表示します。 工場出荷時は「Disabled」に設定されています。	
	Enabled	アクセス可
	Disabled	アクセス不可
Web Server Status:	Webでのアクセスを可能にするかどうかを表示します。 工場出荷時は「Disabled」に設定されています。	
	Enabled	アクセス可
	Disabled	アクセス不可
Local User Name	現在設定されているログインする際のユーザー名を表示します。 工場出荷時は「manager」に設定されています。	
Syslog Transmission	Syslogサーバへシステムログを送信することが可能かどうかを表示します。 工場出荷時は「Disabled」に設定されています。	
	Enabled	Syslogサーバへシステムログを送信します
	Disabled	Syslogサーバへシステムログを送信しません

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

C	コンソールで接続しているときの何も入力がなかった場合に自動的に接続が切断されるまでの時間を設定します。
	「C」と入力するとプロンプトが「Enter console idle timeout>」と変わります。ここで0～60(分)までの値を設定してください。0と設定した場合は自動切断なくなります。
T	Telnetで接続しているときの何も入力がなかった場合に自動的に接続が切断されるまでの時間を設定します。
	「T」と入力するとプロンプトが「Enter telnet idle timeout>」と変わります。ここで1～60(分)までの値を設定してください。
N	ログインする際のユーザー名を変更します。
	「N」と入力するとプロンプトが「Enter current password>」と変わりますので、現在のパスワードを入力してください。パスワードが正しい場合、プロンプトが「Enter new name>」と変わりますので、新しいユーザー名を半角12文字以内で入力してください。
P	ログインする際のパスワードを変更します。
	「P」と入力するとプロンプトが「Enter old password>」と変わりますので、現在のパスワードを入力してください。パスワードが正しい場合、プロンプトが「Enter new password>」と変わりますので、新しいパスワードを半角12文字以内で入力してください。入力すると確認のためプロンプトが「Retype new password>」となりますので新しいパスワードを再度入力してください。
R	802.1xポートベース認証で使用するRADIUS(Remote Authentication Dial In User Service)サーバのアクセス設定を行います。
	「R」と入力するとRADIUS Configuration Pageに移動します。ここでの設定については次項(4.6.5.a)を参照してください。
L	Telnetでのアクセスを可能にするかどうかを設定します。
	「L」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled telnet server(E/D)>」と変わります。アクセス可能にするには「E」を、アクセスできなくするには「D」を入力してください。
S	SNMPでのアクセスを可能にするかどうかを設定します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled SNMP Agent(E/D)>」と変わります。アクセス可能にするには「E」を、アクセスできなくするには「D」を入力してください。
Y	Syslogサーバへシステムログを送信するかどうかを設定します。
	「Y」と入力するとプロンプトが「able or Disable Syslog Transmission (E/D)>」と変わります。Syslogサーバへシステムログを送信する設定にするならば「E」を、送信しないならば「D」を入力してください。
G	Syslogサーバへシステムログを送信する条件の設定を行ないます。
	「G」と入力するとSyslog Transmission Configuration Pageに移動します。ここでの設定については次項(4.6.6.a)を参照してください。
W	Webでのアクセスを可能にするかどうかを設定します。
	「W」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled web server (E/D)>」と変わります。アクセス可能にするには「E」を、アクセスできなくするには「D」を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.6.a. RADIUSの設定(RADIUS Configuration)

「System Security Configuration」でコマンド「R」を選択すると、図4-6-11のような「RADIUS Configuration Page」の画面になります。この画面では、802.1xポートベース認証で使用するRADIUSサーバへのアクセス設定を行います。

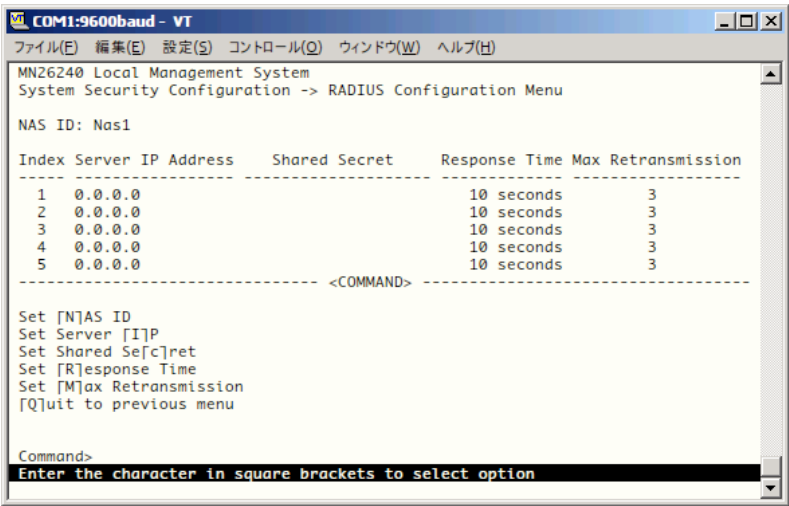


図4-6-11 RADIUSの設定

画面の説明

NAS ID	認証ID(NAS Identifier)を表示します。
Server IP Address	RADIUSサーバのIPアドレスを表示します。 工場出荷時は設定されていないので、0.0.0.0と表示されます。
Shared Secret	認証の際に用いる共通鍵(Shared Secret)を表示します。サーバ側とクライアント側で同じ設定にする必要があり、通常システム管理者が設定します。 工場出荷時は設定されていません。
Response Time	RADIUSサーバへの認証要求に対する最大待機時間を表示します。 工場出荷時は10秒に設定されています。
Maximum Retransmission	RADIUSサーバへの認証要求が再送される回数を表示します。 工場出荷時は3回に設定されています。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

N	NAS IDを設定します。
	「I」を入力するとプロンプトが「Enter NAS ID>」に変わりますので、半角16文字以内で入力してください。
I	RADIUSサーバのIPアドレスを設定します。
	「A」を入力すると表示が「Enter IP Address for radius server>」となりますので、IPアドレスを入力してください。
C	RADIUSサーバの共通鍵を設定します。
	「C」を入力するとプロンプトが「Enter secret string for server>」に変わりますので、半角20文字以内で入力してください。
R	認証要求に対してRADIUSサーバが応答するまでの待機時間を設定します。
	「R」を入力するとプロンプトが「Enter response time>」に変わりますので、1～120(秒)までの値を入力してください。
M	認証要求が再送される最高回数を設定します。
	「M」を入力するとプロンプトが「Enter maximum retransmission>」に変わりますので、1～254までの整数を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.6.b. Syslog Transmissionの設定(Syslog Transmission Configuration)

「System Security Configuration」でコマンド「G」を選択すると、図4-6-12のような「Syslog Transmission Configuration Page」の画面になります。この画面では、システムログを送信するSyslogサーバ情報の設定を行います。

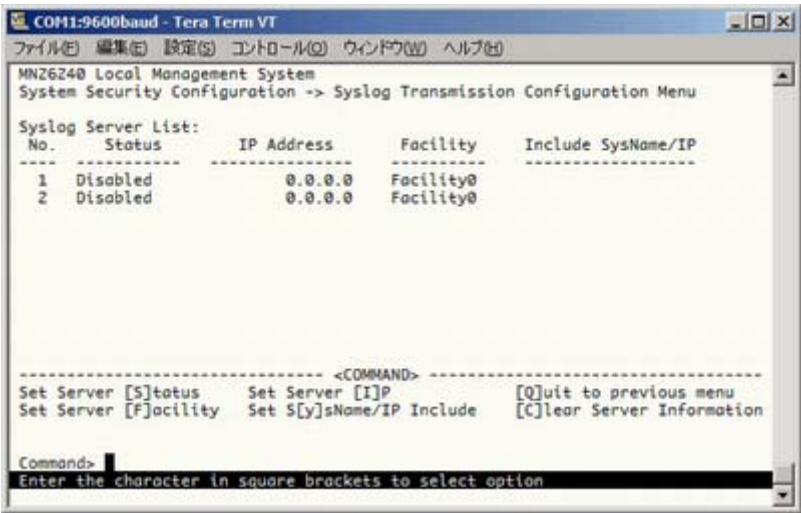


図4-6-12 Syslog Transmissionの設定

画面の説明

Status	Syslog Transmissionの状態を表示します。	
IP Address	SyslogサーバのIPアドレスを表示します。	
Facility	Facilityの値を表示します。	
Include SysName/IP	追加するヘッダ情報を表示します。	
	SysName	送信するシステムログに本装置のSysNameを追加します。
	IP address	送信するシステムログに本装置のIP Addressを追加します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

S	Syslog Transmissionの状態を設定します。
	「S」と入力すると表示が「Enter manager entry number>」となりますので、設定したいNo.を入力してください。するとプロンプトが「Enabled or Disabled Server (E/D)>」と変わりますので、有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。
F	Facilityを設定します。
	「F」と入力すると表示が「Enter manager entry number>」となりますので、設定したいNo.を入力してください。するとプロンプトが「Enter Server Facility>」と変わりますので、0～7(Local0～Local7)までの値を入力してください。
I	SyslogサーバのIPアドレスを設定します。
	「I」と入力すると表示が「Enter manager entry number>」となりますので、設定したいNo.を入力してください。するとプロンプトが「Enter IP address for manager>」と変わりますので、SyslogサーバのIPアドレスを入力してください。
Y	送信するシステムログに追加する情報を設定します。
	「Y」と入力すると表示が「Enter manager entry number>」となりますので、設定したいNo.を入力してください。するとプロンプトが「Enter Include Information>」と変わりますので、本装置のSysNameを追加する場合は「S」を、IPアドレスを追加する場合は「I」を、追加しない場合は「N」を入力してください。
C	Syslog Transmissionの設定情報を初期化します。
	「C」と入力すると表示が「Enter manager entry number>」となりますので、設定したいNo.を入力してください。するとプロンプトが「Clear Syslog Server information>」と変わりますので、初期化する場合は「Y」を、初期化しない場合は「N」を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.7. E-mail通知機能の設定(Mail Report Configuration)

「Basic Switch Configuration Menu」でコマンド「M」を選択すると、図4-6-13のような「Mail Report Configuration Menu」の画面になります。この画面では、E-mailを用いた障害や動作情報の通知を設定することができます。

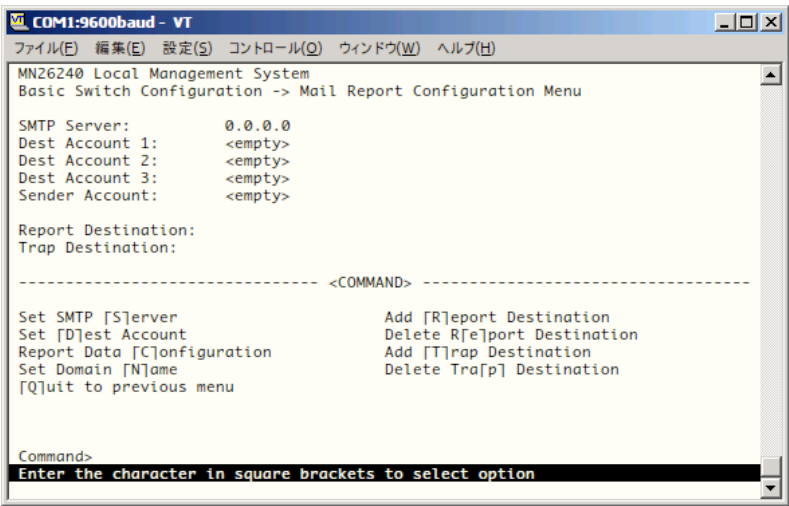


図4-6-13 メールレポート機能の設定

画面の説明

SMTP Server1	SMTPサーバのアドレスを表します。
Dest Account1	送信先のメールアドレスを表します。
Dest Account2	
Dest Account3	
Sender Account	送信元のメールアドレスを表します。
Report Destination	レポートの送信対象である送信先アカウントの番号を表します。
Trap Destination	トラップの送信対象である送信先アカウントの番号を表します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

S	SMTPサーバのアドレスを設定します。 「S」を入力するとプロンプトが「Enter new SMTP server>」に変わりますので、設定するアドレスを入力してください。
D	送信先のメールアドレスを設定します。 「D」を入力するとプロンプトが「Enter destination account entry number>」に変わりますので、設定したいアドレスの番号を1-3の範囲で入力してください。その後、プロンプトが「Add or Delete or Set destination account E-mail address (A/D/M)>」に変わりますので、追加および変更をする場合はそれぞれ「A」か「M」を入力後に設定アドレスを、削除する場合は「D」を入力してください。
C	「Report Data Configuration」を表示します。詳しくは次項(4.7.6.a.)を参照してください。
N	送信元メールアドレスのドメイン名を設定します。 「N」を入力するとプロンプトが「Enter domain name>」に変わりますので、設定するドメインを入力してください。」
R	レポートの送信先を設定します。 「R」を入力するとプロンプトが「Enter report destination entry number>」に変わりますので、レポートの送信先に設定するアカウントの番号を1-3の範囲で入力してください。」
E	レポートの送信先を解除します。 「E」を入力するとプロンプトが「Enter report destination entry number>」に変わりますので、解除設定するアカウントの番号を1-3の範囲で入力してください。」
T	トラップの送信先を設定します。 「T」を入力するとプロンプトが「Enter trap destination entry number>」に変わりますので、トラップの送信先に設定するアカウントの番号を1-3の範囲で入力してください。」
P	トラップの送信先を解除します。 「P」を入力するとプロンプトが「Enter trap destination entry number>」に変わりますので、解除設定するアカウントの番号を1-3の範囲で入力してください。」
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.7.a. レポートデータの設定(Report Data Configuration)

「Mail Report Configuration」でコマンド「C」を選択すると、図4-6-14のような「Report Data Configuration」の画面になります。この画面では、レポートに記載する内容の設定を行います。

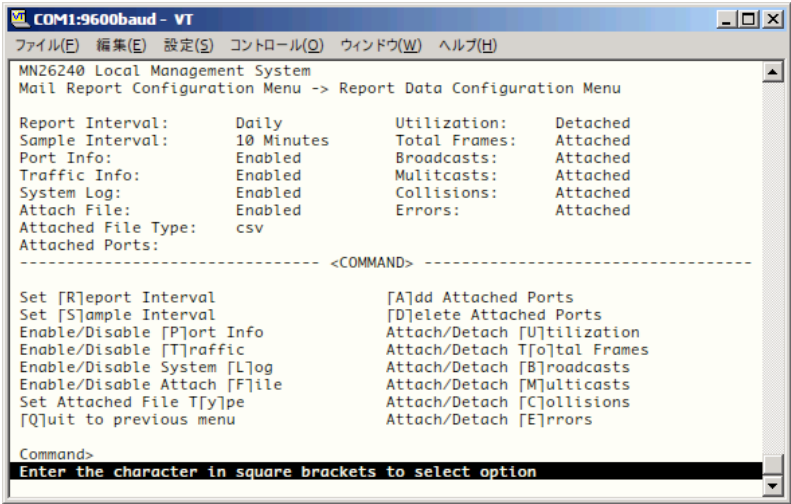


図4-6-14 レポートデータの設定

画面の説明

Report Interval	レポートの間隔を表します。
Sample Interval	サンプルの取得を行う間隔を表します。
Port Info	ポートの状態が通知対象になっているかを表します。
Traffic Info	トラフィック情報が通知対象になっているかを表します。
System Log	システムログが通知対象になっているかを表します。
Attach File	レポートメールに通知内容を添付するかを表します。
Attached File Type	添付ファイルの形式を表します。
Attached Ports	レポートの対象とするポート番号を表します。
Utilization	利用率が通知対象になっているかを表します。
Total Frame	合計フレーム数が通知対象になっているかを表します。
Broadcasts	ブロードキャストの回数が通知対象になっているかを表します。
Multicasts	マルチキャストの回数が通知対象になっているかを表します。
Collisions	コリジョンの回数が通知対象になっているかを表します。
Errors	エラーの回数が通知対象になっているかを表します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

R	レポート間隔を設定します。 「R」を入力するとプロンプトが「Set report interval to daily/weekly/monthly (D/W/M)>」に変わりますので、毎日通知させる場合は「D」を、毎週の場合は「W」を、毎月の場合は「M」を入力してください。											
S	サンプルの取得間隔を設定します。 「S」を入力するとプロンプトが「Set sample interval (1/2/3/4/5/6)>」に変わりますので、設定したい間隔を以下の番号(1-6)から選択してください。											
	1	10分	2	30分	3	1時間	4	3時間	5	6時間	6	1日
P	ポート情報の通知を設定します。 「P」を入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled port information attached in report (E/D)>」に変わりますので、有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。」											
T	トラフィック情報の通知を設定します。 「T」を入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled traffic information attached in report (E/D)>」に変わりますので、有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。」											
L	システムログ上納の通知を設定します。 「L」を入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled system log attached in report (E/D)>」に変わりますので、有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。」											
F	添付ファイルの有無を設定します。 「F」を入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled attached file in report (E/D)>」に変わりますので、有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。」											
Y	添付ファイルの形式を設定します。 「Y」を入力するとプロンプトが「Set attached file type to csv/txt (C/T)>」に変わりますので、CSV形式にする場合は「C」を、テキスト形式にする場合は「T」を入力してください。											
A	レポートの対象とするポートを設定します。 「A」を入力するとプロンプトが「Enter port numbers (up to 26 ports)>」に変わりますので、解除設定するポート番号を1-26の範囲で入力してください。」											
D	レポートの対象とするポートを解除します。 「D」を入力するとプロンプトが「Enter port numbers (up to 26 ports)>」に変わりますので、解除設定するポート番号を1-26の範囲で入力してください。」											
U	利用率の通知を設定します。 「U」を入力するとプロンプトが「Attach or Detach utilization in report (A/D)>」に変わりますので、通知する場合は「A」を、通知しない場合は「D」を入力してください。」											
O	合計フレーム数の通知を設定します。 「O」を入力するとプロンプトが「Attach or Detach total frames in report (A/D)>」に変わりますので、通知する場合は「A」を、通知しない場合は「D」を入力してください。」											
B	ブロードキャストの回数通知を設定します。 「P」を入力するとプロンプトが「Attach or Detach broadcasts in report (A/D)>」に変わりますので、通知する場合は「A」を、通知しない場合は「D」を入力してください。」											
M	マルチキャストの回数通知を設定します。 「P」を入力するとプロンプトが「Attach or Detach multicasts in report (A/D)>」に変わりますので、通知する場合は「A」を、通知しない場合は「D」を入力してください。」											
C	コリジョンの回数通知を設定します。 「P」を入力するとプロンプトが「Attach or Detach collisions in report (A/D)>」に変わりますので、通知する場合は「A」を、通知しない場合は「D」を入力してください。」											
E	エラーの回数通知を設定します。 「P」を入力するとプロンプトが「Attach or Detach total errors in report (A/D)>」に変わりますので、通知する場合は「A」を、通知しない場合は「D」を入力してください。」											
Q	上位のメニューに戻ります。											

4.6.8. MACアドレステーブルの参照(Forwarding Database)

「Basic Switch Configuration Menu」でコマンド「F」を選択すると、図4-6-15のような「Forwarding Database Menu」の画面になります。この画面では、パケットの転送に必要な学習され記憶されているMACアドレスのリストを表示します。
また、静的にMACアドレスの追加・削除を行えます。

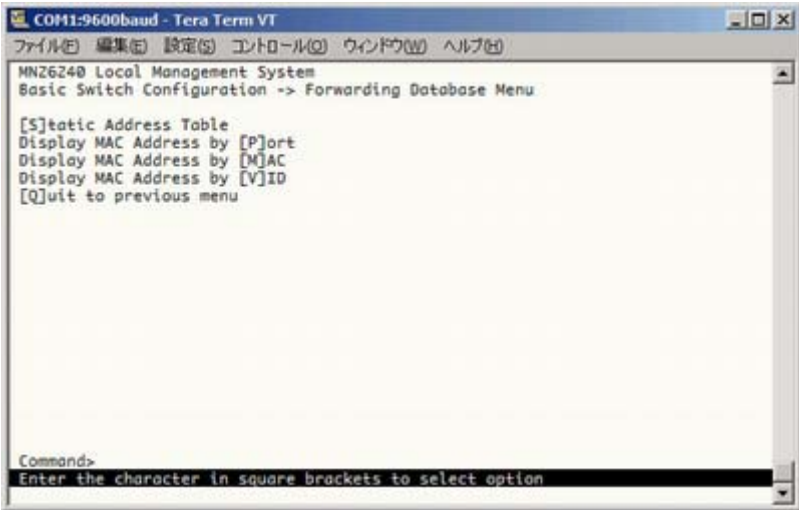


図4-6-15 MACアドレステーブルの参照

画面の説明

Static Address Table	フォワーディングデータベースのMACアドレスの追加・削除を行います。
Display MAC Address by Port	ポート毎のMACアドレステーブルを表示します。
Display MAC Address by MAC	登録されている全てのMACアドレスを表示します。
Display MAC Address by VID	VLAN毎のMACアドレステーブルを表示します。
Quit to previous menu	上位のメニューに戻ります。

4.6.8.a. MACアドレスの追加・削除

「Forwarding Database Menu」でコマンド「S」を選択すると、図4-6-16のような「Static Address Table Menu」の画面になります。この画面では、静的にMACアドレスの追加・削除を行えます。

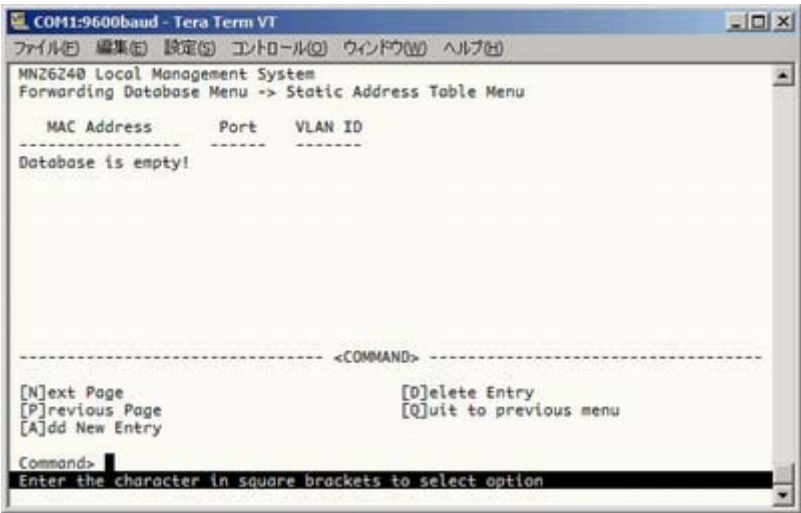


図4-6-16 MACアドレスの追加・削除

画面の説明

MAC Address	MACアドレステーブル内のMACアドレスを表示します。
Port	MACアドレスの属するポートを表示します。
VLAN ID	MACアドレスの属するVLAN IDを表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると次のページを表示します。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると前のページを表示します。
A	MACアドレスを追加登録します。
	「A」と入力すると表示が「Enter MAC Address(xx:xx:xx:xx:xx:xx)」となりますので、追加するアドレスを入力してください。
D	登録されたMACアドレスを削除します。
	「D」と入力すると表示が「Enter MAC Address(xx:xx:xx:xx:xx:xx)」となりますので、削除するアドレスを入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.8.b. ポート毎のMACアドレステーブルの表示

「Forwarding Database Menu」でコマンド「P」を選択すると、プロンプトが「Enter Port Number>」に切り替わりますので、ここでポート番号を指定することにより、図4-6-17のような「Display MAC Address by Port」の画面になります。この画面では、ポート毎のMACアドレステーブルの表示を行えます。

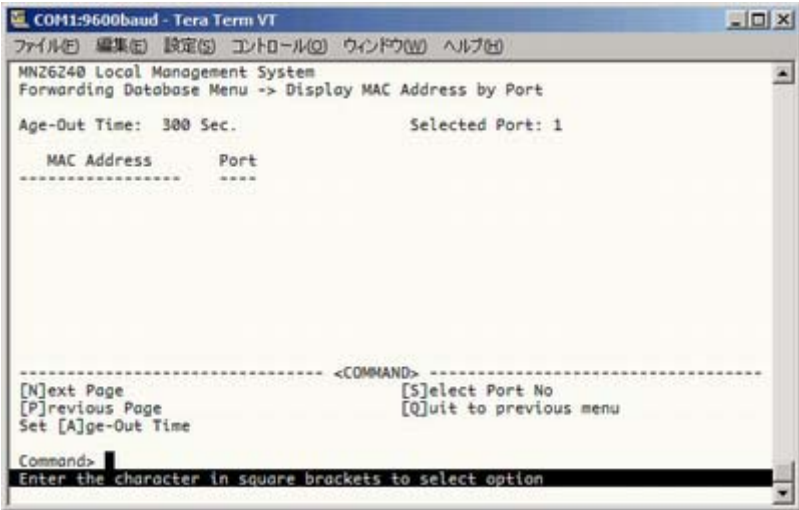


図4-6-17 ポート毎のMACアドレステーブルの表示

画面の説明

Age-Out Time	MACアドレステーブルを保存する時間を表示します。最後にパケットを受信してからの時間となります。工場出荷時は300秒（5分）に設定されています。
Select Port	選択したポート番号を表示します。
MAC Address	MACアドレステーブル内のMACアドレスを表示します。
Port	MACアドレスの属していたポートを表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると次のポートを表示します。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると前のポートを表示します。
A	MACアドレスの保管時間を設定します。
	「A」と入力するとプロンプトが「Enter Age-Out time>」と変わりますので、時間を秒単位で10～1000000の間で設定してください。
S	表示するポートを切り替えます。
	「S」と入力するとプロンプトが「Enter Port Number>」に変わりますので、表示したいポート番号を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.8.c. 全てのMACアドレスの表示

「Forwarding Database Menu」でコマンド「M」を選択すると、図4-6-18のような「Display MAC Address by MAC」の画面になります。この画面では、本装置の全てのMACアドレステーブルの表示を行えます。

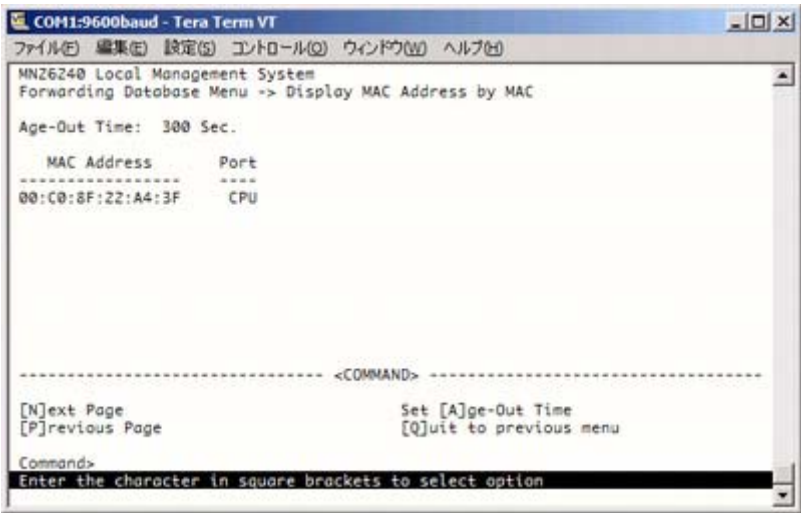


図4-6-18 全てのMACアドレスの表示

画面の説明

Age-Out Time	MACアドレステーブルを保存する時間を表示します。最後にパケットを受信してからの時間となります。工場出荷時は300秒（5分）に設定されています。
MAC Address	MACアドレステーブル内のMACアドレスを表示します。
Port	MACアドレスの属していたポートを表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると次のポートを表示します。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると前のポートを表示します。
A	MACアドレスの保管時間を設定します。
	「A」と入力するとプロンプトが「Enter Age-Out time>」と変わりますので、時間を秒単位で10～1000000の間で設定してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.8.d. VLAN毎のMACアドレステーブルの表示

「Forwarding Database Menu」でコマンド「V」を選択すると、プロンプトが「Enter VLAN ID>」に切り変わりますので、ここでポート番号を指定することにより、図4-6-19のような「Display MAC Address by VLAN ID」の画面になります。この画面では、VLAN毎のMACアドレステーブルの表示を行えます。

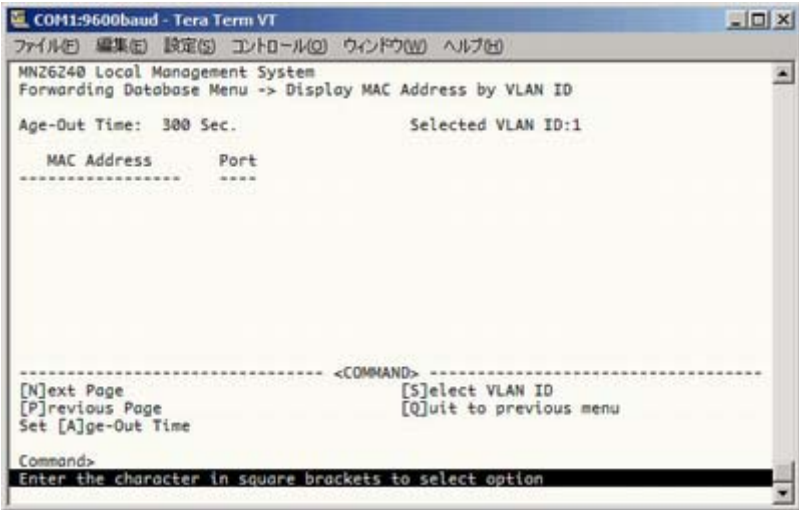


図4-6-19 VLAN毎のMACアドレステーブルの表示

画面の説明

Age-Out Time	MACアドレステーブルを保存する時間を表示します。最後にパケットを受信してからの時間となります。工場出荷時は300秒（5分）に設定されています。
Select VLAN ID	選択したVLAN IDを表示します。
MAC Address	MACアドレステーブル内のMACアドレスを表示します。
Port	MACアドレスの属していたポートを表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると次のポートを表示します。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると前のポートを表示します。
A	MACアドレスの保管時間を設定します。
	「A」と入力するとプロンプトが「Enter Age-Out time>」と変わりますので、時間を秒単位で10～1000000の間で設定してください。
S	表示するVLANを切り替えます。
	「S」と入力するとプロンプトが「Enter VLAN ID>」に変わりますので、表示したいVLAN IDを入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.6.9. 時刻同期機能の設定(SNTP Configuration)

本装置では、SNTP(Simple Network Time Protocol)のサポートにより、外部のSNTPサーバと内蔵時計の同期による正確な時刻設定が可能です。

「Basic Switch Configuration Menu」でコマンド「T」を選択すると、図4-6-20のような「SNTP Configuration Menu」の画面になります。この画面では、SNTPによる時刻同期の設定を行います。

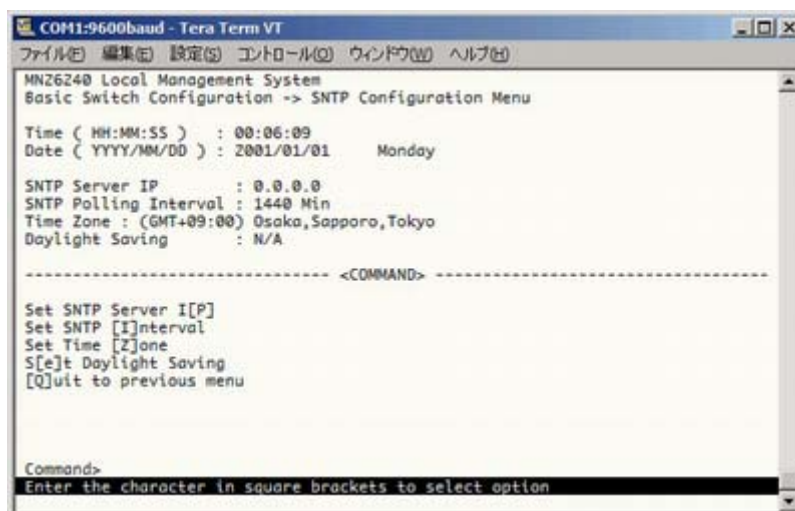


図4-6-20 時刻同期機能の設定：設定前

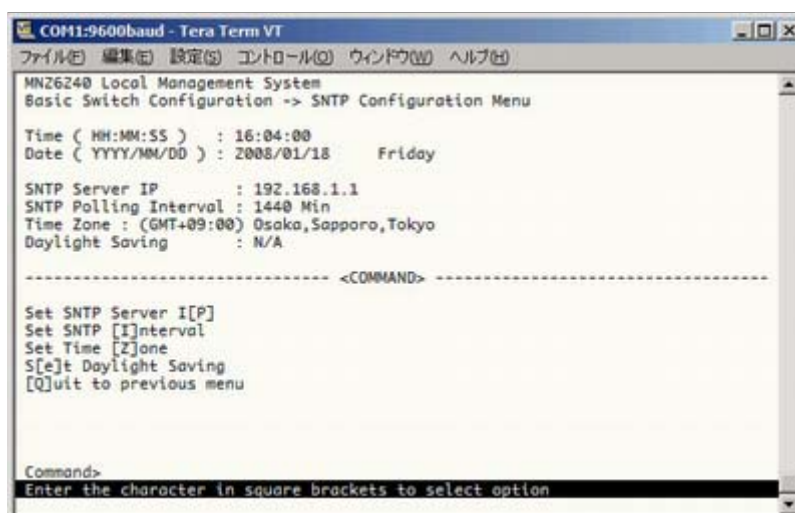


図4-6-21 時刻同期機能の設定：設定後

画面の説明

Time (HH:MM:SS)	内蔵時計の時刻を表示します。
Date (YYYY/MM/DD)	内蔵時計の日付を設定します。
SNTP Server IP	時刻同期を行うSNTPサーバのIPアドレスを表示します。
SNTP Polling Interval	SNTPサーバとの時刻同期間隔を表示します。
Time Zone	タイムゾーンを表示します。
Daylight Saving	Daylight Saving(夏時間)の適用状況を表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

P	外部SNTPサーバのIPアドレスを設定します。 「P」と入力するとプロンプトが「Enter new IP address>」と変わりますので、SNTPサーバのIPアドレスを入力してください。
I	SNTPサーバとの時刻同期間隔を設定します。 「I」と入力するとプロンプトが「Enter Interval Time>」と変わりますので、SNTPサーバとの時刻同期の間隔を1～1440(分)の範囲で入力してください。 工場出荷時は1440分(1日)に設定されています。
Z	タイムゾーンを設定します。 「Z」と入力するとタイムゾーンの一覧が表示されますので、該当するタイムゾーンを指定してください。国内で使用する場合は、工場出荷時設定の「(GMT+09:00)Osaka, Sapporo, Tokyo」からの変更は不要です。
E	Daylight Saving(夏時間)の適用を設定します。 「E」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled daylight Saving (E/D)>」と変わりますので、夏時間を適用する場合は「E」、しない場合は「D」を入力してください。 但し、夏時間が適用されないタイムゾーンに設定されている場合は切り替えができません。 通常、国内で使用する場合は設定は不要です。(N/A)
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意：SNTPサーバがファイアウォールの外部にある場合、システム管理者の設定によってはSNTPサーバと接続できない場合があります。

詳しくはシステム管理者にお問い合わせください。

また、SNTP機能を無効にしたい場合はSNTP Server IPを0.0.0.0に設定して再起動してください。

4.6.10. ARPテーブル(ARP Table)

「Basic Switch Configuration Menu」でコマンド「R」を選択すると、図4-6-22のような「ARP Table」の画面になります。この画面では、ARPテーブルの参照、及び設定を行います。

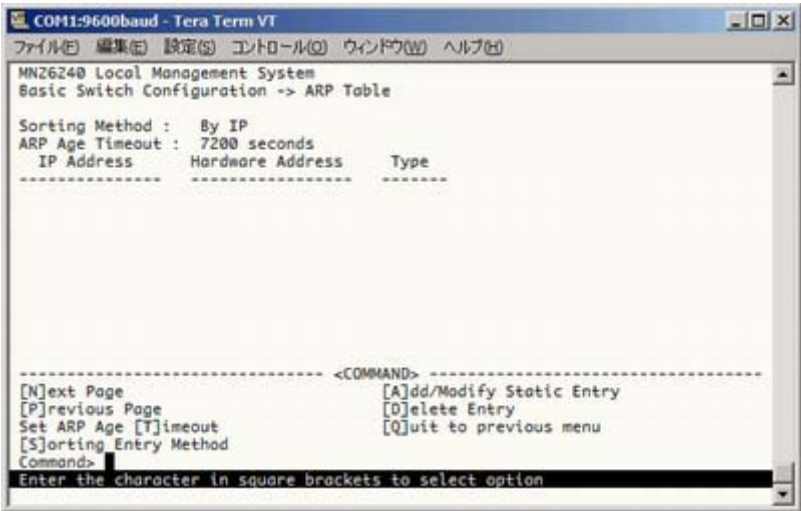


図4-6-22 ARPテーブルの参照

画面の説明

Sorting Method	表示する順番を表示します。
ARP Age Timeout	ARPテーブルのエージングタイムアウトを表示します。
IP Address	ARPテーブル上にあるIPアドレスを表示します。
Hardware Address	ARPテーブル上にあるMACアドレスを表示します。
Type	ARPテーブルへの登録方式を表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
T	ARPテーブルのエージングタイムアウトを設定します。
	「T」と入力するとプロンプトが「Enter ARP age timeout value >」と変わりますので、ARPテーブルのエージングタイムアウトを30～86400(秒)で設定してください。
S	ARPテーブルの表示する順番を選択します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Select method for sorting entry to display (I/M/T) >」と変わりますので、IPアドレスの順番で表示する場合は「I」を、MACアドレスの順番で表示する場合は「M」を選択してください。タイプ別で表示する場合は「T」を選択の後に「Select type for sorting entry to display (S/D) >」と表示されるので、静的なエントリのみを表示する場合は「S」を、動的なエントリのみを表示する場合は「D」を選択してください。
A	ARPテーブルのエントリーを追加/修正します。
	「A」と入力するとプロンプトが「Enter IP address >」と変わりますので、IPアドレスを入力してください。入力後、「Enter Hardware address >」と変わりますので、MACアドレスを「**:**:**:**:**:**」のように入力してください。入力後、「Enter VLAN ID >」と変わりますので、1～4094の間でVLAN IDを入力してください。
D	ARPテーブルのエントリーを削除します。
	「D」と入力するとプロンプトが「Enter IP address >」と変わりますので、「Enter IP address >」と変わりますので、IPアドレスを入力してください。入力後、「Enter VLAN ID >」と変わりますので、1～4094の間でVLAN IDを入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7. 拡張機能の設定(Advanced Switch Configuration)

「Main Menu」から「A」を選択すると図4-7-1のような「Advanced Switch Configuration Menu」の画面になります。この画面では本装置が持つVLAN、トランッキング、QoS、ポートモニタリング、スパニングツリー、IGMP Snooping等の設定を行ないます。

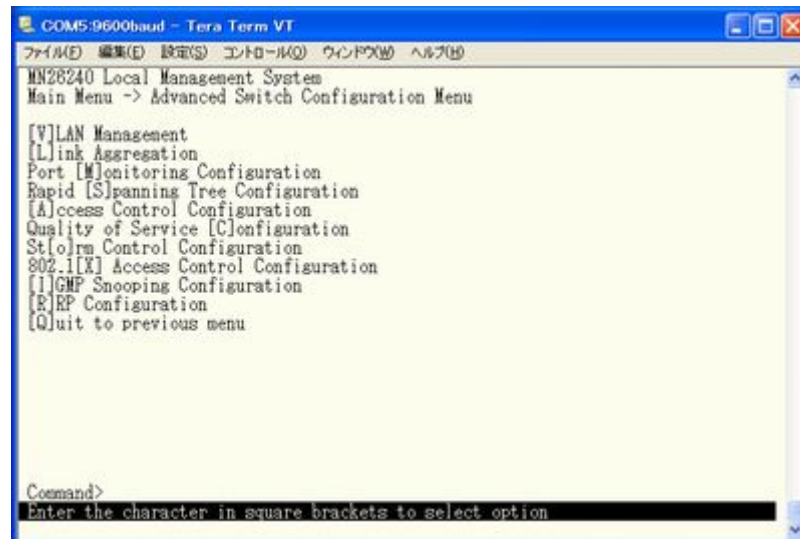


図4-7-1 拡張機能の設定

画面の説明

VLAN Management	VLANに関する設定を行います。
Link Aggregation	リングアグリゲーションの設定を行ないます。
Port Monitoring Configuration	ポートモニタリング（ミラーリング）の設定を行います。
Rapid Spanning Tree Configuration	スパニングツリーに関する設定を行います。
Access Control Configuration	アクセスコントロールに関する設定を行います。
Quality of Service Configuration	QoSに関する設定を行います。
Storm Control Configuration	ストームコントロール機能の設定を行います。
802.1x Port Base Access Control Configuration	IEEE802.1x 認証機能の設定を行います。
IGMP Snooping Configuration	IGMP Snoopingの設定を行います。
RRP Configuration	リングプロトコルの設定を行います。
Quit to previous menu	Advanced Switch Configuration Menuを終了し、メインメニューに戻ります。

4.7.1. VLANの設定(VLAN Management)

4.7.1.a. 特徴

- IEEE802.1Q準拠のタギングVLANに対応し、フレームへVLANタグ（以下、単にタグという）をつけて送信することが可能です。
- VLAN ID、PVIDの2つの異なるパラメータを持ち、このパラメータを組み合わせによりタグなしフレームの転送先を決定します。
- VLAN ID
タグつきフレームを取り扱う際に各フレームへつけられるVLAN識別子です。タグなしフレームの場合にもこのIDでポートがグループ化され、このIDを参照しフレームの転送先が決定されます。各ポートに複数設定することが可能です。
- PVID（ポートVLAN ID）
PVIDは各ポートにひとつだけ設定することができ、タグなしフレームを受信した場合にどのVLAN IDへ送信するべきかをこのIDによって決定します。タグつきフレームの場合はこのIDは参照されず、タグ内のVLAN IDが使用されます。

4.7.1.b. VLAN設定の操作(VLAN Management Menu)

「Advanced Switch Configuration Menu」でコマンド「V」を選択すると、図4-7-2のような「VLAN Management Menu」の画面になります。この画面で、VLANに関する設定を行います。

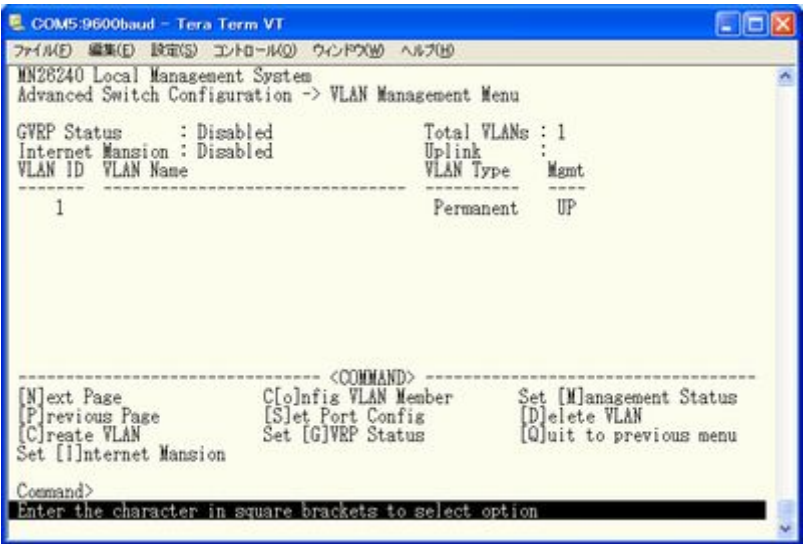


図4-7-2 VLAN設定メニュー

画面の説明

GVRP	GVRPの状態を表示します。	
	Enabled	GVRPが有効です。
	Disabled	GVRPが無効です。（工場出荷時設定）
Total VLANs	VLANの合計数を表示します。	
Internet Mansion	インターネットマンションモードの状態を表示します。	
	Enabled	インターネットマンションモードが有効です。
	Disabled	インターネットマンションモードが無効です。（工場出荷時設定）
Uplink	インターネットマンションモード有効時のアップリンクポートを表します。	
VLAN ID	VLANのVLAN IDを表示します。	
VLAN Name	設定されているVLANの名前を表示します。	
VLAN Type	VLANの種類を表示します。	
	Permanent	工場出荷時に設定されているVLANであることを表します。 このVLANは削除できません。
	Static	新たに設定されたVLANであることを表します。
Mgmt	管理VLANであるかを表示します。工場出荷時は1がUPに選択されています。	
	UP	このVLANが管理VLAN(CPUと通信できるVLAN)であることを表します。
	DOWN	このVLANが管理VLANではないことを表します。
	Static	新たに設定されたVLANであることを表します。

ご注意： 工場出荷時はVLAN ID: 1に全てのポートが属しており、かつ管理VLANに設定されています。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
C	新たなVLANを作成します。
	「C」と入力すると画面が「VLAN Create Menu」へ変わります。内容については次項(4.7.1.c)を参照してください。
D	設定されているVLANを削除します。
	「D」と入力するとプロンプトが「Enter VLAN ID >」となりますので、削除したいVLAN ID(2～4094)を入力してください。
M	管理VLANを設定します。
	「R」と入力するとプロンプトが「Enter index number>」に変わりますので、管理VLANとしたいVLAN ID(1～4094)を入力してください。
I	インターネットマンションモードを設定します。
	「I」と入力するとプロンプトが「Enable or Disable Internet Mansion Function? (E/D)>」に変わりますので、インターネットマンションモードを有効にしたい場合は「E」、無効にしたい場合は「D」を入力して下さい。「E」を選択した場合、プロンプトが「Uplink port? >」に変わりますので、アップリンクポートとするポート番号を入力してください。この設定により、インターネットマンションで使用するスイッチとして最適な環境に設定できます。指定したポートをアップリンクポートとし、他のポートはダウンリンクポートとのみ通信可能になり、ダウンリンクポートはお互いに通信することができなくなります。従って、各戸間のセキュリティを確保することができます。 (使用上の制約条件があります。次ページのご注意を必ずご確認の上設定して下さい。)
O	VLAN内のポート構成を設定します。
	「O」と入力するとプロンプトが「Enter VLAN ID>」となりますので、設定を行いたいVLAN ID(1～4094)を入力してください。すると画面が「VLAN modification Menu」に変わります。内容については次項(4.7.1.d)を参照してください。
S	ポートごとのPVID設定および確認を行ないます。
	「S」と入力すると画面が「VLAN Port Configuration Menu」に変わります。内容については次項が(4.7.1.e)を参照してください。
G	GVRPの状態を設定します。
	「G」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled GVRP status (E/D)>」と変わりますので、GVRPを有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を選択してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意：VLANを作成した場合は後述のPVIDは連動して変更されません。VLANを作成した後に図4-7-4、図4-7-5の設定画面での設定操作を行い、設定内容の確認を必ず行なってください。

ご注意：インターネットマンションモード有効時には下記の制約条件があります。

必ずご確認頂いた上で使用して下さい。

- (1) タグ付きパケットは全てUntagとなります。
 - (2) スパニングツリー機能をは併用できません。
 - (3) IGMP Snooping機能とは併用できません。
 - (4) リンクアグリゲーション機能とは併用できません。
 - (5) MACアドレステーブルにStaticで登録ができません。
 - (6) アップリンクポート以外は管理VLANに設定できません。
 - (7) インターネットマンションモードを有効→無効に切り替えると、IP
アドレス以外の設定が初期化されます。
-

4.7.1.c. VLANの作成(VLAN Creation Menu)

「VLAN Management Menu」でコマンド「C」を選択すると、図4-7-3のような「VLAN Creation Menu」の画面になります。この画面で、VLANの新規作成に関する設定を行います。

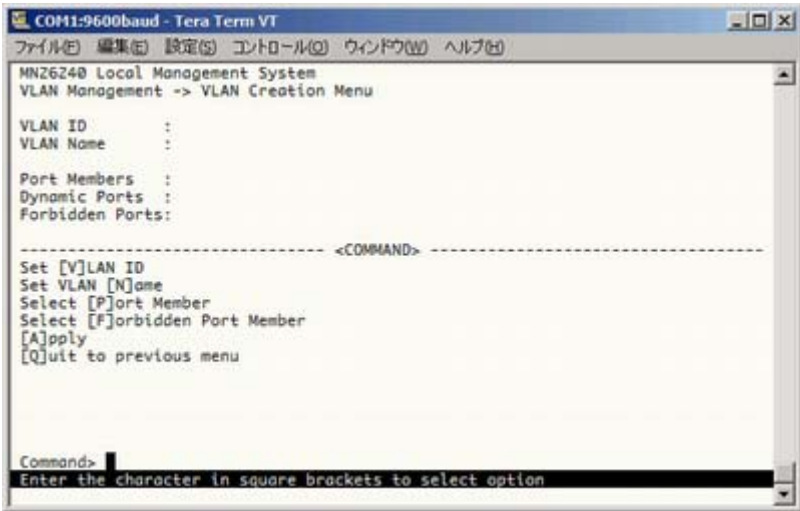


図4-7-3 VLANの作成

画面の説明

VLAN ID	VLAN IDを表します。
VLAN Name	VLAN名を表します。
Port Member	メンバーのポート番号を表します。
Dynamic Ports	Dynamicポートを表します。
Forbidden Ports	Forbiddenポートを表します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

V	VLAN IDを設定します。
	「V」と入力するとプロンプトが「Set VLAN ID->Enter VLAN ID >」となりますので、新しいVLAN IDを入力してください。
N	VLANの名前を設定します。
	「N」と入力するとプロンプトが「Set VLAN name->Enter VLAN name >」となりますので、新しいVLAN名を半角30文字以内で入力してください。
P	VLANのメンバーを設定します。
	「P」と入力するとプロンプトが「Enter egress port number >」となりますので、ポート番号を入力してください。ポート番号を複数入力する場合はスペースなしで、カンマで区切るか、連続した数字の場合はハイフンで指定してください。
F	Forbiddenポートを設定します。
	「F」と入力するとプロンプトが「Enter forbidden port number >」となりますので、ポート番号を入力してください。ポート番号を複数入力する場合はスペースなしで、カンマで区切るか、連続した数字の場合はハイフンで指定してください。
A	VLANを設定します。
	「A」と入力すると作成したVLANが反映されます。
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意: VLANの設定後は必ず「A」を入力してください。「A」を入力しなければVLANは作成されません。

4.7.1.d. VLAN設定の変更(VLAN Modification Menu)

「VLAN Management Menu」でコマンド「o」を選択し、対象のVLAN IDを指定すると、図4-7-4のような「VLAN Modification Menu」の画面になります。この画面で、VLANの設定情報の変更を行います。

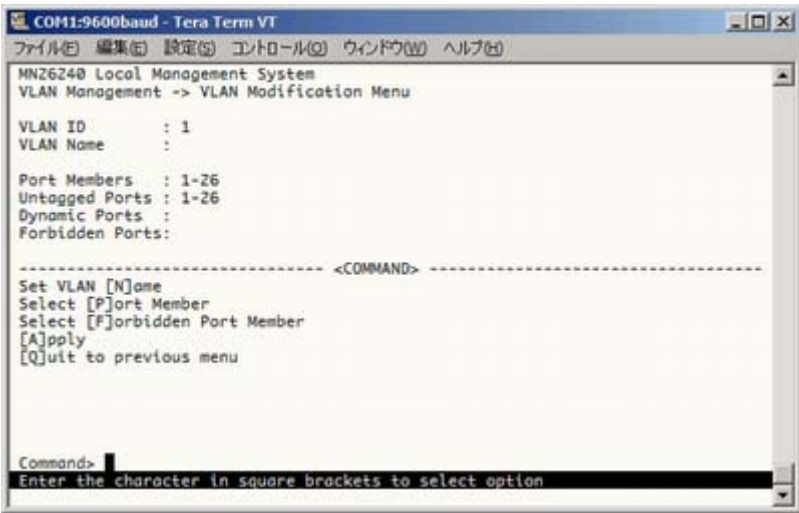


図4-7-4 VLAN設定の変更

画面の説明

VLAN ID	LAN IDを表します。
VLAN Name	VLAN名を表します。
Port Member	メンバーのポート番号を表します。
Untagged Port	タグを使用しないポートを表します。
Dynamic Ports	Dynamicポートを表します。
Forbidden Ports	Forbiddenポートを表します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	VLANの名前を設定します。
	「N」と入力するとプロンプトが「Set VLAN name->Enter VLAN name >」となりますので、新しいVLAN名を半角30文字以内で入力してください。
P	VLANのメンバーを設定します。
	「P」と入力するとプロンプトが「Enter egress port number >」となりますので、ポート番号を入力してください。ポート番号を複数入力する場合はスペースなしでカンマで区切るか、連続した数字の場合はハイフンで指定してください。
F	Forbiddenポートを設定します。
	「F」と入力するとプロンプトが「Enter forbidden port number >」となりますので、ポート番号を入力してください。ポート番号を複数入力する場合はスペースなしでカンマで区切るか、連続した数字の場合はハイフンで指定してください。
A	VLANを設定します。
	「A」と入力すると作成したVLANが反映されます。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.1.e. ポート毎の設定(VLAN Port Configuration Menu)

「VLAN Management Menu」でコマンド「S」を選択すると、図4-7-5のような「VLAN Port Configuration Menu」の画面になります。この画面で、VLANのポート毎の設定を行います。

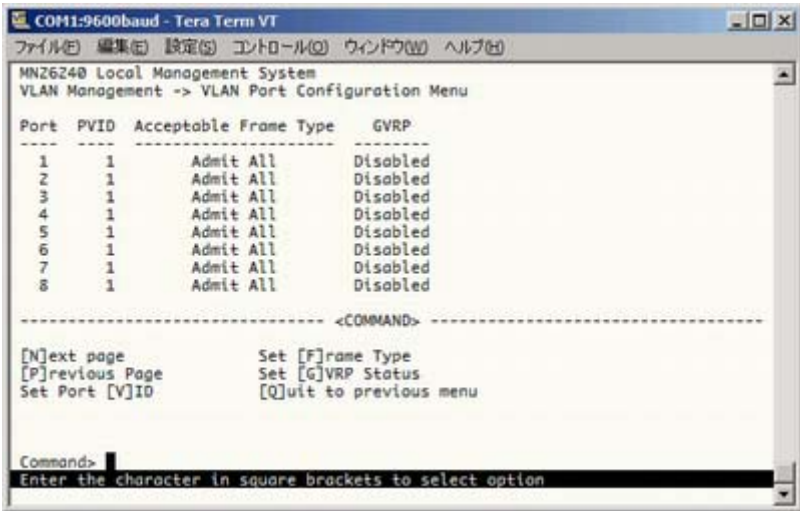


図4-7-5 ポート毎の設定

画面の説明

Port	ポート番号を表します。	
PVID	現在そのポートに設定されているPVID(Port VLAN ID)を表示します。PVIDはタグなしの パケットを受信した場合にどのVLAN IDに送信するかを表します。工場出荷時は1に設定 されています。タグ付きのパケットを受信した場合は、この値とは関係なくタグを参照 し、送信先のポートを決定します。	
Acceptable Frame Type	受信フレームのタイプを表します。工場出荷時は全て「Admit All」に設定されています。	
	Admit All	全てのフレームを受信します。
	Tagged Only	タグ付きフレームのみ受信します。
GVRP	GVRPの状態を表します。工場出荷時は全て「Disabled」に設定されています。	
	Enabled	GVRPが有効です。
	Disabled	GVRPが無効です。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
V	PVIDを設定します。
	「V」と入力するとプロンプトが「Enter port number>」となりますので、設定したいポート番号を入力してください。するとプロンプトが「Enter PVID for port #>」となりますので、すでに設定されているVLAN IDのうちから変更するVLAN IDを入力してください。
F	受信パケットの種別を設定します。
	「F」と入力するとプロンプトが「Enter port number>」となりますので、変更したいポート番号を入力してください。するとプロンプトが「Select port acceptable frame type (A/T)>」となりますので、全てのフレームを受信する場合は「A」を、タグ付きフレームのみとする場合は「T」を入力してください
G	GVRPを設定します。
	「G」と入力するとプロンプトが「Enter port number>」となりますので、変更したいポート番号を入力してください。するとプロンプトが「Enabled or Disabled port GVRP status (E/D)>」となりますので、GVRPを有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.2. リンクアグリゲーションの設定(Link Aggregation)

4.7.2.a. リンクアグリゲーションについて

リンクアグリゲーションとはスイッチの複数のポートをグループ化し、グループ化したポート同士を接続することにより、スイッチ間の通信帯域を増やすことができる機能です。このリンクアグリゲーションの機能を用いることをトランキングと呼びます。

本装置ではIEEE802.3adで規定されたLACP(Link Aggregation Control Protocol)をサポートしています。これにより1グループ最大8ポートまでの構成が可能です。

図4-7-6、図4-7-7にトランキングを用いたネットワークの構成例を示します。

図4-7-6は2つの1000BASE-Xを1グループとし、スイッチ間を片方向1000Mb/s×2の2000Mb/sで接続した例です。

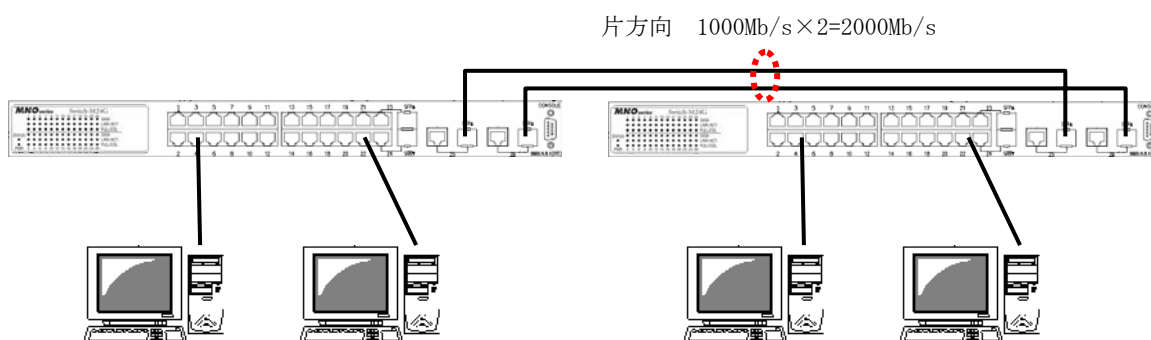


図4-7-6 トランキングを用いた構成例1

図4-7-7は2つの1000BASE-Xポートをグループ化したものを1グループ、2つの1000BASE-Tポートをグループ化したものを1グループ作成し、スイッチ間のバックボーンとして構成した例です。

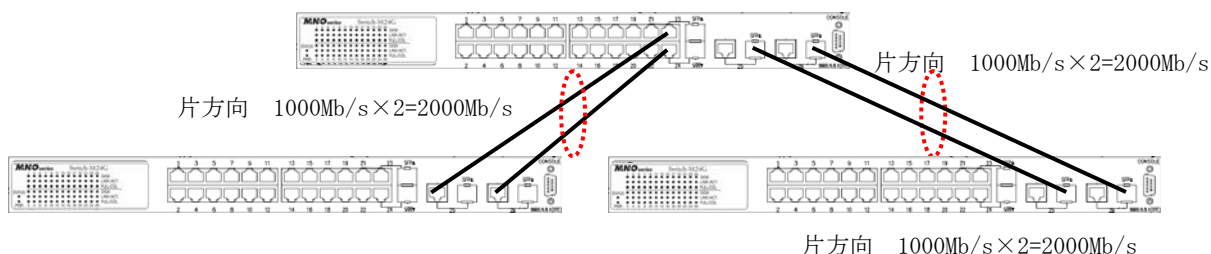


図4-7-7 トランキングを用いた構成例2

4.7.2.b. トランキングの設定(Trunk Configuration Menu)

「Advanced Switch Configuration Menu」でコマンド「L」を選択すると、図4-7-8のような「Trunk Configuraton Menu」の画面になります。この画面でトランキングの設定を行ないます。

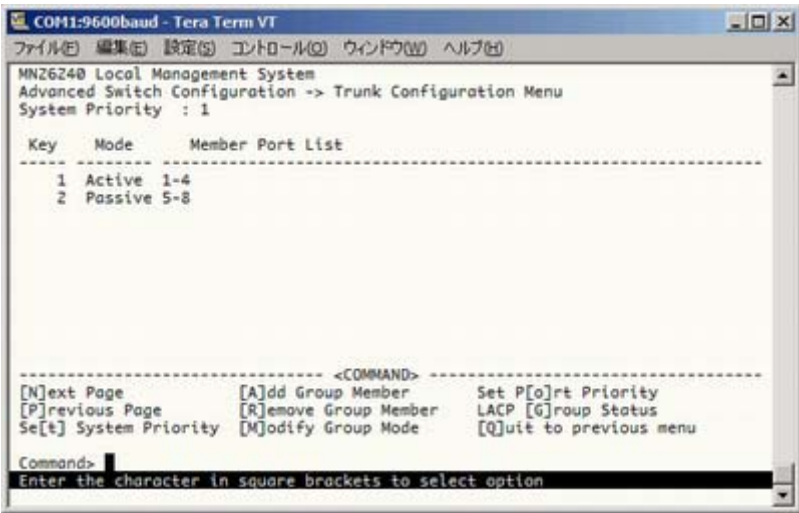


図4-7-8 トランキングの設定

画面の説明

System Priority	LACPを用いてネットワーク上でトランキングを構成する際に必要な本装置の優先順位です。数値が小さいほど優先順位が高くなります。工場出荷時は1に設定されています。	
Key	トランキングのグループ番号を表示します。	
Mode	トランキングの動作モードを表示します。	
	Active	本装置からLACPパケットを送出し、相手側とネゴシエーションを行うことでトランクを構成します。 相手側のモードがActive、またはPassiveである必要があります。
	Passive	本装置からはLACPパケットは送出せずに、相手側からのLACPパケットの受信でネゴシエーションを行った上でトランクを構成します。 相手側のモードがActiveである必要があります。
	Manual	LACPパケットを用いず、強制的にトランキングを構成します。相手側も同様の設定である必要があります。
Members Port List	トランキングのグループに属しているポートを表示します。	

ご注意: トランキングのモードがスイッチ同士で共にPassiveの場合、トランクのネゴシエーションが行われずにループが発生します。LACPを用いてトランキングを構成する場合は片側の設定を必ずActiveとしてください。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
T	LACPにおける本装置のSystem Priority値を設定します。
	「T」と入力するとプロンプトが「Enter system priority for LACP>」となりますので、
A	新たにトランキングの設定を行います。
	「A」と入力するとプロンプトが「Enter trunk group admin key>」となりますので、設定したいグループの番号を入力してください。プロンプトが「Enter port member for group key #>」となりますので、トランキングするポート番号を入力してください。ポート番号を複数入力する場合はスペースなしで、カンマ(,)で区切るか(例 「1,2,3」)、連続した数字の場合はハイフン(-)で指定(例 「8-12」)してください。その後、プロンプトが「Lacp Active, Lacp Passive or Manual trunk setting (A/P/M)>」に変わりますので、動作モードをActiveにする場合は「A」、Passiveの場合は「P」、Manualの場合は「M」を選択してください。
R	トランキングの設定を削除します。
	「R」と入力するとプロンプトが「Enter trunk group admin key>」となりますので、削除したいグループの番号を入力してください。プロンプトが「Enter port member port for group key #>」となりますので、削除するポート番号を入力してください。ポート番号を複数入力する場合はスペースなしで、カンマで区切るか、連続した数字の場合はハイフンで指定してください。
M	トランキングの動作モードを変更します。
	「M」と入力するとプロンプトが「Enter trunk group admin key>」となりますので、変更したいグループの番号を入力してください。その後、プロンプトが「Lacp Active, Lacp Passive or Manual trunk setting (A/P/M)>」に変わりますので、動作モードをActiveにする場合は「A」、Passiveの場合は「P」、Manualの場合は「M」を選択してください。
O	トランキングにおける本装置のポート毎のプライオリティ値を設定します。
	「o」を入力すると画面が「Set port Priority」に変わります。詳細設定の方法は次項(4.7.2.c)を参照してください。
G	LACPグループの状態を表示します。
	「G」と入力するとプロンプトが「Enter trunk group number >」となりますので、表示したいグループのkeyを入力してください。(ここで入力できるのはmodeが「Active」または「Passive」のグループのみです。)その後、画面が「LACP Status」に変わります。これについては次項(4.7.2.d)を参照してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意: 本装置では1グループに最大26ポートまでのメンバーを設定可能ですが、トランク動作するのは8ポートまでとなります。9ポート目以降のメンバーはバックアップモードとなり、8ポート目までのリンクに障害が発生した際にそのポートに替わってトランクを構成するメンバーとなります。この場合、メンバーとなれる優先順位は次項(4.7.2.c)で設定されるPort Priority値により決定され、全て同じPriority値の場合はポート番号が小さい順からトランクを構成します。

4.7.2.c. ポート毎の優先値設定(Set Port Priority)

「Trunk Configuration Menu」でコマンド「o」を選択すると、図4-7-9のような「Set Port Priority」の画面になります。この画面でトランキングの優先設定を行ないます。

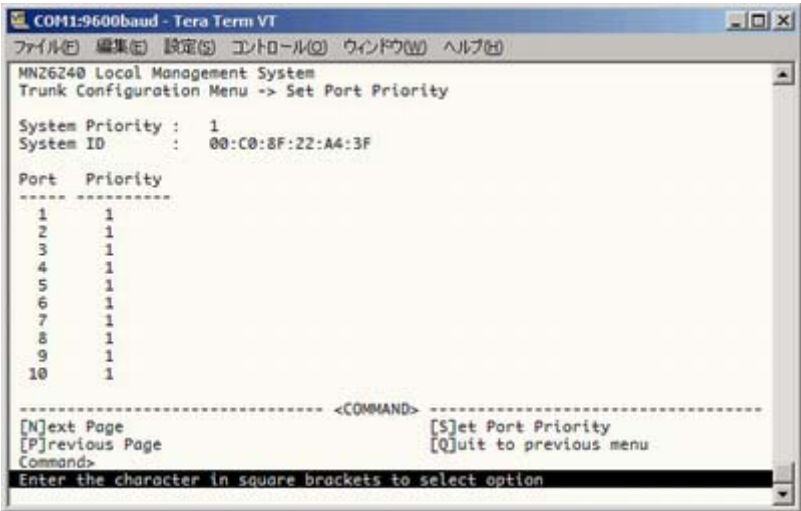


図4-7-9 ポートごとの優先値設定

画面の説明

System Priority	LACPを用いてネットワーク上でトランキングを構成する際に必要な本装置の優先順位です。数値が小さいほど優先順位が高くなります。工場出荷時は1に設定されています。
System ID	LACPを用いてネットワーク上でトランキングを構成する際に必要な本装置のIDです。本装置のMACアドレスがIDとなり、変更はできません。System Priority値とSystem IDの組み合わせがLACPにおけるシステムIDとなります。
Port	本装置のポート番号です。
Priority	トランキングにおける本装置のポート別の優先順位です。数字が小さいほど優先順位が高くなります。9ポート以上のトランキンググループを設定した際に有効です。工場出荷時は全て1に設定されています。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
S	ポート毎のプライオリティ値（優先順位）を設定します。
	「S」を入力すると
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.2.d. LACPグループの状態表示(LACP Group Status)

「Trunk Configuration Menu」でコマンド「G」を選択し、LACPグループとなっているKeyを指定すると、図4-7-10のような「LACP Group Status」の画面になります。この画面でLACPグループの状態が確認できます。（状態表示はモードが「Active」、または「Passive」のkeyのみ行えます。）

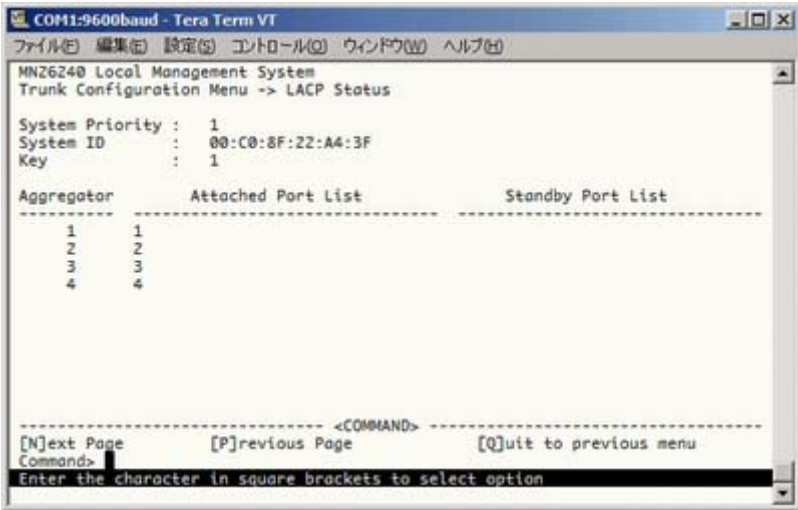


図4-7-10 LACPグループの状態表示

画面の説明

System Priority	LACPを用いてネットワーク上でトランキングを構成する際に必要な本装置の優先順位です。数値が小さいほど優先順位が高くなります。工場出荷時は1に設定されています。
System ID	LACPを用いてネットワーク上でトランキングを構成する際に必要な本装置のIDです。本装置のMACアドレスがIDとなり、変更はできません。System Priority値とSystem IDの組み合わせがLACPにおけるシステムIDとなります。
Key	トランキングのグループ番号を表示します。
Aggregator	トランキングの論理的インターフェースの番号です。トランキングを構成するポートの中でもっともPort Priority値の高いポート番号と同一になります。
Attached Port List	論理的インターフェース (Aggregator) に接続される物理的インタフェース (ポート) の番号です。9ポートを越えるトランキンググループを設定した場合、Port Priority値が低いポートはバックアップモードとなり「(Standby)」と表示されます。
Standby port List	9ポートを越えるトランキンググループを設定した場合、Port Priority値が低いポートはバックアップモードとなります。該当ポートが本欄に表示されます。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.3. ポートモニタリング(Port Monitoring Configuration)

「Advanced Switch Configuration Menu」でコマンド「M」を選択すると、図4-7-11のような「Port Monitoring Configuration Menu」の画面になります。本装置ではプロトコルアナライザ等で通信の解析を行う場合に、通常では破棄され見ることのできない他ポートの packets をモニタすることができます。この画面ではモニタするポートの設定を行うことができます。

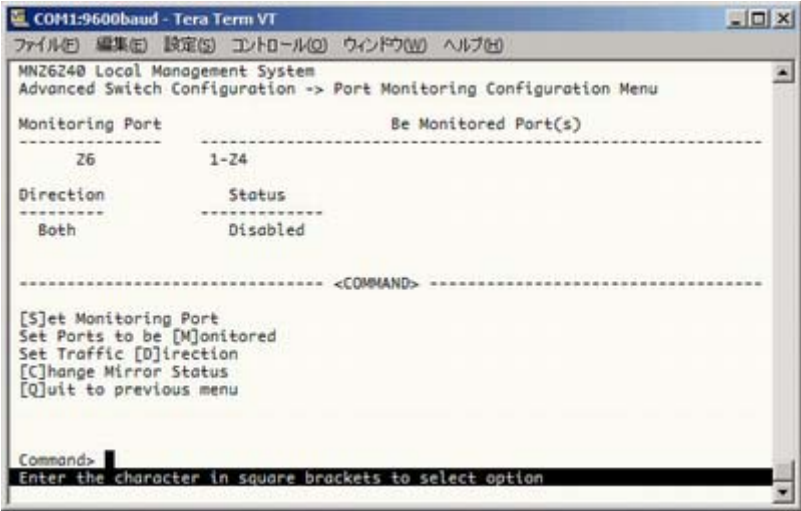


図4-7-11 ポートのモニタリング設定

画面の説明

Monitoring Port	他ポートの packets をモニタできるポートのポート番号を表します。	
Be Monitored Port(s)	モニタされるポートのポート番号を表します。	
Direction	モニタするポートの packets の送信 packets か受信 packets のどちらをモニタするかを表示します。 工場出荷時は「both」に設定されています。	
	Tx	送信 packets をモニタします。
	Rx	受信 packets をモニタします。
	Both	送受信 packets ともモニタします。
Status	モニタを行っているかどうかを表します。 工場出荷時は「Disabled」に設定されています。	
	Enabled	packets をモニタしています。
	Disabled	packets をモニタしていません。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	モニタするポート（アナライザ等を接続するポート）を設定します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Enter port number>」となりますので、設定したいポート番号を入力してください。
M	モニタされるポートを設定します。
	「M」と入力するとプロンプトが「Enter port number>」となりますので、設定したいポート番号を入力してください。（複数設定可能）
D	受信パケットをモニタするか送信パケットをモニタするかを設定します。
	「D」と入力するとプロンプトが「Select port monitoring direction(R/T/B)>」となりますので、受信パケットをモニタする場合は「R」を、送信パケットをモニタする場合は「T」を、送受信ともにモニタする場合は「B」と入力してください。
C	モニタの開始または停止を行います。
	「C」と入力するとプロンプトが「Enter the select(E/D)>」となりますので、開始する場合は「E」を入力してください。またモニタを行っているときに中止する場合は「D」を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意　： ポートモニタリングがEnabled時の各種パラメータの設定変更は反映されません。
各種パラメータを設定する時はポートモニタリングをDisabledにしてから行い、
終了後に再度Enabledへ設定してください。

4.7.4. スパニングツリーの設定(Rapid Spanning Tree Configuration)

「Advanced Switch Configuration Menu」でコマンド「S」を選択すると、図4-7-12のような「Rapid Spanning Tree Configuration Menu」の画面になります。

本装置では、IEEE802.1d準拠のスパニングツリープロトコル(STP:図4-7-13)、及びIEEE802.1w準拠のラピッドスパニングツリープロトコル(RSTP:図4-7-14)の2つのモードをサポートしています。

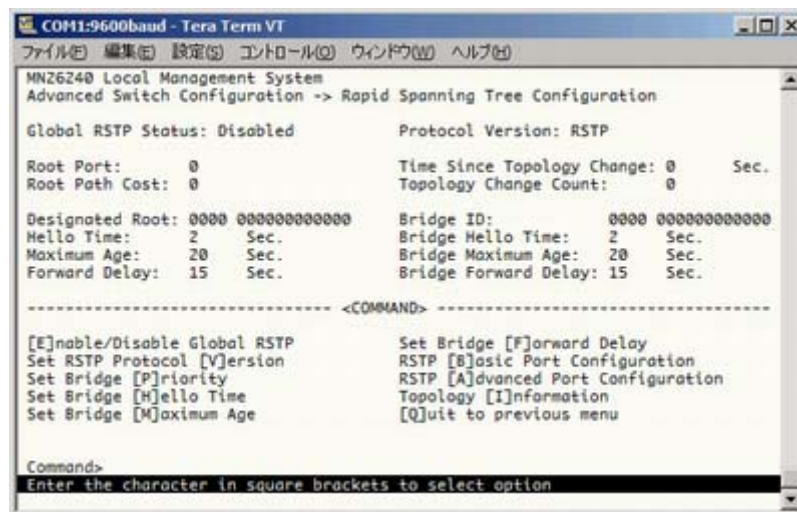


図4-7-12 スパニングツリーの設定

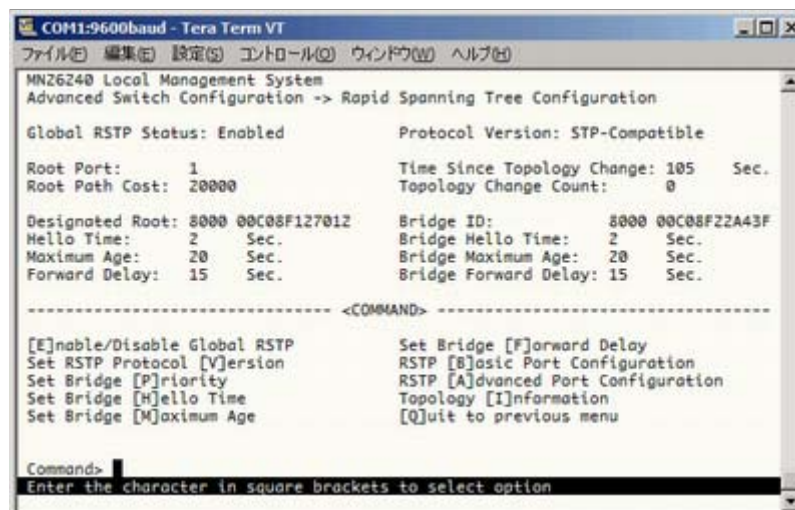


図4-7-13 STPモード動作時

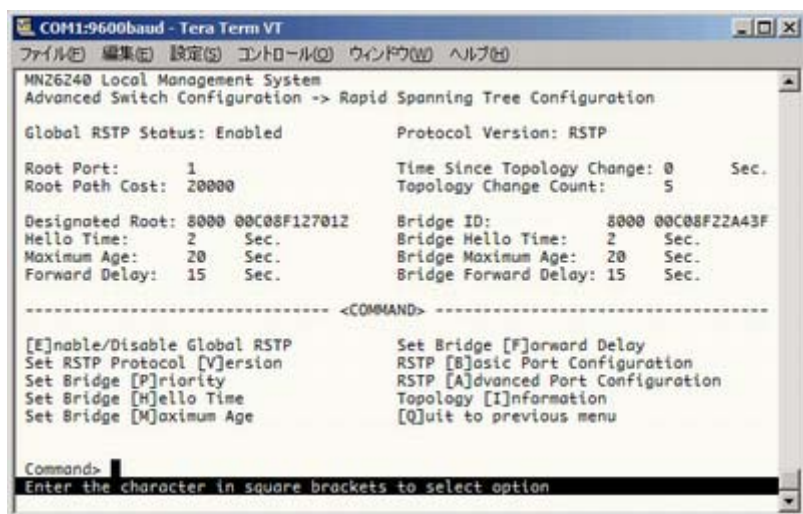


図4-7-14 RSTPモード動作時

画面の説明

Global RSTP Status	スパニングツリーの動作状況を表示します。	
	Enabled	スパニングツリーが有効です。
	Disabled	スパニングツリーが無効です。(工場出荷時設定)
Protocol Version	スパニングツリーのバージョンを表示します。	
	RSTP	IEEE802.1w標準のラピッドスパニングツリープロトコルで動作します。
	STP-Compatible	IEEE802.1d標準のスパニングツリープロトコルで動作します。
Root Port	現在のルートポートを表示します。	
Root Path Cost	ルートポートからルートブリッジへのコストを表示します。	
Time Since Topology Change	スパニングツリーの構成変更を行ってから経過時間(秒)を表示します。	
Topology Change Count	スパニングツリーの構成変更を行った回数を表示します。	
Designated Root	ルートブリッジのブリッジIDを表示します。	
Hello Time	スパニングツリーの構成を確認するためのルートブリッジとのアクセス間隔を表示します。	
Maximum Age	Helloメッセージのタイムアウト時間を表示します。	
Forward Delay	「Listening」から「Learning」、または「Learning」から「Forwarding」のように、スパニングツリーの状態遷移の時間を表示します。	
Bridge ID	本装置のブリッジIDを表示します。ブリッジIDはブリッジプライオリティとMACアドレスで構成されます。 工場出荷時のブリッジプライオリティは8000に設定されています。	
Bridge Hello Time	本装置がルートブリッジになった際のHelloタイムを表示します。	
Bridge Maximum Age	本装置がルートブリッジになった際のMaximum Ageを表示します。	
Bridge Forward Delay	本装置がルートブリッジになった際のForward Delayを表示します。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

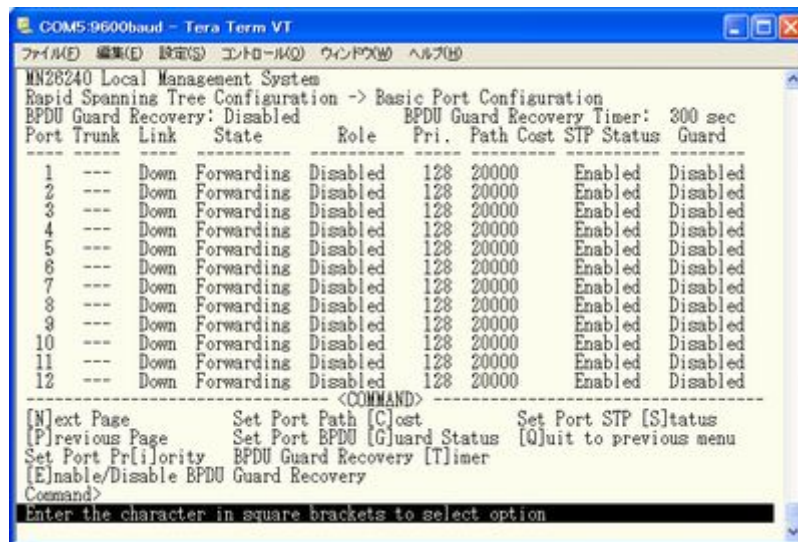
N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
E	スパニングツリープロトコルのON/OFFを設定します。
	「E」を入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled STP (E/D)>」に変わりますので、使用する場合は「E」を、使用しない場合は「D」を入力してください。
V	スパニングツリープロトコルの動作モードを設定します。
	「V」を入力するとプロンプトが「Set RSTP protocol version (S/R)>」に変わりますので、IEEE802.1d スパニングツリープロトコルで動作させる場合は「S」を、IEEE802.1wラピッドスパニングツリープロトコルで動作させる場合は「R」を入力してください。
B	ポート毎の基本設定を行います。
	「B」を入力すると画面が「Basic Port Configuration」に変わり、ポート毎の基本設定が可能となります。ここでの設定方法については次項(4.7.4.a)を参照してください。
A	ポート毎の拡張設定を行います。
	「A」を入力すると画面が「Advanced Port Configuration」に変わり、ポート毎の拡張設定が可能となります。ここでの設定方法については次項(4.7.4.b)を参照してください。
P	ブリッジプライオリティを設定します。
	「P」を入力するとプロンプトが「Enter bridge priority>」に変わりますので、画面最下部の黒帯に指定された範囲で入力してください。
H	Bridge hello timeを設定します。
	「H」を入力するとプロンプトが「Enter bridge hello time>」に変わりますので、画面最下部の黒帯に指定された範囲で入力してください。
M	Bridge maximum ageを設定します。
	「M」を入力するとプロンプトが「Enter bridge maximum age>」に変わりますので、画面最下部の黒帯に指定された範囲で入力してください。
F	Bridge forward delayを設定します。
	「F」を入力するとプロンプトが「Enter bridge forward delay>」に変わりますので、画面最下部の黒帯に指定された範囲で入力してください。
I	ポート毎のトポロジー情報を表示します。
	「I」を入力すると画面が「Designated Topology Information」に変わり、ポート毎のトポロジー情報が参照できます。画面の内容については次項(4.7.4.c)を参照してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意： 「Bridge Hello Time」、「Bridge Maximum Age」、「Bridge Forward Delay」の各値は互いに関連しています。ある一つのパラメータを変更すると、それに伴い自動的に他のパラメータの設定可能な範囲が変わります。設定可能範囲は画面最下部の黒帯の説明欄に表示されますので参照してください。

ご注意： 本装置はスパニングツリーとリンクアグリゲーションの併用ができません。
また、スパニングツリーとインターネットマンションモードは併用できません。

4.7.4.a. ポート毎の基本設定(Basic Port Configuration)

「Rapid Spanning Tree Configuration Menu」でコマンド「B」を選択すると、図4-7-15のような「Basic Port Configuration」の画面になります。この画面ではスパンニングツリーに関するポート毎の設定を行ないます。



COM5:9600baud - Tera Term VT

File(E) Edit(E) Settings(S) Control(Q) Windows(W) Help(H)

MN28240 Local Management System

Rapid Spanning Tree Configuration -> Basic Port Configuration

BPDUGuard Recovery: Disabled BPDUGuard Recovery Timer: 300 sec

Port	Trunk	Link	State	Role	Pri.	Path Cost	STP Status	Guard
1	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
2	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
3	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
4	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
5	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
6	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
7	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
8	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
9	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
10	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
11	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled
12	---	Down	Forwarding	Disabled	128	20000	Enabled	Disabled

<COMMAND>

[N]ext Page Set Port Path [C]ost Set Port STP [S]tatus
[P]revious Page Set Port BPDUGuard Status [Q]uit to previous menu
Set Port Pr[i]ority BPDUGuard Recovery [T]imer
[E]nable/Disable BPDUGuard Recovery
Command>

Enter the character in square brackets to select option

図4-7-15 ポート毎の基本設定

画面の説明

BPDU Guard Recovery	BPDUガード自動復旧機能の有効・無効を表示します。 工場出荷時は「Disabled」に設定されています。	
	Enabled	自動復旧機能が有効です。
	Disabled	自動復旧機能が無効です。
BPDU Guard Recovery Timer	自動復旧までの時間を表します。 工場出荷時は300秒に設定されています。	
Port	ポート番号を表します。	
Trunk	トランキングが設定されている場合、トランクのグループ番号(key)を表示します。	
Link	リンクの状態を表します。	
	UP	リンクが正常に確立している状態です。
	DOWN	リンクが確立されていない状態です。
State	現在のポートの状態を表します。	
	Forwarding	計算の結果、通常の通信を行っている状態を表します。
	Learning	情報をもとに計算を行っている状態を表します。
	Discarding	計算を行わない状態を表します。
Role	スパニングツリーにおけるポートの役割を表します。	
	Designated	指定ポートとして動作中です。
	Root	ルートポートとして動作中です。
	Alternate	オルタネイトポートとして動作中です。
	Backup	バックアップポートとして動作中です。
	Disabled	STPが動作していません。
Pri.	スイッチ内での各ポートの優先順位を表します。数値が高いほど優先順位が高くなります。 工場出荷時は全ポート128に設定されています。(値は16の倍数となります。)	
Path Cost	各ポートのコストを表します。工場出荷時は20000に設定されています。	
STP Status	各ポートのスパニングツリーの有効・無効を表示します。 工場出荷時は「Enabled」に設定されています。	
	Enabled	スパニングツリーが有効です。
	Disabled	スパニングツリーが無効です。
Guard	各ポートのBPDUガードの有効・無効を表示します。 工場出荷時は「Disabled」に設定されています。	
	Enabled	BPDUガードが有効です。
	Disabled	BPDUガードが無効です。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。	
		「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。	
		「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
I	スイッチ内でのポートの優先順位を設定します。	
		「I」と入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」に変わりますので、対象のポート番号を入力してください。その後、その後、「Enter priority for port #>」となりますので、0から240の範囲で16の倍数を入力してください。
C	各ポートのコストを設定します。	
		「C」と入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」に変わりますので、対象のポート番号を入力してください。その後、その後、「Enter path cost for port #>」となりますので、1から200000000の範囲で入力してください。
S	各ポートのスパニングツリーの有効・無効を設定します。	
		「S」と入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」に変わりますので、対象のポート番号を入力してください。その後、「Enabled or Disabled STP for port # (E/D)>」となりますので、スパニングツリーを使用する場合は「E」を、使用しない場合は「D」を入力してください。

G	各ポートのBPDUガードの有効・無効を設定します。
	「G」と入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」に変わりますので、対象のポート番号を入力してください。その後、「Enable or Disable BPDU guard for port # (E/D)>」となりますので、BPDUガードを使用する場合は「E」を、使用しない場合は「D」を入力してください。
E	BPDUガード自動復旧機能の有効・無効を設定します。
	「E」と入力するとプロンプトが「Enable or Disable BPDU Guard Recovery (E/D)>」となりますので、BPDUガード自動復旧機能を使用する場合は「E」を、使用しない場合は「D」を入力してください。
T	自動復旧までの時間を設定します。
	「T」と入力するとプロンプトが「Enter Recovery Timer >」に変わりますので、画面最下部の黒帯に指定された範囲で入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.4.b. ポート毎の拡張設定(Advanced Port Configuration)

「Rapid Spanning Tree Configuration Menu」でコマンド「A」を選択すると、**図4-7-16**のような「Advanced Port Configuration」の画面になります。この画面ではスパンニングツリーに関するポート毎の拡張設定を行ないます。

COM1-9600baud - Tera Term VT

ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(C) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

MN26240 Local Management System

Rapid Spanning Tree Configuration -> Advanced Port Configuration

Port	Trunk	Link	State	Role	Admin/OperEdge	Admin/OperPtoP	Migrat
1	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
2	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
3	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
4	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
5	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
6	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
7	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
8	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
9	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
10	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
11	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.
12	---	Down	Discarding	Disabled	False/False	Auto /False	Init.

<COMMAND>

[N]ext Page Set Port P-[t]o-P Status
 [P]revious Page Restart Port [M]igration
 Set Port [E]dge Status [Q]uit to previous menu

Command>

Enter the character in square brackets to select option

図4-7-16 ポート毎の拡張設定

画面の説明

Port	ポート番号を表します。	
Trunk	トランキングが設定されている場合、トランクのグループ番号(key)を表示します。	
Link	リンクの状態を表します。	
	UP	リンクが正常に確立している状態です。
	DOWN	リンクが確立されていない状態です。
State	現在のポートの状態を表します。	
	Forwarding	計算の結果、通常の通信を行っている状態を表します。
	Learning	情報をもとに計算を行っている状態を表します。
	Discarding	計算を行わない状態を表します。
Role	スパニングツリーにおけるポートの役割を表します。	
	Designated	指定ポートとして動作中です。
	Root	ルートポートとして動作中です。
	Alternate	オルタネイトポートとして動作中です。
	Backup	バックアップポートとして動作中です。
	Disabled	STPが動作していません。
Admin/OperEdge	エッジポート(即座にForwardingに移行可能なポート)の設定状態を表示します。前半(Admin:Administration)は設定した状態、後半(Oper:Operation)は実際の状態を表します。	
	True	エッジポートに設定可能です。
	False	エッジポートに設定不可です。(工場出荷時)
Admin/OperPtoP	本装置がPoint-to-pointで接続されているかを表します。前半(Admin:Administration)は設定した状態、後半(Oper:Operation)は実際の状態を表します。	
	Auto	ポートの状態により自動認識します。(Adminのみ)(工場出荷時)
	True	P-to-P接続されています。
	False	P-to-P接続されていません。
Migrat	現状のスパニングツリーの動作状況を表します。	
	STP	STPが動作中です。
	RSTP	RSTPが動作中です。
	Init.	STPが動作していません。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。	
		「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。	
		「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
E	各ポートのEdge Statusを設定します。	
		「E」と入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」に変わりますので、対象のポート番号を入力してください。その後、「Set edge port for port # (T/F)>」となりますので、Trueの場合は「T」を、Falseの場合は「F」を入力してください。
T	各ポートのP-to-P Statusを設定します。	
		「T」と入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」に変わりますので、対象のポート番号を入力してください。その後、「Set point-to-point for port # (A/T/F)>」となりますので、Autoの場合は「A」を、Trueの場合は「T」を、Falseの場合は「F」を入力してください。
M	スパニングツリーの動作を再起動します。	
		「M」と入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」に変わりますので、対象のポート番号を入力してください。その後、「Restart the protocol migration process for port # ? (Y/N)>」となりますので、再起動する場合は「Y」を、しない場合は「N」を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.7.4.c. 構成情報の表示(Designated Topology Information)

「Rapid Spanning Tree Configuration Menu」でコマンド「I」を選択すると、図4-7-17のような「Designated Topology Information」の画面になります。この画面ではポート毎のスパニングツリーの構成情報の表示を行います。

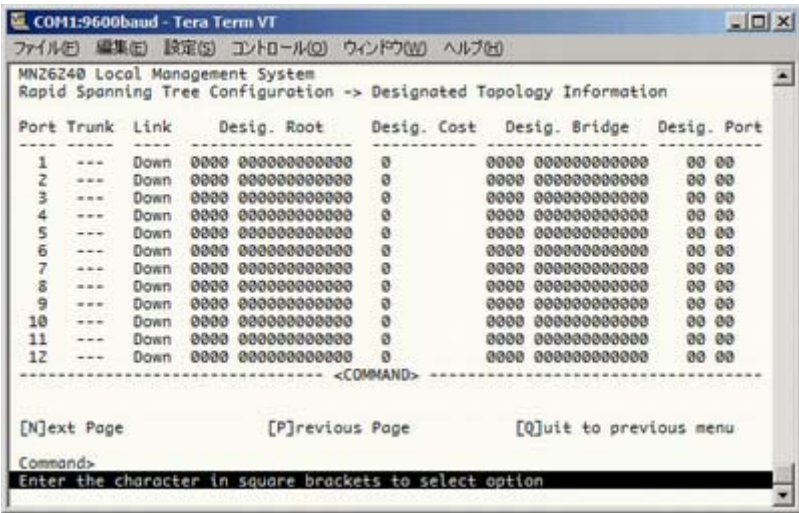


図4-7-17 構成情報の表示

画面の説明

Port	ポート番号を表します。	
Trunk	トランキングが設定されている場合、トランクのグループ番号(key)を表示します。	
Link	リンクの状態を表します。	
	UP	リンクが正常に確立している状態です。
	DOWN	リンクが確立されていない状態です。
Desig. Root	ルートブリッジのIDを表します。	
Desig. Cost	送信しているコストを表します。	
Desig. Bridge	指定ブリッジのブリッジIDを表します。	
Desig. Port	指定ポートのポートIDを表します。 (ポートIDはポートプライオリティ値とポート番号の組合せです。)	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。		
		「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。	
P	前のページを表示します。		
		「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。	
Q	上位のメニューに戻ります。		

4.7.5. アクセスコントロールの設定

(Access Control Configuration Menu)

「Advanced Switch Configuration Menu」でコマンド「A」を選択すると、図4-7-18のような「Access Control Configuration Menu」の画面になります。この画面ではAccess Controlの設定を行ないます。

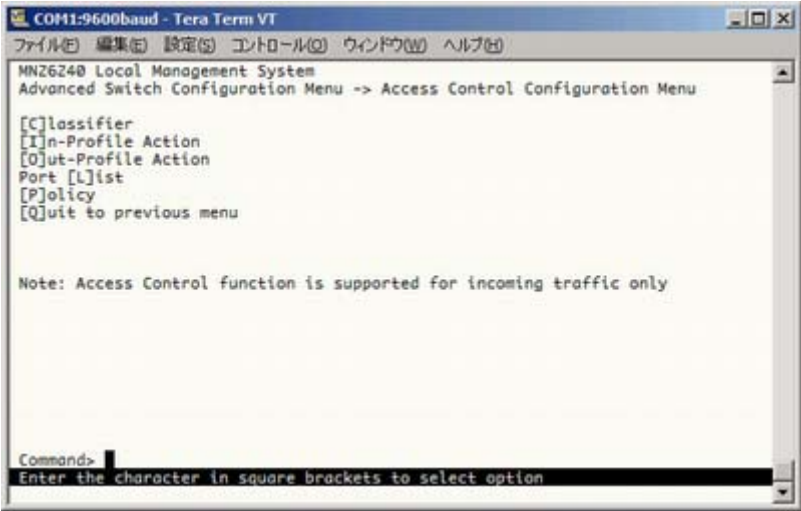


図4-7-18 アクセスコントロールの設定

画面の説明

Classifier	トラフィックの分類を行うClassifierの設定を行います。
In-Profile action	入力パケットに対するアクションを設定します。
Out-Profile action	コミットレートを超えた入力パケットに対するアクションを設定します。
Port list	適用するポートのリストを設定します。
Policy	ポリシーの設定を行います。
Quit to previous menu	上位のメニュー画面に戻ります。

4.7.5.a. Classifierの設定(Classifier Configuration Menu)

「Access Control Configuration Menu」の画面でコマンド「C」を選択すると図4-7-19のような「Classifier Configuration Menu」の画面になります。この画面ではClassifierの設定を行います。

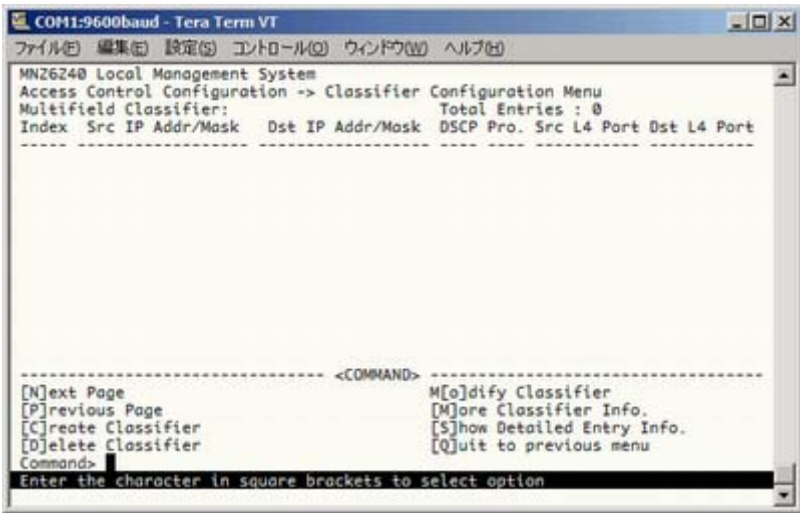


図4-7-19 Classifierの設定

画面の説明

Multifield classifier	各種Classifierの定義情報を表示します。
Total Entries	作成されているクラスの数(indexの数)を表示します。
Index	ClassifierのIndex番号を表示します。
Scr IP Addr/Mask	送信元IPアドレスを表示します。
Dst IP Addr/Mask	宛先IPアドレスを表示します。
DSCP	優先度情報DSCP値を表示します。
Pro.	プロトコルを表示します。
Src L4 Port	TCP/UDPの送信元ポート番号を表示します。
Dst L4 Port	TCP/UDPの宛先ポート番号を表示します。

ここで使用できるコマンドは次のとおりです。

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
C	新しいクラスを作成を行います。
	「C」と入力すると、「Create Classifier Configuration Menu」に変わります。Create Classifier Configuration Menuに関しては、次項（4.7.5.b.）を参照してください。
D	クラスの削除を行います。
	「D」と入力するとプロンプトが「Please enter classifier index>」と変わりますので、削除するクラスのindexを1～65535の範囲で入力してください。
O	クラスの設定の修正を行います。
	「O」と入力すると、プロンプトが「Modify Classifier Menu」に変わりますので、「Create Classifier Configuration Menu」と同じように設定（修正）してください。
M	詳細なクラスの情報を表示します。
	「M」と入力すると、送信元MACアドレス、宛先MACアドレス、VLAN IDの情報を表示します。
S	より詳細なクラスの情報を表示します。
	「S」と入力すると、送信元MACアドレス、宛先MACアドレス、VLAN ID、送信元IPアドレス、宛先IPアドレス、DSCP、プロトコルの種類、TCP/UDP送信元ポート番号、TCP/UDP宛先ポート番号の情報を表示します。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.5.b. Classifierの詳細設定(Create Classifier Configuration Menu)

「Classifier Configuration Menu」の画面でコマンド「C」を選択すると図4-7-20のような「Create Classifier Configuration Menu」の画面になります。この画面ではClassifierの詳細な設定を行います。

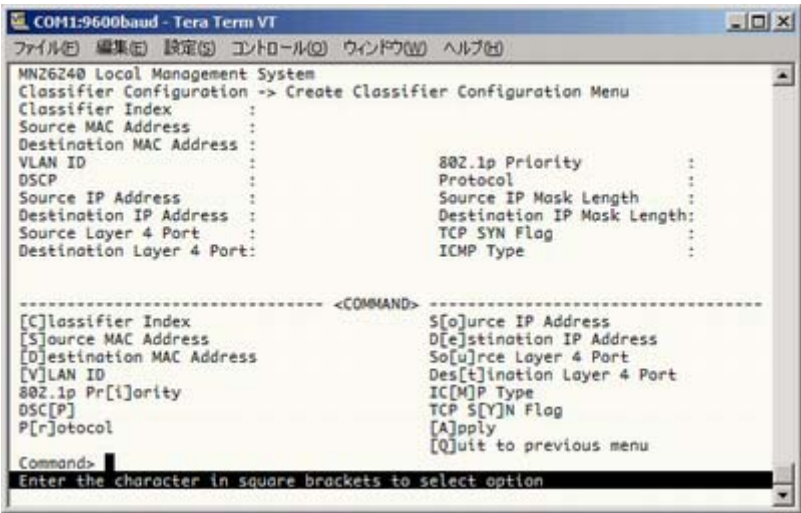


図4-7-20 Classifierの作成

画面の説明

Classifier Index	ClassifierのIndexを表示します。
Source MAC Address	送信元MACアドレスを表示します。
Destination MAC Address	宛先MACアドレスを表示します。
VLAN ID	VLAN IDを表示します。
DSCP	DSCP値を表示します。
Protocol	プロトコルの種類を表示します。
Source IP Address	送信元IPアドレスを表示します。
Source Mask length	送信元アドレスマスクの長さ(ビット数)を表示します。
Destination IP Address	宛先IPアドレスを表示します。
Destination Mask length	宛先アドレスマスクの長さ(ビット数)を表示します。
Source L4 Port	TCP/UDP送信元ポート番号を表示します。
Destination L4 Port	TCP/UDP宛先ポート番号を表示します。
802.1p Priority	IEEE802.1pのプライオリティを表示します。
TCP SYN Flag	TCPでの SYN Flagでのフィルタの有無を表示します。
ICMP Type	ICMPのタイプを表示します。

ここで使用できるコマンドは次のとおりです。

C	ClassifierのIndexを設定します。
	「C」と入力すると、「Enter Classifier Index>」に変わりますので、1～65535の範囲でクラス のIndexを入力してください。
S	フィルタリングする送信元MACアドレスを設定します。
	「S」と入力すると、「Enter source MAC address >」に変わりますので、送信元MACアドレス をxx:xx:xx:xx:xx:xxのように入力してください。
D	フィルタリングする宛先MACアドレスを設定します。
	「D」と入力すると、「Enter destination MAC address >」に変わりますので、宛先MACアド レスをxx:xx:xx:xx:xx:xxのように入力してください。
V	フィルタリングするVLAN IDの設定を行います。
	「V」と入力するとプロンプトが「Enter VLAN ID >」と変わりますので、VLAN IDを1～4094 の範囲で入力してください。
P	フィルタリングするDSCP値の設定を行います。
	「P」と入力すると、プロンプトが「Enter DSCP value(0-63)>」と変わりますので、DSCP値 を0～63の範囲で入力してください。
R	フィルタリングするプロトコルの設定を行います。
	「R」と入力すると、プロンプトが「Select protocol >」と変わりますので、TCPの場合は 「1」を、UDPの場合は「2」を、ICMPの場合は「3」を、IGMPの場合は「4」を、RSVPの場合 は「5」を、Other Protocolsの場合は「6」を入力してください。
O	フィルタリングする送信元のIPアドレスを設定します。
	「O」と入力すると、プロンプトが「Enter source IP address >」と変わりますので、送信 元IPアドレスを入力してください。
E	フィルタリングする宛先のIPアドレスを設定します。
	「E」と入力すると、プロンプトが「Enter destination IP address >」と変わりますので、 宛先IPアドレスを入力してください。
U	フィルタリングするTCP/UDP送信元ポート番号を設定します。
	「U」と入力すると、プロンプトが「Choose single port or defined port range (S/D) >」 と変わりますので、1つを指定する場合は「S」を入力してください。するとプロンプトが、 「Enter source layer 4 port>」となり、送信元ポート番号を入力してください。範囲で指 定する場合は「D」を入力してください。するとプロンプトが「Enter starting source port>」、 「Enter final source port>」となりますので開始と終了の送信元ポート番号を入力してく ださい。
T	フィルタリングするTCP/UDP宛先ポート番号を設定します。
	「T」と入力すると、プロンプトが「Choose single port or defined port range (S/D) >」 と変わりますので、1つを指定する場合は「S」を入力してください。するとプロンプトが、 「Enter destination layer 4 port>」と宛先ポート番号を入力してください。範囲で指定 する場合は「D」を入力してください。するとプロンプトが「Enter starting destination port>」、「Enter final destination port>」となりますので開始と終了の宛先ポート番号 を入力してください。
I	フィルタリングする802.1pプライオリティを設定します。
	「I」と入力すると、プロンプトが「Enter 802.1p priority >」と変わりますので、802.1p プライオリティを0～7の範囲で入力してください。
M	フィルタリングするICMPのタイプを設定します。(※プロトコルをICMPにする必要があります。)
	「M」と入力すると、プロンプトが「Enter ICMP type>」と変わりますので、ICMPのタイプ を0～18の間で入力してください。
Y	フィルタリングするTCP SYN Flagを設定します。(※プロトコルをTCPにする必要があります。)
	「Y」と入力すると、プロンプトが「Set TCP SYN flag (Y/N)>」と変わりますので、TCP SYN flagでフィルタをかける場合は「Y」を、フィルタをかけない場合、またはフィルタを外す 場合は「N」を入力してください。表示はフィルタをかけた場合は「True」、かけない場合 は「False」と表示されます。
A	設定した内容を適用します。ここで適用を行わなければ設定した内容は有効になりません。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.5.c. Classifierの簡易情報の参照(Classifier Configuration Menu)

「Classifier Configuration Menu」の画面でコマンド「M」を選択すると図4-7-21のような「More Classifier Information」の画面になります。この画面ではClassifierの簡易の情報を参照できます。

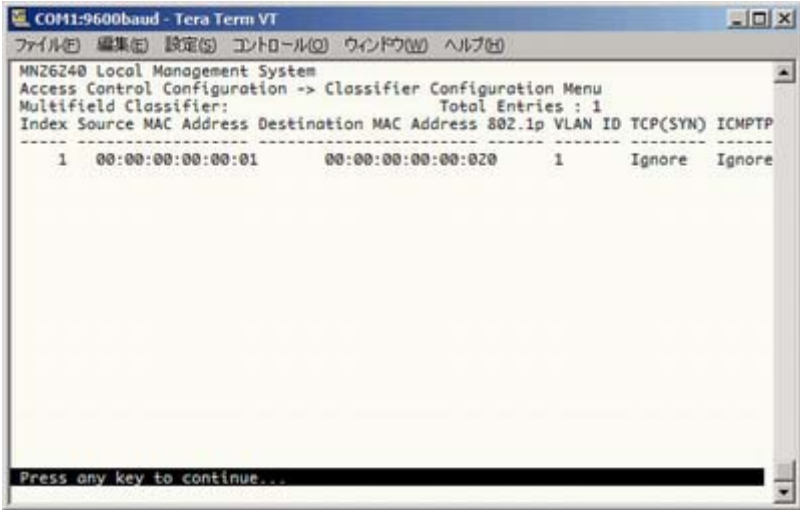


図4-7-21 Classifierの簡易情報の参照

画面の説明

Multifield classifier	クラスの多分野にわたる情報を以下に表示します。
Total Entries	作成されているクラスの数(indexの数)を表示します。
Classifier Index	クラスのIndexを表示します。
Source MAC Address	送信元MACアドレスを表示します。
Destination MAC Address	宛先MACアドレスを表示します。
VLAN ID	VLAN IDを表示します。

4.7.5.d. Classifierの詳細情報の参照(Show Detailed Entries Information Menu)

「Classifier Configuration Menu」の画面でコマンド「S」を選択すると図4-7-22のような「Show Detailed Entries Information Menu」の画面になります。この画面ではClassifierの詳細な情報の参照ができます。参照を行うには、Classifierの作成が必要となります。

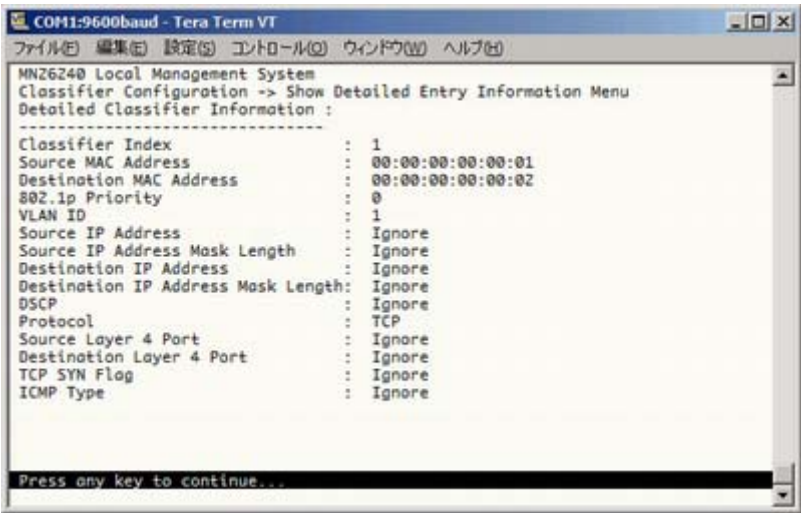


図4-7-22 Classifierの詳細情報の参照

画面の説明

Classifier Index	ClassifierのIndexを表示します。
Source MAC Address	送信元MACアドレスを表示します。
Destination MAC Address	宛先MACアドレスを表示します。
VLAN ID	VLAN IDを表示します。
DSCP	DSCPを表示します。
Protocol	プロトコルの種類を表示します。
Source IP Address	送信元IPアドレスを表示します。
Source Mask length	送信元アドレスマスクの長さ(ビット長)を表示します。
Destination IP Address	宛先IPアドレスを表示します。
Destination Mask length	宛先アドレスマスクの長さ(ビット長)を表示します。
Source L4 Port	TCP/UDP送信元ポート番号を表示します。
Destination L4 Port	TCP/UDP宛先ポート番号を表示します。
802.1p Priority	IEEE802.1pのプライオリティを表示します。
TCP SYN Flag	TCPでの SYN Flagでのフィルタの有無を表示します。
ICMP Type	ICMPのタイプを表示します。

4.7.5.e. In-Profile Actionの設定(In-Profile Action Configuration Menu)

「Access Control Configuration Menu」の画面でコマンド「I」を選択すると図4-7-23のような「In-Profile Action Configuration Menu」の画面になります。この画面ではIn-Profileの設定を行います。

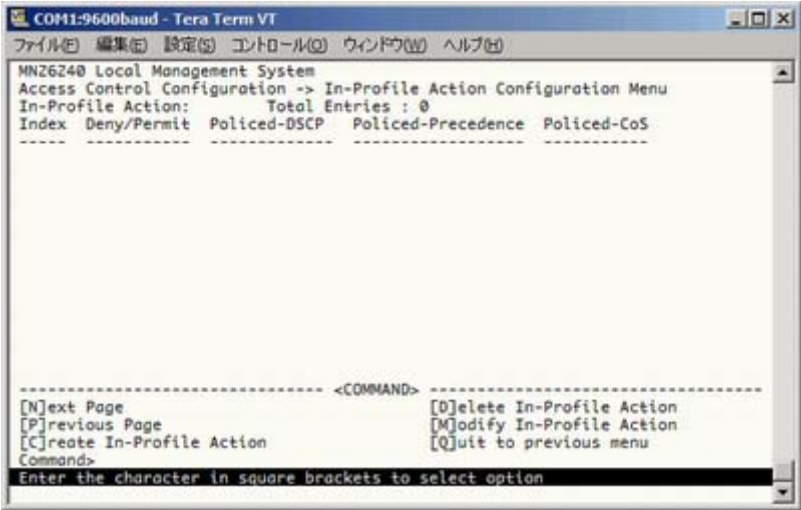


図4-7-23 In-Profileの設定

画面の説明

Total Entries	作成されているクラスの数(indexの数)を表示します。	
Index	In-profileのIndex番号を表示します。	
Deny/Permit	パケットの拒否/許可を表示します。	
Action	In-profileにおける実行モードを表示します。	
	Policed-DSCP	DSCP値をマーキングします。
	Policed-Precedence	Precedence値をマーキングします。
	Policed-CoS	CoS値をマーキングします。

ここで使用できるコマンドは次のとおりです。

N	次のページを表示します。	
		「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。	
		「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
C	In-profileを作成します。	
	「C」と入力すると、「Create In-Profile Action Menu」に変わりますので、次項（4.7.5.f）を参照してください。	
	Policed-DSCP	DSCP値をマーキングします。
	Policed-Precedence	Precedence値をマーキングします。
D	Policed-CoS	CoS値をマーキングします。
	In-profileを削除します	
		「D」と入力するとプロンプトが「Enter in-profile action Index>」と変わりますので、削除するIn-profileのIndex番号を入力してください。
M	In-profileを修正します。	
		「M」と入力するとプロンプトが「Enter in-profile action Index>」と変わりますので、修正するIn-profileのIndex番号を入力し、修正箇所をIn-profileの作成時と同様な操作で修正してください。
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.7.5.f. In-Profile Actionの作成(Create In-Profile Action Menu)

「In-Profile Action Configuration」の画面でコマンド「C」を選択すると図4-7-24のような「Create In-Profile Action Menu」の画面になります。この画面ではIn-Profileの作成を行います。

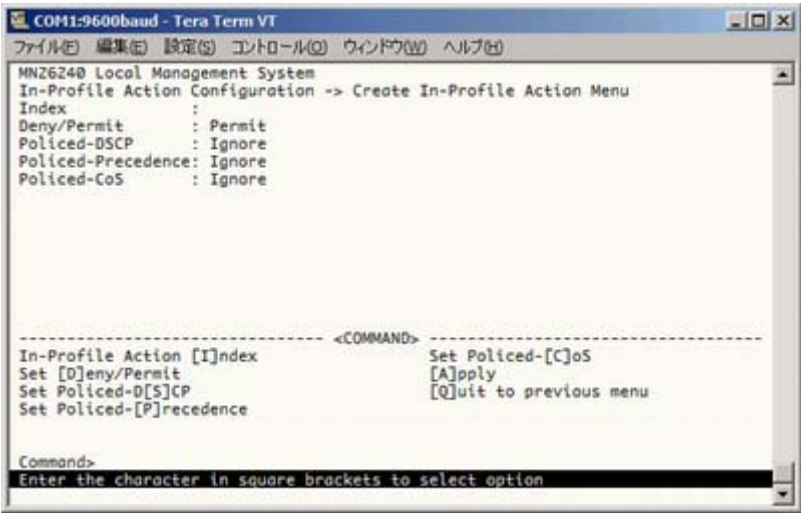


図4-7-24 In-Profileの作成

画面の説明

Index	In-profileのIndex番号を表示します。	
Deny/Permit	パケットの拒否/許可を表示します。	
Action	Policed-DSCP	DSCP値をマーキングします。
	Policed-Precedence	Precedence値をマーキングします。
	Policed-CoS	CoS値をマーキングします。

ここで使用できるコマンドは次のとおりです。

I	In-ProfileのIndex番号を設定します。	
		「I」と入力すると、プロンプトが「Enter in-profile action index>」に変わりますので、Index番号を1-65535の範囲で入力してください。
D	パケットの拒否/許可の設定をします。	
		「D」と入力するとプロンプトが、「Select Deny/Permit (1-2) >」に変わりますので、拒否する場合は「1」を、許可する場合は「2」をを入力してください。
S	マーキングするDSCP値の設定をします	
		「S」と入力するとプロンプトが「Enter DSCP value>」と変わりますので、DSCP値を0-63の範囲で入力してください。
P	マーキングするPrecedence値の設定をします	
		「P」と入力するとプロンプトが「Enter ToS precedence value>」と変わりますので、Precedence値を0-7の範囲で入力してください。
C	マーキングするCoS値の設定をします	
		「C」と入力するとプロンプトが「Enter CoS value>」と変わりますので、CoS値を0-7の範囲で入力してください。
A	設定した内容を適用します。ここで適用しないと、設定した内容は有効になりません。	
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.7.5.g. Out-Profile Actionの設定(Out-Profile Action Configuration Menu)

「AccessControl Configuration Menu」の画面でコマンド「0」を選択すると図4-7-25のような「Out-Profile Action Configuration Menu」の画面になります。この画面ではOut-Profileの設定を行います。

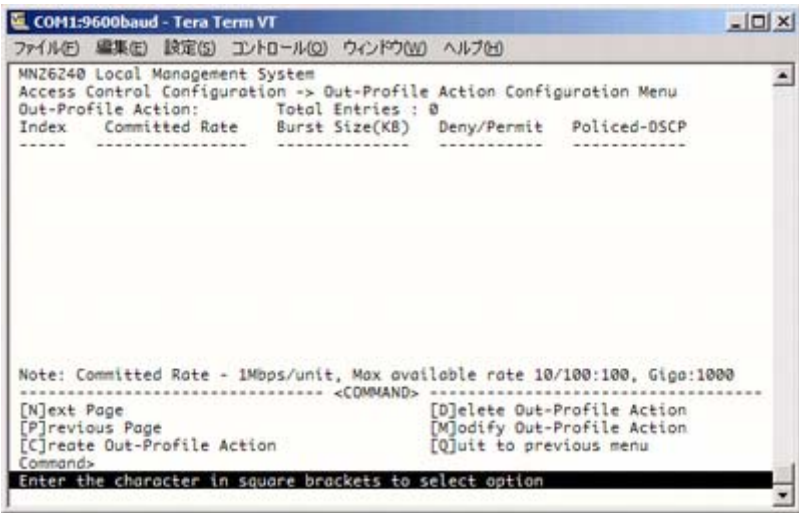


図4-7-25 Out-Profileの設定

画面の説明

Total Entries	作成されているクラスの数(indexの数)を表示します。	
Index	Out-ProfileのIndex番号を表示します。	
Committed Rate	パケットがバッファに入る速度を表示します。	
	(1Mbps/unit)	コミットレート値を表示します。
Burst Size(KB)	コミットレートを超えて送ることができるトラフィックのバーストサイズを表示します。Burst Sizeは4K, 8K, 16K, 32K, 64Kが使用されます。	
Deny/Permit	パケットの拒否/許可を表示します。	
Action	Out-Profileにおける実行モードを表示します。	
	Policed-DSCP	DSCP値をマーキングします。

ここで使用できるコマンドは次のとおりです。

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
C	Out-Profileを作成します。
	「C」と入力すると、「Create Out-Profile Action Menu」に変わりますので、次項(4. 7. 5. h.)を参照してください。
D	Out-Profileを削除します。
	「D」と入力するとプロンプトが「Enter out-profile action Index>」と変わりますので、削除するOut-profileのIndex番号を入力してください。
M	Out-profileを修正します。
	「M」と入力するとプロンプトが「Enter out-profile action Index>」と変わりますので、修正するOut-profileのIndex番号を入力し、修正箇所をOut-profileの作成時と同様な操作で修正してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.5.h. Out-Profile Actionの作成(Create Out-Profile Action Menu)

「Out-Profile Action Configuration」の画面でコマンド「C」を選択すると図4-7-26のような「Create Out-Profile Action Menu」の画面になります。この画面ではOut-Profileの作成を行います。

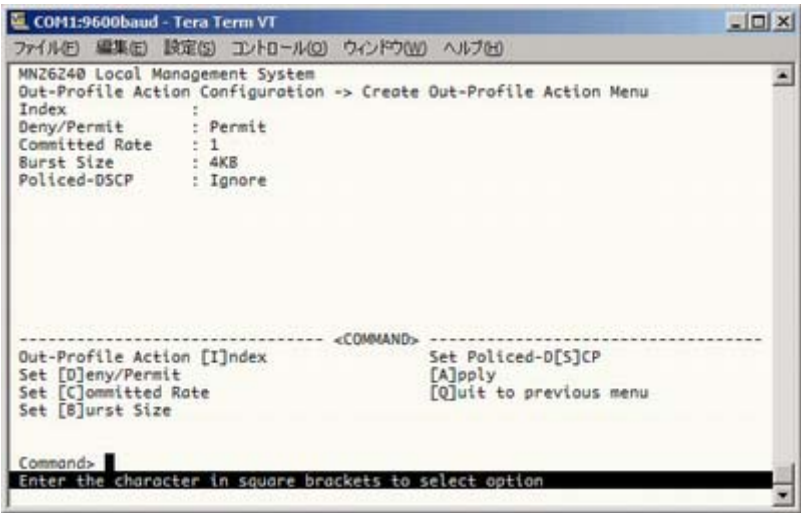


図4-7-26 Out-Profileの作成

画面の説明

Index	Out-ProfileのIndex番号を表示します。	
Committed Rate	パケットがバッファに入る速度を表示します。	
	(1Mbps/unit)	コミットレートの保証サイズを表示します。
Burst Size(KB)	コミットレートを超過して送ることができるトラフィックのバーストサイズを表示しています。Burst Sizeは4K, 8K, 16K, 32K, 64Kから選択します。	
Deny/Permit	パケットの拒否/許可を表示します。	
Action	Out-Profileにおける実行モードを表示します。	
	Policed-dscp	DSCP値をマーキングします。

ここで使用できるコマンドは次のとおりです。

I	Out-ProfileのIndex番号を設定します。
	「I」と入力すると、プロンプトが「Enter Out-Profile action index>」に変わりますので、Index番号を1-65535の範囲で入力してください。
D	パケットの拒否/許可の設定をします。
	「D」と入力するとプロンプトが、「Select Deny/Permit (1-2) >」に変わりますので、拒否する場合は「1」を、許可させる場合は「2」を入力してください。
C	コミットレートの設定をします。
	「C」と入力するとプロンプトが、「Enter committed rate>」に変わりますので、コミットレートを1-1000の範囲で入力してください。
B	バーストサイズの設定をします。
	「B」と入力するとプロンプトが、「Select burst size (1-5)>」に変わりますので、コミットレートを超えて送ることができるトラフィックのバーストサイズを4Kの場合は「1」、8Kの場合は「2」、16Kの場合は「3」、32Kの場合は「4」、64Kの場合は「5」を入力してください。
S	マーキングするDSCP値の設定をします
	「S」と入力するとプロンプトが「Enter DSCP value>」と変わりますので、DSCP値を0-63の範囲で入力してください。
A	設定した内容を適用します。ここで適用しないと、設定した内容は有効になりません。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.5.i. ポートリストの設定(Port List Configuration Menu)

「Access Control Configuration Menu」の画面でコマンド「L」を選択すると図4-7-27のような「Port List Configuration Menu」の画面になります。この画面ではAccess Controlを適用するポートリストの設定を行います。

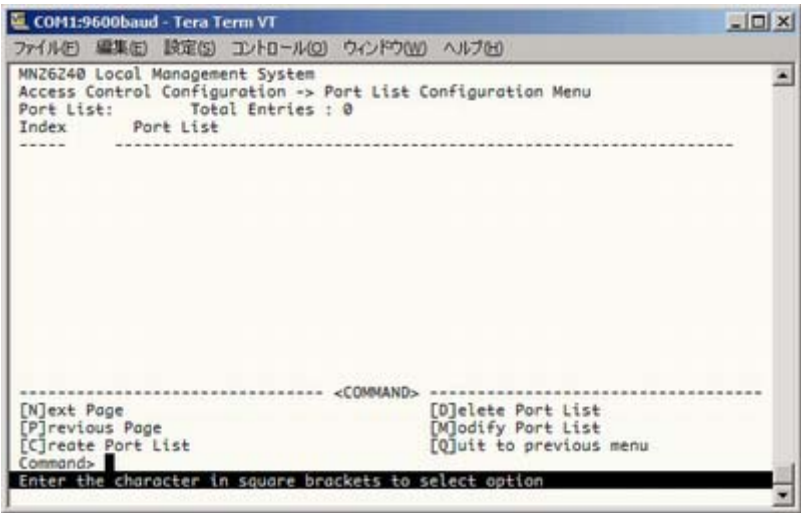


図4-7-27 Port Listの設定

画面の説明

Total Entries	作成されているポートリストの数(indexの数)を表示します。
Index	ポートリストのIndex番号を表示します。
Port List	ポートリストに属するポート番号を表示します。

ここで使用できるコマンドは次のとおりです。

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
C	ポートリストを作成します。
	「C」と入力するとプロンプトが「Enter port list index>」と変わりますので、実行するIndex番号を入力してください。入力後「Enter port list number e.g.: 1, 3, 5-26>」と変わりますので、リストに含めるポート番号を入力してください。
D	ポートリストを削除します
	「D」と入力するとプロンプトが「Enter port list index >」と変わりますので、削除するポートリストのIndex番号を入力してください。
M	ポートリストを修正します。
	「M」と入力するとプロンプトが「Enter port list index>」と変わりますので、修正するポートリストのIndex番号を入力し、修正箇所をポートリストの作成時と同様な操作で修正してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.5.j. ポリシーの設定(Policy Configuration Menu)

「Access Control Configuration Menu」の画面でコマンド「P」を選択すると図4-7-28のような「Policy Configuration Menu」の画面になります。この画面ではポリシーの設定を行います。

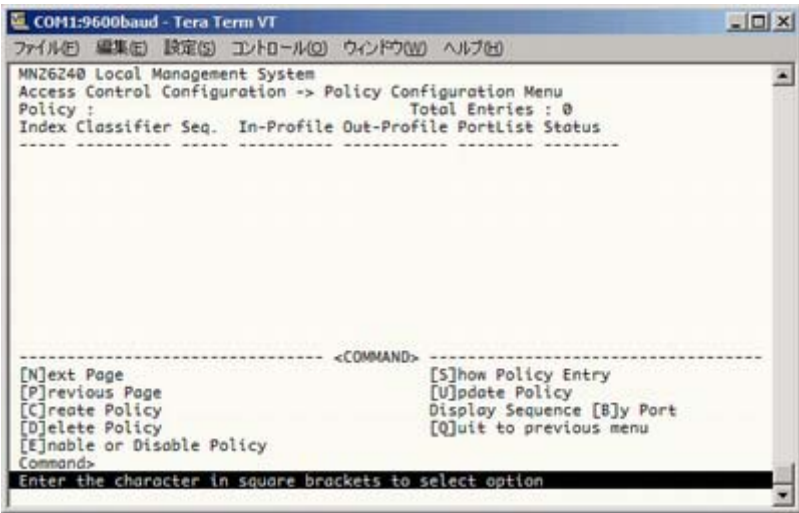


図4-7-28 ポリシーの設定

画面の説明

Total Entries	作成されているポリシーの数(indexの数)を表示します。
Index	ポリシーのIndex番号を表示します。
Classifier	ClassifierのIndex番号を表示します。
Seq.	ポリシーの適用順を表すシーケンス番号を表示します。（昇順）
In-Profile	In-profileのIndex番号を表示します。
Out-Profile	Out-profileのIndex番号を表示します。
Port List	Port listのIndex番号を表示します。
Status	ポリシーの適用状態を表示します。

ここで使用できるコマンドは次のとおりです。

N	次のページを表示します。	
		「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。	
		「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
C	ポリシーを作成します。	
		「C」と入力すると「Create Policy Configuration Menu」の画面になります。「Create Policy Configuration Menu」に関しては次項（4.7.5.k.）を参照してください。
D	ポリシーを削除します。	
		「D」と入力するとプロンプトが「Enter a Policy index >」と変わりますので、削除するポリシーのIndex番号を入力してください。
E	ポリシーの状態を有効/無効にします。	
		「E」と入力するとプロンプトが「Select policy index>」と変わりますので、有効/無効にするポリシーのIndex番号を入力してください。入力後「Enabled or Disabled policy Entry >」と変わりますので、有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。
	Enabled	ポリシーを有効にします。
	Disabled	ポリシーを無効にします。
S	ポリシーの情報を表示します。	
		「S」と入力するとポリシーの個々の詳細な情報を表示します。
U	ポリシーの修正を行います。	
		「U」と入力するとプロンプトが「Enter policy index >」と変わりますので、修正するIndex番号を入力してください。入力後、ポリシー作成時と同様の操作をしてください。またEnabledの状態では修正はできないことに注意してください。Enabled の場合、Disabledの状態にしてから修正を行ってください。
B	ポート毎に適用するポリシーのシーケンス番号を表示します。	
		「B」と入力するとプロンプトが「Enter port number >」と変わりますので、表示するポート番号を入力してください。入力後「Select policy index order or policy sequence order (I/S)>」に変わりますので、policy index に対応するpolicy sequenceを見る場合は「I」を、policy sequence に対応するpolicy index sequenceを見る場合は「S」を、入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.7.5.k. ポリシーの作成(Create Policy Configuration Menu)

「Policy Configuration Menu」の画面でコマンド「C」を選択すると図4-7-29のような「Create Policy Configuration Menu」の画面になります。この画面ではポリシーの作成を行います。

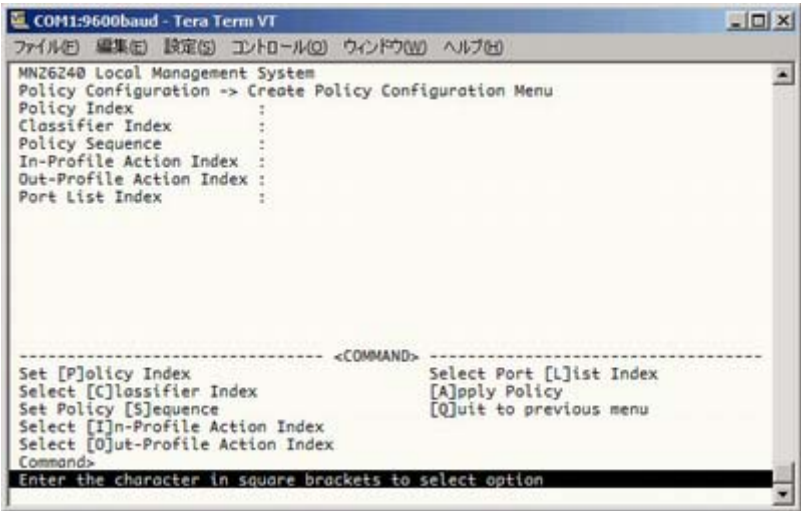


図4-7-29 ポリシーの作成

画面の説明

Policy Index	ポリシーのIndex番号を表示します。
Classifier Index	Classifier Configuration Menuで作成したクラスのIndex番号を表示します。
Policy Sequence	シーケンス番号を表示します。
In-Profile Index	In-Profile Action Configuration Menuで作成したIn-profileのIndex番号を表示します。
Out-Profile Index	Out-Profile Action Configuration Menuで作成したOut-profileのIndex番号を表示します。
Port List Index	Port List Configuration Menuで作成したポートリストのIndex番号を表示します。

ここで使用できるコマンドは次のとおりです。

P	ポリシーのIndex番号を設定します。	
		「P」と入力するとプロンプトが「Enter policy index>」に変わりますので、ポリシーのIndex番号を入力してください。
C	適用するクラスのIndex番号を設定します。	
		「C」と入力するとプロンプトが「Enter classifier index>」に変わりますので、適用するクラスのIndex番号を入力してください。
S	シーケンス番号を設定します。	
		「S」と入力するとプロンプトが「Enter policy sequence>」に変わりますので、シーケンス番号を入力してください。
I	適用するIn-ProfileのIndex番号を設定します。	
		「I」と入力するとプロンプトが「Enter in-profile index>」に変わりますので、適用するIn-ProfileのIndex番号を入力してください。
O	適用するOut-ProfileのIndex番号を設定します。	
		「O」と入力するとプロンプトが「Enter out-profile index>」に変わりますので、適用するOut-ProfileのIndex番号を入力してください。
L	適用するポートリストのIndex番号を設定します。	
		「L」と入力するとプロンプトが「Enter port list index>」に変わりますので、適用するポートリストのIndex番号を入力してください。
A	設定した内容を適用します。ここで適用しないと、設定した内容は有効になりません。	
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.7.6. QoSの設定(Quality of Service Configuration)

「Advanced Switch Configuration Menu」でコマンド「S」を選択すると、図4-7-30のような「Quality of Service Configuration Menu」の画面になります。ここでは本装置のQoS(Quality of Service)に関する設定が可能です。

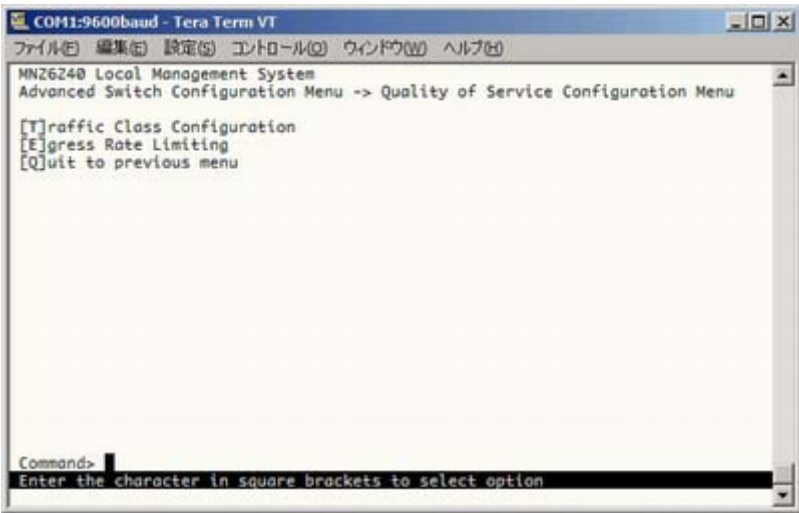


図4-7-30 QoSの設定

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

T	パケットによるQoSの設定画面に移動します。
	「T」と入力すると画面が「Traffic Class Configuration Menu」に変わります。ここでの設定内容については次項(4.7.6.a)を参照してください。
E	帯域幅の制御の設定画面に移動します。
	「E」と入力すると画面が「Egress Rate Limiting」に変わります。ここでの設定内容については4.7.6.b.項を参照してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.6.a. トラフィッククラスの設定(Traffic Class Configuration Menu)

「Quality of Service Configuration Menu」でコマンド「T」を選択すると、図4-7-31のような「Traffic Class Configuration」の画面になります。この画面では優先度とトラフィッククラスの対応を設定します。

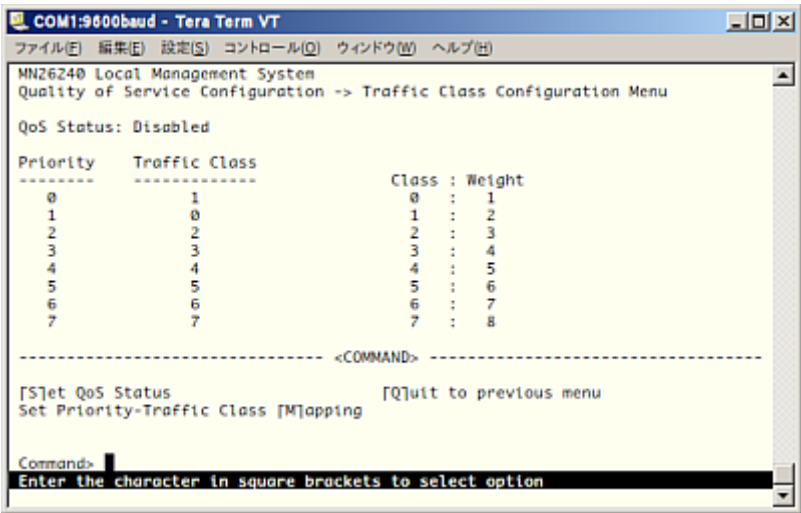


図4-7-31 トラフィッククラスの設定

画面の説明

QoS Status	IEEE802.1pを使ったQoS機能のステータスを表示します。	
	Enabled	QoSが有効です。
	Disabled	QoSが無効です。（工場出荷時設定）
Priority	パケットの優先度の値を表示します。	
Traffic Class	パケットを転送する優先順位を表示します。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	QoS機能の有効／無効を切り替えます。	
		「S」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled QoS (E/D)>」となりますので、使用する場合は「E」を、使用しない場合は「D」を入力してください。
M	IEEE802.1pのPriority値に優先順位(Traffic Class)を割り当てます。	
		「M」と入力するとプロンプトが「Enter Priority (E/D)>」となりますので、割り当てを行うPriority値(0～7)を入力してください。その後、プロンプトが「Enter traffic class for priority #>」に変わりますので、Traffic Class(0～7)を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.7.6.b. 帯域幅の制御設定(Egress Rate Limiting Configuration Menu)

「Quality of Service Configuration Menu」の画面でコマンド「C」を選択すると図4-7-31のような「Egress Rate Limiting Configuration Menu」の画面になります。この画面では帯域幅の制御設定を行います。

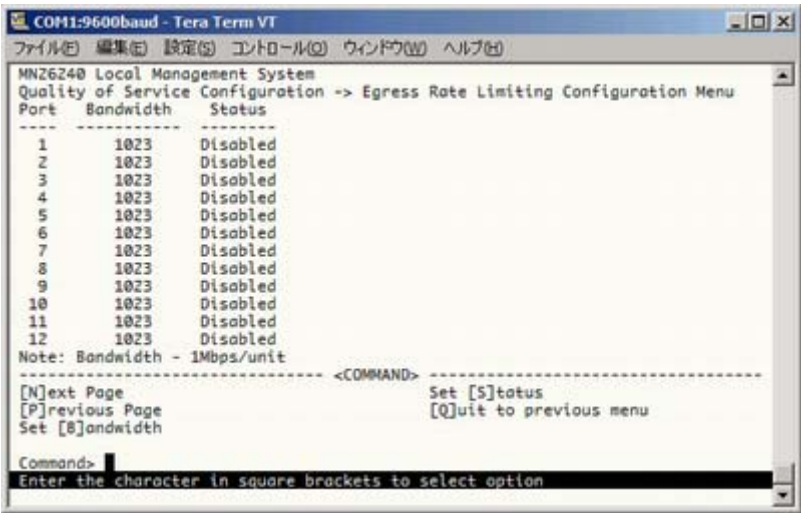


図4-7-31 帯域幅の制御設定

画面の説明

Port	ポート番号を表します。	
Bandwidth	帯域幅を表します。デフォルトでは、1023です。単位は Mbps です。	
Status	帯域幅の制御設定を有効/無効を表します。	
	Enabled	帯域幅の制御設定は有効です。
	Disabled	帯域幅の制御設定は無効です。

ここで使用できるコマンドは次のとおりです。

N	次のページを表示します。	
		「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。	
		「P」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
B	帯域幅を設定します。	
		「B」と入力するとプロンプトが「Enter port number e.g. : 1, 3, 5-12>」に変わりますので、指定するポート番号を入力してください。入力後、「Enter bandwidth >」に変わりますので、帯域幅を1～1023の間で入力してください。
S	帯域幅の制御設定を設定します。	
		「S」と入力するとプロンプトが「Enter port number e.g. : 1, 3, 5-12>」に変わりますので、指定するポート番号を入力してください。入力後、「Enabled or Disabled >」に変わりますので、帯域幅の制御設定を有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.7.7. ストームコントロールの設定(Storm Control Configuration Menu)

「Advanced Switch Configuration Menu」でコマンド「o」を選択すると、図4-7-32のような「Storm Control Configuration Menu」の画面になります。Unknown unicast、Broadcast、Multicastの各ストームコントロールの設定を行います。

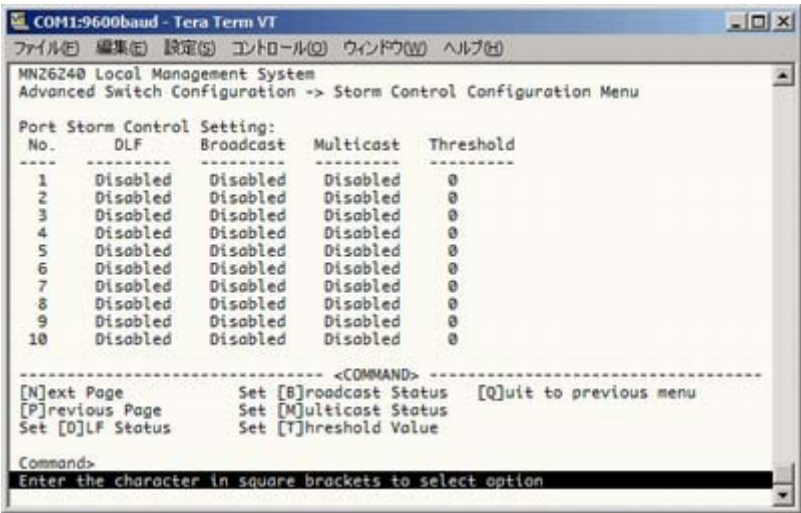


図4-7-32 ストームコントロールの設定

画面の説明

Port	ポート番号を表します。	
DLF	Unknown Unicastのストームコントロールを有効・無効にします。	
	Enabled	Unknown unicastのストームコントロールが有効です。
	Disabled	Unknown unicastのストームコントロールが無効です。（工場出荷時設定）
Broadcast	Broadcastのストームコントロールを有効・無効にします。	
	Enabled	Broadcastのストームコントロールが有効です。
	Disabled	Broadcastのストームコントロールが無効です。（工場出荷時設定）
Multicast	Multicastのストームコントロールを有効・無効にします。	
	Enabled	Multicastのストームコントロールが有効です。
	Disabled	Multicastのストームコントロールが無効です。（工場出荷時設定）
Threshold	パケット数(Packet Per Second)の閾値を表示します。	

使用できるコマンドは下記のとおりです

D	Unknown Unicastのストームコントロールを有効・無効に設定します。	
		「D」と入力するとプロンプトが「Enabled or DisabledLF storm control status (E/D)>」と変わりますので、Unknown unicastを有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。
B	Broadcast Stormのストームコントロールを有効・無効に設定します。	
		「B」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled broadcast storm control status (E/D)>」と変わりますので、Broadcastを有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。
M	Multicast Stormのストームコントロールを有効・無効に設定します。	
		「M」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled multicast storm control status (E/D)>」と変わりますので、Multicastを有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。
T	パケット数(Packet Per Second)の閾値を設定します。	
		「T」と入力するとプロンプトが「Enter threshold value>」と変わりますので、パケット数(Packet Per Second)の閾値を1～262143の間で入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.7.8. 802.1x認証機能(802.1x Access Control Configuration)

「Advanced Switch Configuration Menu」でコマンド「x」を選択すると、図4-7-33のような「802.1X Access Control Configuration」の画面になります。この画面ではIEEE802.1x標準の認証機能についての設定を行うことができます。

認証方式はEAP-MD5/TLS/PEAPをサポートしています。

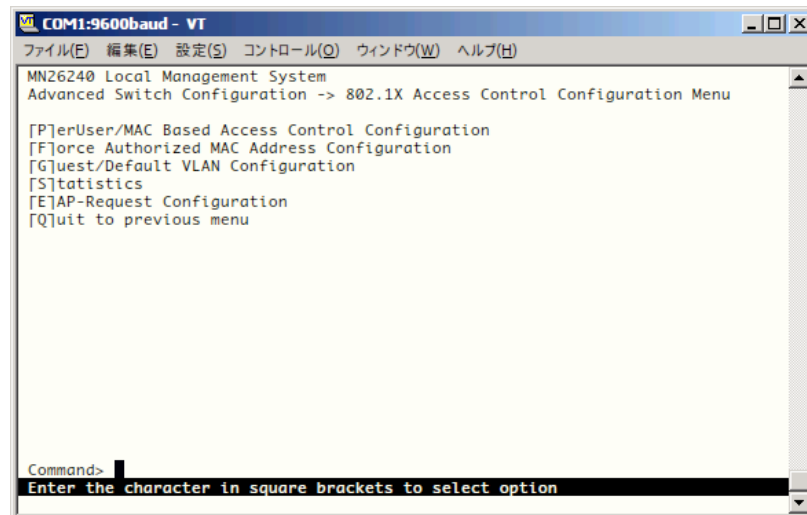


図4-7-33 802.1x認証機能

ご注意：802.1xポートベース認証機能およびMACベース認証機能を使用する場合、MAC Learning Menuでポートに学習させない設定(Disabled)との同時使用はできません。

4.7.8.a. ポートベース認証機能の設定(Port Based Access Control Configuration)

「802.1X Access Control Configuration Menu」でコマンド「p」を選択すると、図4-7-34のような「Port Based Access Control Configuration」の画面になります。この画面ではIEEE802.1x標準のポートベース認証機能についての設定を行うことができます。認証方式はEAP-MD5/TLS/PEAPをサポートしています。

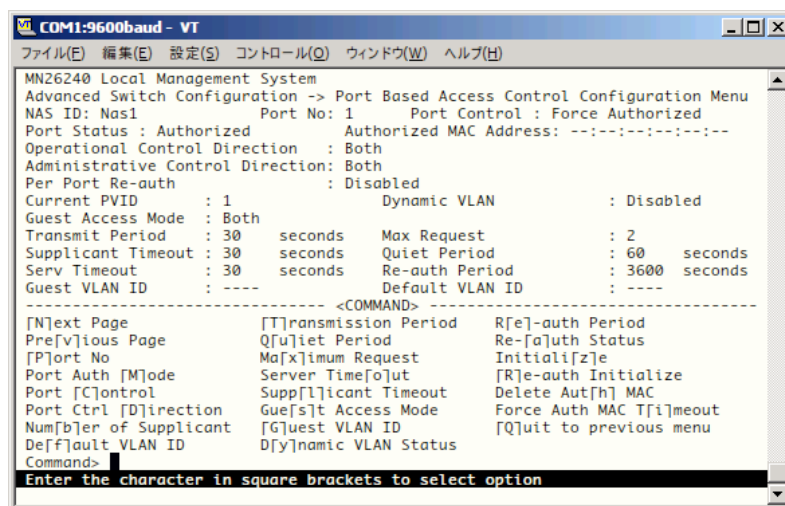


図4-7-34 ポートベース認証機能の設定

画面の説明

NAS ID	認証ID(NAS Identifier)を表示します。	
Port No	ポートの番号を表示します。	
Port Control	認証要求の際の動作を表示します。	
	Auto	認証機能を有効とし、クライアントと認証サーバ間の認証プロセスのリレーを行います。
	Force Unauthorized	認証機能を無効とし、クライアントからの認証要求をすべて無視します。
Port Status	Force Authorized	認証機能を無効とし、認証許可なしでポートを通信可能とします。(工場出荷時設定)
	認証の状態を表示します。下記のPort Control設定を反映します。	
	Unauthorized	認証が不許可の状態です。
Authorized MAC Address	Authorized	認証が許可の状態です。
	認証に成功している端末、またはGuest Accessを使用している端末のMACアドレスを表示します。何も使用されていない場合は、---:---:---:---と表示します。	

Operational Control Direction	認証要求時の動作状況を表示します。 (下記のAdministrative Control Directionによる設定を反映します。)	
	Both	認証されていない状態では、本装置は対象のポートからのパケットの送受信を行いません。
	In	認証されていない状態では、本装置は対象のポートからのパケットの受信を行いません。
Administrative Control Direction	認証要求時の動作方法を表示します。	
	Both	認証されていない状態では、本装置は対象のポートからのパケットの送受信を行いません。
	In	認証されていない状態では、本装置は対象のポートからのパケットの受信を行いません。
Per Port Re-auth	定期的再認証の有効・無効を表示します。	
	Enabled	定期的再認証を行います。
	Disabled	定期的再認証を行いません。(工場出荷時設定)
Current PVID	現在適用されているPVIDを表示します。	
Dynamic VLAN	Dynamic VLANの動作状況を表示します。	
	Disabled	Dynamic VLAN機能が無効の状態です。
	<VLAN ID>	Dyanmic VLAN機能を有効とし、動作しているVLAN IDを表示します。
Guest Access Mode	Guest Accessへの適用条件を表示します。	
	Timeout	Supplicant Timeoutが発生した際にGuest Accessを適用します。
	Auth Fail	認証に失敗した際にGuest Accessを適用します。
	Both	TimeoutとAuth Failのどちらかの条件に一致した際にGuest Accessを適用します。
Transmit Period	RADIUSサーバへの認証の再送信要求までの間隔です。工場出荷時は30秒に設定されています。	
Max Request	認証の最大再送信試行回数です。工場出荷時は2回に設定されています。	
Supplicant Timeout	クライアントのタイムアウト時間を表します。工場出荷時は30秒に設定されています。	
Quiet Period	認証が失敗した際、次の認証要求を行うまでの時間です。工場出荷時は60秒に設定されています。	
Serv Timeout	認証サーバのタイムアウト時間を表します。工場出荷時は30秒に設定されています。	
Re-auth Period	定期的再認証の試行間隔です。工場出荷時は3600秒に設定されています。	
Guest VLAN ID	Guest Access時に適用されるVLAN IDを表示します。また、Guest Accessが無効のときは---と表示します。	
Default VLAN ID	Port ControlをAutoからForce Authorized、またはForce Unauthorizedに変更した際に適用されるVLAN IDを表示します。また、Dynamic VLANが有効で認証に成功したが、認証サーバからVLAN情報が得られなかった場合にもDefault VLAN IDが適用されます。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	Port Basedモードでは使用しません。
V	Port Basedモードでは使用しません。
P	ポート番号を設定します。
	「P」を入力するとプロンプトが「Enter port number>」に変わりますので、設定を行うポート番号を入力してください。
M	MACベース認証メニューに移ります。
	プロンプトが「Select the Port based or MAC based auth mode (P/M) >」に変わりますので、「M」を選択してください。「MAC Based Access Control Configuration Menu」の画面になります。
C	認証要求の際の動作を設定します。

		「C」を入力するとプロンプトが「Select authenticator port control ?(A/U/F)>」に変わりますので、Autoの場合は「A」、Force Unauthorizedの場合は「U」、Force Authorizedの場合は「F」を入力してください。Default VLANが無効の場合にAutoに設定すると、Current PVIDの値がDefault VLAN IDに自動的に設定されます。
D		認証されていない状態での通信条件を設定します。
		「D」を入力するとプロンプトが「Select Administrative Control Direction, Both or IN? (B/I)>」に変わりますので、本装置にパケットの送受信を行なわせたくない場合は「B」を、本装置にパケットを受信させたくない場合は「I」を入力してください。
B		Port Basedモードでは使用しません。
F		Default VLAN IDを設定します。
		「F」を入力するとプロンプトが「Enter default VLAN ID >」に変わりますので、1から4094の整数を入力してください。また、0を入力した際はDefault VLAN機能が無効となります。
T		認証の再送信要求までの間隔を設定します。
		「T」を入力するとプロンプトが「Enter Transmission Period>」に変わりますので、1から65535(秒)の整数を入力してください。
U		認証が失敗した際の待機時間を設定します。
		「U」を入力するとプロンプトが「Enter Quiet Period>」に変わりますので、1から65535(秒)の整数を入力してください。
X		認証の最大再送信試行回数を設定します。
		「X」を入力するとプロンプトが「Enter Max request count>」に変わりますので、再試行回数を1から10(回)の整数を入力してください。
O		認証サーバのタイムアウト時間を設定します。
		「O」を入力するとプロンプトが「Enter Server Timeout>」に変わりますので、1から65535(秒)の整数を入力してください。
L		クライアントのタイムアウト時間を設定します。
		「L」を入力するとプロンプトが「Enter Supplicant Timeout value>」に変わりますので、1から65535(秒)の整数を入力してください。
S		Guest Accessへの適用条件を設定します。
		「S」を入力するとプロンプトが「Select the guest access mode (T/B/A) >」に変わりますので、Supplicant Timeoutの場合は「T」、Auth Failの場合は「A」、両方の場合は「B」を入力してください。
G		認証に失敗した端末やサブリカントを持っていない端末が接続されたときに割当てするVLANを指定します。
		「G」を入力するとプロンプトが「Enter guest VLAN ID >」に変わりますので、1から4094の整数を入力してください。また、0を入力した際はGuest Access機能が無効となります。
Y		Dynamic VLAN機能を有効・無効に設定します。
		「Y」を入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled dynamic VLAN status? (E/D) >」に変わりますので、Dynamic VLAN機能を有効にする場合は、「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。
E		定期的再認証の試行間隔を設定します。
		「E」を入力するとプロンプトが「Enter re-authentication Period>」に変わりますので、1から65535(秒)の整数を入力してください。
A		定期的再認証の有効・無効を設定します。
		「A」を入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled re-authentication?(E/D)>」に変わりますので、有効にする場合は「E」、無効にする場合は「D」を入力してください。
Z		認証状態を初期化します。
		「Z」を入力するとプロンプトが「Would you initialize authenticator?(Y/N)>」に変わりますので、初期化する場合は「Y」、しない場合は「N」を入力してください。
R		再認証の状態を初期化します。
		「R」を入力するとプロンプトが「Would you want to initialize re-authenticator?(Y/N)>」に変わりますので、初期化する場合は「Y」、しない場合は「N」を入力してください。
H		Port Basedモードでは使用しません。
I		Port Basedモードでは使用しません。
Q		上位のメニューに戻ります。

ご注意 : 弊社のIEEE802.1x認証応答対応スイッチングハブのDynamic VLAN機能は、RADIUSサーバから受信されたRADIUSパケットに含まれるAttribute 81(Tunnel Private Group Id)の値を参照してVLAN IDを割当てます。

4.7.8.b. MACベース認証機能の設定 (MAC Based Access Control Configuration)

「802.1x Port Base Access Control Configuration」でコマンド「M」を選択すると、プロンプトが「Select the Port based or MAC based auth mode (P/M) >」に変わりますので、「M」を選択してください。図4-7-35のような「MAC Based Access Control Configuration Menu」の画面になります。この画面ではMACベース認証機能についての設定を行うことができます。認証方式はEAP-MD5/TLS/PEAPをサポートしています。

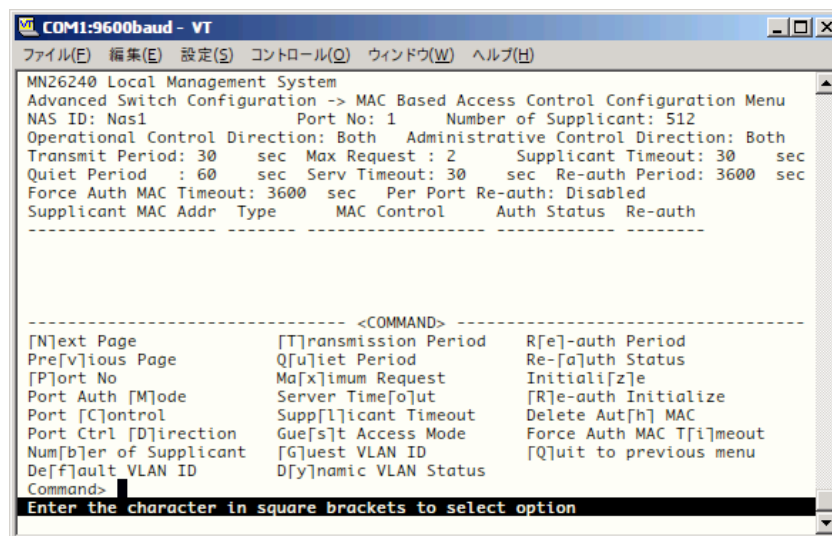


図4-7-35 MACベース認証機能の設定

画面の説明

NAS ID	認証ID(NAS Identifier)を表示します。	
Port No	ポートの番号を表示します。	
Number of Supplicant	ポートに認証できるSupplicantの数を表示します。工場出荷時は512に設定されています。	
Operational Control Direction	認証要求時の動作状況を表示します。 (下記のAdministrative Control Directionによる設定を反映します。)	
	Both	認証されていない状態では、本装置は対象のポートからのパケットの送受信を行いません。
	In	認証されていない状態では、本装置は対象のポートからのパケットの受信を行いません。
Administrative Control Direction	認証要求時の動作方法を表示します。	
	Both	認証されていない状態では、本装置は対象のポートからのパケットの送受信を行いません。
	In	認証されていない状態では、本装置は対象のポートからのパケットの受信を行いません。
Transmit Period	RADIUSサーバへの認証の再送信要求までの間隔です。工場出荷時は30秒に設定されています。	
Max Request	認証の最大再送信試行回数です。工場出荷時は2回に設定されています。	
Supplicant Timeout	クライアントのタイムアウト時間を表します。工場出荷時は30秒に設定されています。	
Quiet Period	認証が失敗した際、次の認証要求を行うまでの時間です。工場出荷時は60秒に設定されています。	
Serv Timeout	認証サーバのタイムアウト時間を表します。工場出荷時は30秒に設定されています。	
Re-auth Period	定期的再認証の試行間隔です。工場出荷時は3600秒に設定されています。	
Force Auth MAC Timeout	Force Auth MACアドレスで登録したMACアドレスの端末の通信が途切れてから削除するまでの保管時間を表示します。	
Per Port Re-auth	定期的再認証の有効・無効を表示します。	
	Enabled	定期的再認証を行います。
	Disabled	定期的再認証を行いません。(工場出荷時設定)
Supplicant MAC Addr	認証に成功している端末のMACアドレスを表示します。また、Force Authorized MAC Addressで登録されている端末が通信している場合、そのMACアドレスを表示します。	
Type	認証のTypeを表示します。	
	Dynamic	802.1x認証により、認証に成功した端末を意味します。
	Static	Force Authorized MAC Address Configurationで設定した端末を意味します。
MAC Control	認証要求の際の動作を設定します。	
	Auto	認証機能を有効とし、クライアントと認証サーバ間の認証プロセスのリレーを行います。
	Force Unauthorized	認証機能を無効とし、クライアントからの認証要求をすべて無視します。
	Force Authorized	認証機能を無効とし、認証許可なしでポートを通信可能とします。(工場出荷時設定)
Auth Status	認証の状態を表示します。	
	Unauthorized	認証が不許可の状態です
	Authorized	認証が許可の状態です
Re-auth	定期的再認証の有効・無効を表示します。	
	Enabled	定期的再認証を行います。
	Disabled	定期的再認証を行いません。(工場出荷時設定)

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」を入力すると表示が次のページに切り替わります。
V	前のページを表示します。
	「V」を入力すると表示が前のページに切り替わります。
B	ポートに認証できる端末の数を設定します。
	「B」を入力するとプロンプトが「Enter the number of supplicant >」に変わりますので、1から512の整数を入力してください。
P	ポート番号を設定します。
	「P」を入力するとプロンプトが「Enter port number>」に変わりますので、設定を行うポート番号を入力してください。
C	認証要求の際の動作を設定します。
	「D」を入力するとプロンプトが「Select Administrative Control Direction, Both or IN? (B/I)>」に変わりますので、本装置にパケットの送受信を行なわせたくない場合は「B」を、本装置にパケットを受信させたくない場合は「I」を入力してください。
Y	MAC Basedモードでは使用しません。
D	認証されていない状態での通信条件を設定します。
	「D」を入力するとプロンプトが「Select Administrative Control Direction, Both or IN? (B/I)>」に変わりますので、本装置とのパケット送受信とともに認証要求を行う場合は「B」を、本装置からのパケット送出にのみ認証要求を行う場合は「I」を入力してください。
T	認証の再送信要求までの間隔を設定します。
	「T」を入力するとプロンプトが「Enter Transmission Period>」に変わりますので、1から65535(秒)の整数を入力してください。
L	クライアントのタイムアウト時間を設定します。
	「L」を入力するとプロンプトが「Enter Supplicant Timeout value>」に変わりますので、1から65535(秒)の整数を入力してください。
0	認証サーバのタイムアウト時間を設定します。
	「0」を入力するとプロンプトが「Enter Server Timeout>」に変わりますので、1から65535(秒)の整数を入力してください。
X	認証の最大再送信試行回数を設定します。
	「X」を入力するとプロンプトが「Enter Max request count>」に変わりますので、再試行回数を1から10(回)の整数を入力してください。
U	認証が失敗した際の待機時間を設定します。
	「U」を入力するとプロンプトが「Enter Quiet Period>」に変わりますので、1から65535(秒)の整数を入力してください。
G	MAC Basedモードでは使用しません。
E	定期的再認証の試行間隔を設定します。
	「E」を入力するとプロンプトが「Enter re-authentication Period>」に変わりますので、1から65535(秒)の整数を入力してください。
A	定期的再認証の有効・無効を設定します。
	「A」を入力するとプロンプトが「Select Per port or MAC address (P/M) >」に変わりますので、ポート全体に設定する場合は「P」を、MACアドレスごとに設定する場合は「M」を入力してください。「P」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled re-authentication?(E/D) >」と変わりますので、有効にする場合は「E」、無効にする場合は「D」を入力してください。また、「M」と入力した場合はプロンプトが「Enter supplicant MAC address >」に変わりますので、設定を行いたいサブリカントのMACアドレスを入力してください。するとプロンプトが「Enabled or Disabled re-authentication?(E/D)>」に変わりますので、有効にする場合は「E」、無効にする場合は「D」を入力してください。
Z	認証状態を初期化します。

	「Z」を入力するとプロンプトが「Select the All MAC or MAC address (A/M) >」に変わりますので、全てのMACアドレスに対して実行する場合は「A」を、MACアドレスごとに実行する場合は「M」を入力してください。「A」と入力するとプロンプトが「Initialize all MAC (Y/N) >」と変わりますので、初期化する場合は「Y」、しない場合は「N」を入力してください。また、「M」と入力した場合はプロンプトが「Enter supplicant MAC address >」に変わりますので、初期化を行ないたいサブリカントのMACアドレスを入力してください。するとプロンプトが「Initialize MAC **:*:*:*:*:* (Y/N) >」に変わりますので、初期化する場合は「Y」、しない場合は「N」を入力してください。
R	再認証の状態を初期化します。
	「R」を入力するとプロンプトが「Select the All MAC or MAC address (A/M) >」に変わりますので、全てのMACアドレスに対して実行する場合は「A」を、MACアドレスごとに実行する場合は「M」を入力してください。「A」と入力するとプロンプトが「Would you want to initialize re-authenticator?(Y/N)>」に変わりますので、初期化する場合は「Y」、しない場合は「N」を入力してください。また、「M」と入力した場合はプロンプトが「Enter supplicant MAC address >」に変わりますので、初期化を行ないたいサブリカントのMACアドレスを入力してください。するとプロンプトが「Would you want to initialize re-authenticator?(Y/N)>」に変わりますので、初期化する場合は「Y」、しない場合は「N」を入力してください。
M	ポートベース認証メニューに移ります。
	プロンプトが「Select the Port based or MAC based auth mode (P/M) >」に変わりますので、「P」を選択してください。「Port Based Access Control Configuration Menu」の画面になります。
S	MAC Basedモードでは使用しません。
F	MAC Basedモードでは使用しません。
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意 : MAC Basedモードに設定すると、Administrative Control Directionが自動的にInに変更されます。再度、Port Basedモードに設定し直してもInのままとなります。

4.7.8.c. Force Authorized MAC Addressの設定

(Force Authorized MAC Configuration Menu)

「802.1x Access Control Configuration」でコマンド「F」を選択すると、図4-7-36のような「Force Authorized MAC Configuration Menu」の画面になります。この画面ではIEEE802.1xによる認証なしに許可/不許可する機器のMACアドレスを設定することができます。

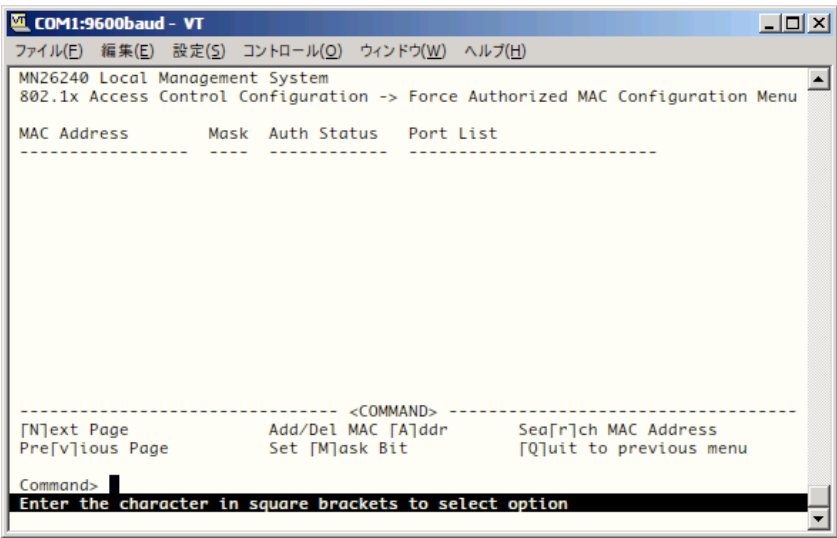


図4-7-36 Force Authorized MAC Addressの設定

画面の説明

MAC Address	認証なしにアクセスを許可/不許可する端末のMACアドレスを表示します。	
Mask	指定されているMACアドレスのマスクを表示します。	
Auth Status	Force Unauthorized	認証機能が無効とし、クライアントからの認証要求をすべて無視します。
	Force Authorized	認証機能が無効とし、認証許可なしでポートを通信可能とします。 (工場出荷時設定)
Port List	登録したMACアドレスが適用されているポートを表示します。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
V	前のページを表示します。
	「V」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
A	認証なしにアクセスを許可/不許可する端末のMACアドレスの追加と削除を行ないます。
	「A」と入力するとプロンプトが「Add or Delete MAC address (A/D)>」に変わりますので、認証なしにアクセスを許可/不許可する端末を登録する場合は「A」、削除する場合は「D」を入力してください。登録するために「A」を入力するとプロンプトが「Enter MAC Address(xx:xx:xx:xx:xx:xx) >」と変わりますので、MACアドレスを入力してください。するとプロンプトが「Enter mask length>」と変わりますので、マスクを指定してください。するとプロンプトが「Select auth status (A/U) >」と変わりますので、許可する場合は「A」、許可しない場合は「U」を選択してください。するとプロンプトが「Enter port number>」と変わりますので、適用するポートを指定してください。また、削除するために「D」を入力すると「Enter MAC Address(xx:xx:xx:xx:xx:xx) >」と変わりますので、MACアドレスを入力してください。
M	登録されているMACアドレスのMaskを変更します。
	「M」と入力するとプロンプトが「Enter MAC Address(xx:xx:xx:xx:xx:xx) >」に変わりますので、変更したいMACアドレスを入力してください。するとプロンプトが「Enter mask length>」に変わりますのでマスクを指定してください。
R	登録したMACアドレスを検索します。
	「R」と入力するとプロンプトが「Enter MAC Address(xx:xx:xx:xx:xx:xx) >」と変わりますので、検索したいMACアドレスを入力して下さい。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.8.d. Guest/Default VLANの設定(Guest/Default VLAN Configuration Menu)

「802.1x Access Control Configuration」でコマンド「G」を選択すると、図4-7-37のような「Guest/Default VLAN Configuration Menu」の画面になります。この画面ではGuest AccessとDefault VLANの設定を行なうことができます。Guest Accessとは認証に失敗した端末、またはサブリカントタイムアウトが発生した端末を特定のVLANに割当てて機能のことです。Default VLANとは、Port ControlをAutoからForce Authorized、またはForce Unauthorizedに変更した際に割当ててVLANを表します。

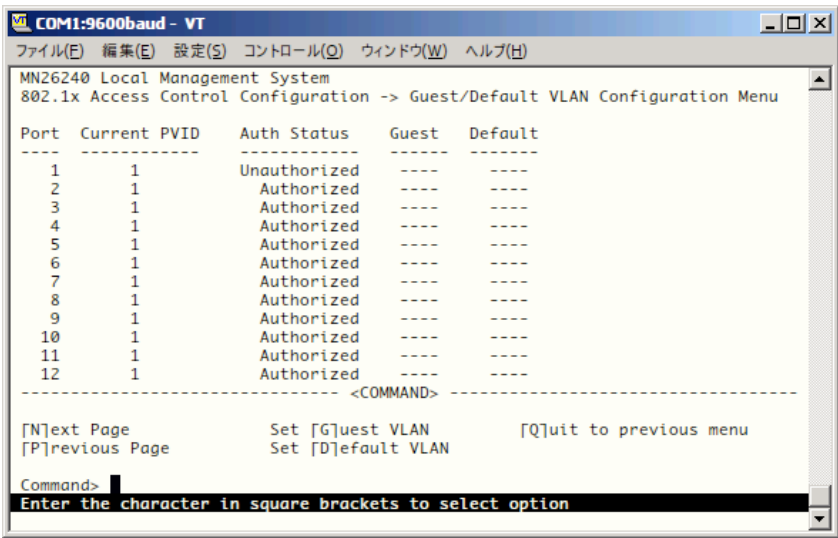


図4-7-37 Guest/Default VLANの設定

画面の説明

Current PVID	現在ポートに適用されているPVIDを表示します。	
Auth Status	認証の状態を表示します。	
	Unauthorized	認証が不許可の状態です
	Authorized	認証が許可の状態です
Guest	Guest Access時に適用されるVLAN IDを表示します。また、Guest Accessが無効のときは----と表示します。	
Default	Port ControlをAutoからForce Authorized、またはForce Unauthorizedに変更した際に適用されるVLAN IDを表示します。また、Dynamic VLANが有効で認証に成功したが、認証サーバからVLAN情報が得られなかった場合にもDefault VLAN IDが適用されます。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると表示が次のページに切り替わります。
V	前のページを表示します。
	「V」と入力すると表示が前のページに切り替わります。
G	認証に失敗した端末やサブリカントを持っていない端末が接続されたときに割り当てるVLANを指定します。
	「G」を入力するとプロンプトが「Enter port number>」に変わりますので、設定を行うポートを入力してください。するとプロンプトが「Enter guest VLAN ID >」に変わりますので、1から4094の整数を入力してください。また、0を入力した際はGuest Access機能が無効となります。
D	Default VLAN IDを設定します。
	「D」を入力するとプロンプトが「Enter port number>」に変わりますので、設定を行うポートを入力してください。するとプロンプトが「Enter default VLAN ID >」に変わりますので、1から4094の整数を入力してください。また、0を入力した際はDefault VLAN機能が無効となります。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.8.e. 802.1x 統計情報の表示(Statistics Menu)

「802.1x Access Control Configuration」でコマンド「s」を選択すると図4-7-38のような「Statistics Menu」の画面になります。この画面ではスイッチの統計情報として、802.1xの
パケット数を監視することができ、これによってネットワークの状態を把握することがで
きます。また、エラーパケットを監視することにより障害の切り分けの手助けになります。

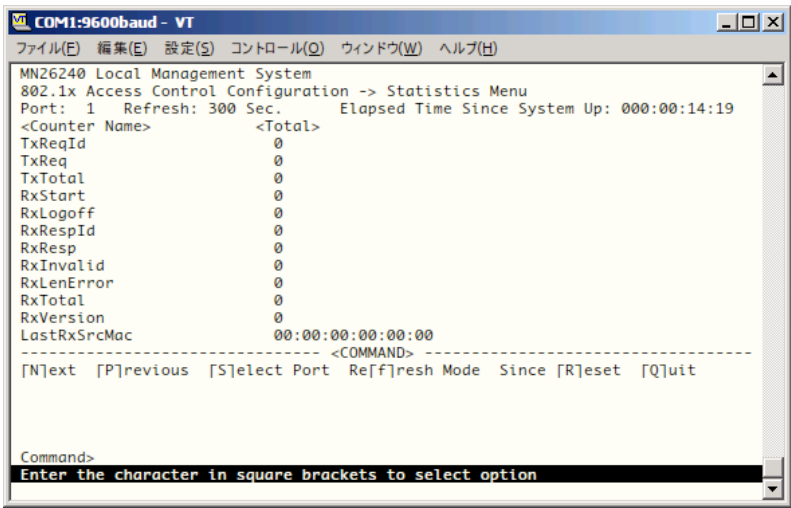


図4-7-38 802.1x統計情報の表示

画面の説明

Port	ポート番号を表します。
Refresh	更新間隔を表します。
Elapsed Time Since System Up	現在のカウンタの値が累積されている時間を表示します。起動または再起動してからの時間を意味します。
Counter Name	各カウンタの名前を表示します。
Total	カウンタに累積された値を表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	値を表示するポートを切り替えます
	「S」と入力するとプロンプトが「Select Port number>」と変わりますので表示したいポート番号を入力してください。
N	次のポートの値を表示します。
	「N」と入力すると次のポートのカウンタを表示します。ポート26まで行くと次(ポート1)には移動しません。
P	前のポートの値を表示します。
	「P」と入力すると前のポートのカウンタを表示します。ポート1では前のポートには戻れません。
R	カウンタの値をリセットしてからの値の表示に切り替えます。
	「R」と入力すると、すぐにカウンタの値をresetしてからの値の表示に切り替わります。画面右上の時間表示が「Elapsed Time Since System Reset」に変わります
F	カウンタの更新モードを設定します。
	「F」と入力すると、注釈行に「1 for start to refresh, 2 for set refresh rate」と表示されますので、更新を止めたい場合は「1」を入力すると、更新間隔が「STOP」と表示され、表示を更新しません。更新間隔を変更したい場合は「2」を入力すると「Input refresh time>」プロンプトが表示されますので、5から600(秒)の整数を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります

またこの画面では本装置が起動または電源OFF、リセットによる再起動されてからの累積値（図4-7-38）とコマンドによりカウンタをクリアしてからの累積値（図4-7-39）の2種類を表示することができます。コマンドによりカウンタの値をクリアしても起動時からの累積値は保存されています。

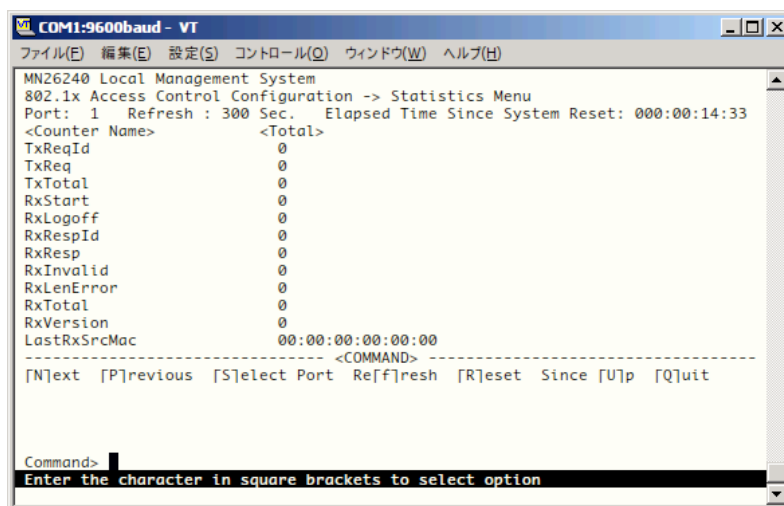


図4-7-39 カウンタクリアからの累積表示

画面の説明

Port	ポート番号を表します。
Refresh	再表示間隔を表します。
Elapsed Time Since Reset	カウンタをリセットしてからの時間を表します。
Counter Name	各カウンタの名前を表示します。
Total	カウンタに累積された値を表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	値を表示するポートを切り替えます
	「S」と入力するとプロンプトが「Select Port number>」と変わりますので表示したいポート番号を入力してください。
N	次のポートの値を表示します。
	「N」と入力すると次のポートのカウンタを表示します。ポート26まで行くと次(ポート1)には移動しません。
P	前のポートの値を表示します。
	「P」と入力すると前のポートのカウンタを表示します。ポート1では前のポートには戻れません。
U	起動時からのカウンタ表示に切り替えます。
	「U」と入力するとリセット後のカウンタの表示からシステム起動時からのカウンタ表示に切り替わります。
R	カウンタの値をリセットしてからの値の表示に切り替えます。
	「R」と入力すると、すぐにカウンタの値をリセットし、全ての値を0にして再表示させます。
F	カウンタの更新モードを設定します。
	「F」と入力すると、注釈行に「1 for start to refresh, 2 for set refresh rate」と表示されますので、更新を止めたい場合は「1」を入力すると、更新間隔が「STOP」と表示され、表示を更新しません。更新間隔を変更したい場合は「2」を入力すると「Input refresh time>」プロンプトが表示されますので、5から600(秒)の整数を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります

カウンタの内容は下記のとおりです。

TxReqId	本機器からの送信されたEAP Request Identityフレームの数を表示します。
TxReq	本機器からの送信されたEAP Requestフレームの数を表示します。
TxTotal	本機器からの送信された全てのタイプのEAPフレームの総数を表示します。
RxStart	サブリカントから受信したEAPOL Startフレームの数を表示します。
RxLogoff	サブリカントから受信したEAPOL Logoffフレームの数を表示します。。
RxRespId	サブリカントから受信したEAP Response Identityフレーム数を表示します。
RxResp	サブリカントから受信したEAP Responseフレーム数を表示します。
RxInvalid	サブリカントから受信したEAPOLフレームのうち、フレーム タイプを認識できないフレームの数を表示します。
RxLenError	サブリカントから受信したEAPOLフレームのうち、パケット本体の長さを示すフィールドが無効なフレームの数を表示します。
RxTotal	サブリカントから受信したEAPフレームのうち、有効なフレームの総数を表示します。
RxVersion	サブリカントから受信したEAPフレームのうち、802.1xバージョン1の形式で受信したフレームの数を表示します。
LastRxSrcMac	本機器が最後に受信したEAPOLフレームの送信元のMACアドレスを表示します。

4.7.8.f. EAP-Requestの送信設定(EAP-Request Configuration Menu)

「802.1x Access Control Configuration」でコマンド「E」を選択すると、図4-7-40のような「EAP-Request Configuration Menu」の画面になります。この画面ではIEEE802.1x MACベース認証モードにおいてのEAP Requestの送信について設定することができます。

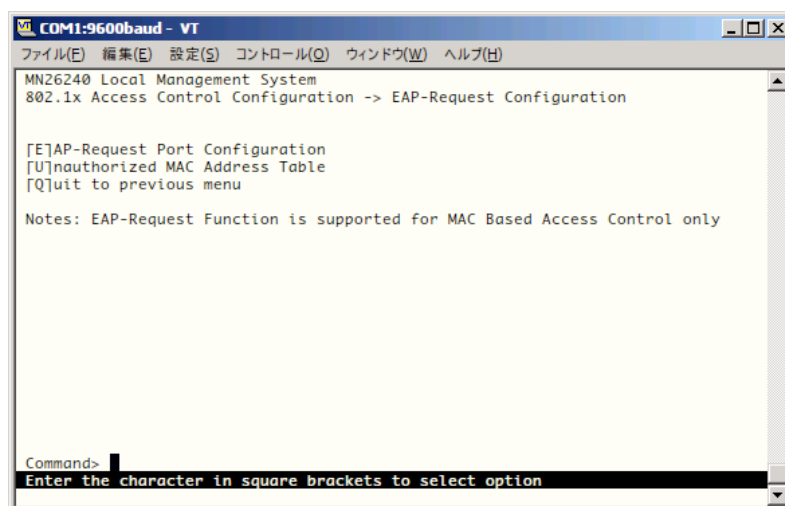


図4-7-40 Force Authorized MAC Addressの設定

ご注意 : Windows XP/2000等のEAPOL Startフレームを送信しないサブリカントをご使用の場合に本機能を有効にしてください。

4.7.8.f.1. EAP-Requestの送信設定(EAP-Request Port Configuration Menu)

「EAP-Request Configuration」でコマンド「E」を選択すると、図4-7-41のような「EAP-Request Port Configuration Menu」の画面になります。この画面ではIEEE802.1x MACベース認証モードにおいてポートごとにEAP Requestの送信について設定することができます。

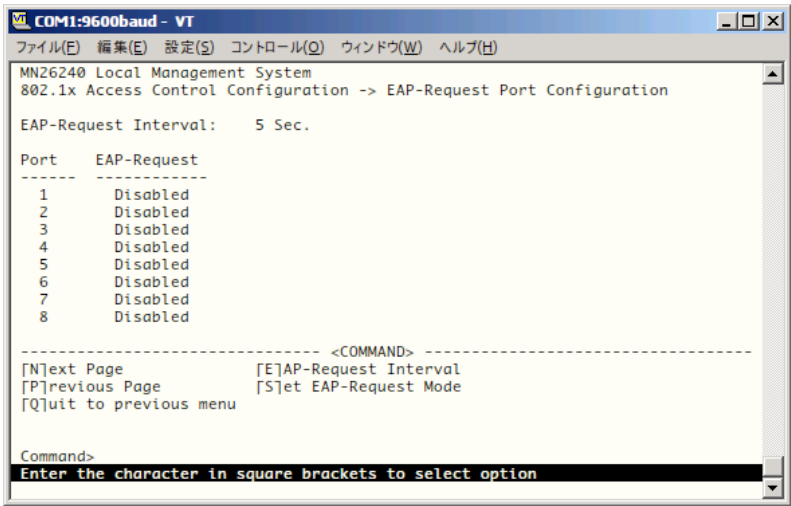


図4-7-41 EAP Requestの送信設定

画面の説明

EAP-Request Interval	EAP-Requestを送信する間隔を表示します。	
Port	Port番号を表します。	
EAP-Request	EAP Requestの送信状態を表示します。	
	Enabled	定期的にEAP Requestを送信します。
	Disabled	EAP Requestを送信しません。（出荷時設定）

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。	
	[N]	と入力すると表示が次のページに切り替わります。
P	前のページを表示します。	
	[P]	と入力すると表示が前のページに切り替わります。
E	EAP Requestの送信間隔を設定します。。	
	[E]	と入力するとプロンプトが「Enter new interval>」に変わりますので、画面最下部の黒帯に指定された範囲で入力してください。
S	登録されているMACアドレスのMaskを変更します。	
	[S]	と入力するとプロンプトが「Enter port number:>」に変わりますので、変更したいポート番号を入力してください。するとプロンプトが「Enabled or Disabled EAP-Request ?(E/D) >」に変わりますので有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.7.8.f.2. 未認証MACアドレスの参照(Unauthorized MAC Address Table Menu)

「EAP-Request Configuration」でコマンド「U」を選択すると、図4-7-42のような「Unauthorized MAC Address Table Menu」の画面になります。この画面ではIEEE802.1x MAC ベース認証モードにおいての未認証の端末を表示します。

(前項の「EAP Requestの送信設定」を有効にすると、本画面に表示されている未認証MACアドレス宛にEAP Requestを送信します。)

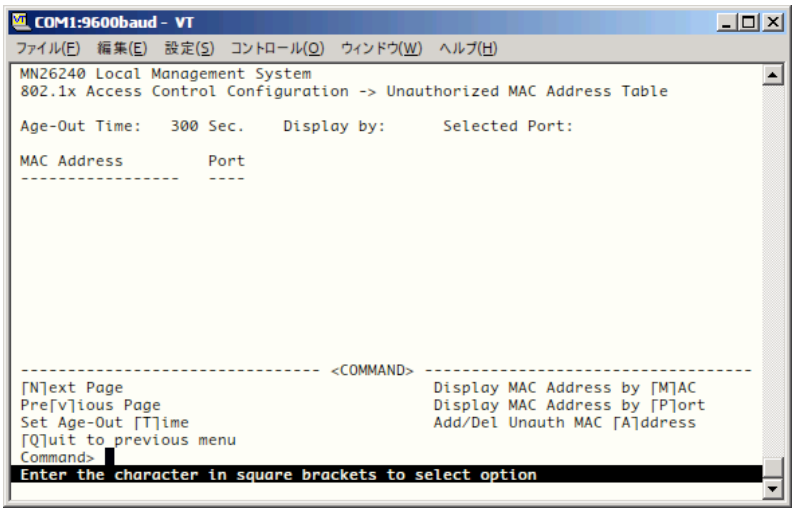


図4-7-42 Unauthorized MAC Address Tableの参照

画面の説明

Age-Out Time	未認証MACアドレスを保存する時間を表示します。最後にパケットを受信してからの時間となります。工場出荷時は300秒（5分）に設定されています。
Display by	表示する方法を表示します。
Select Port	選択したポート番号を表示します。
MAC Address	未認証のMACアドレスを表示します。
Port	MACアドレスの属していたポートを表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると次のポートを表示します。
V	前のページを表示します。
	「V」と入力すると前のポートを表示します。
T	未認証MACアドレスの保管時間を設定します。
	「T」と入力するとプロンプトが「Enter new age-out time>」と変わりますので、時間を秒単位で0～65535の間で設定してください。0と設定した場合はタイムアウトしなくなります。
M	未認証MACアドレスを全て表示します。
	「M」と入力すると未認証MACアドレスが全て表示されます。
P	Portごとに未認証MACアドレスを表示します。
	「P」と入力するとプロンプトが「Enter port number>」と変わりますので、表示したいポートの番号を入力してください。
A	未認証MACアドレスの追加・削除を行います。
	「A」と入力するとプロンプトが「Add or Delete MAC address (A/D) >」と変わりますので、追加または削除を選択してください。プロンプトが「Enter MAC Address (xx:xx:xx:xx:xx:xx) >」と変わりますのでMACアドレスを入力してください。プロンプトが「Enter port number>」と変わりますのでポート番号を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.9. IGMPスヌーピングの設定(IGMP Snooping Configuration)

「Advanced Switch Configuration Menu」でコマンド「I」を選択すると、図4-7-43のような「IGMP Snooping Configuration Menu」の画面になります。TV会議システムや映像配信、音声配信のシステムのようなIPマルチキャストを用いたアプリケーションをご使用になる場合に、マルチキャストパケットが全ポートに送信され帯域が占有されることを防ぎます。

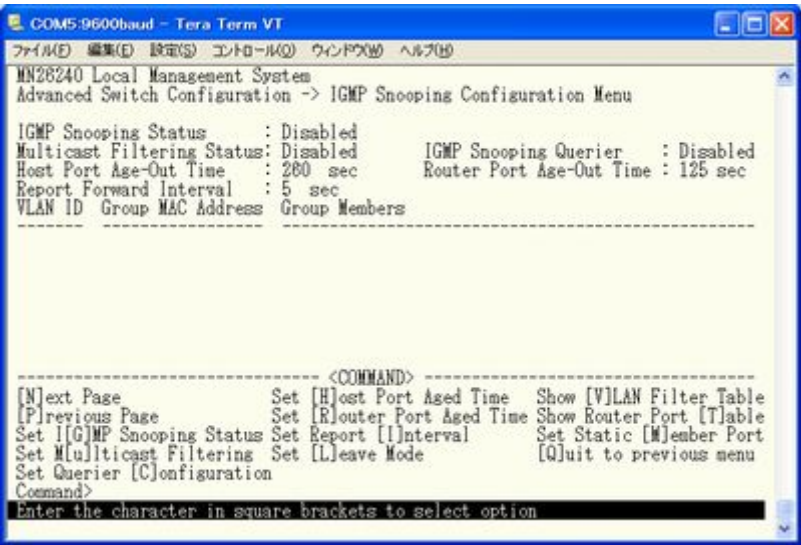


図4-7-43 IGMPスヌーピングの設定

画面の説明

IGMP Snooping Status	IGMPスヌーピング機能が有効かどうかを表します。	
	Enabled	IGMPスヌーピング機能有効
	Disabled	IGMPスヌーピング機能無効
Multicast Filtering Status	マルチキャストフィルタリング機能が有効かどうかを表します。	
	Enabled	マルチキャストフィルタリング機能有効
	Disabled	マルチキャストフィルタリング機能無効
IGMP Snooping Querier	IGMP snooping Querier機能が有効かどうかを表します。	
	Enabled	IGMP Snooping Querier機能有効
	Disabled	IGMP Snooping Querier機能無効
Host Port Age-Out Time	マルチキャストグループに参加しなくなってから自動的に開放されるまでの時間を表します。工場出荷時は260秒に設定されています。	
Router Port Age-Out Timer	ルータポートが自動的に開放されるまでの時間を表します。工場出荷時は5秒に設定されています。	
Report Forward Interval	Proxy Reportの待機時間を表します。	
VLAN ID	マルチキャストグループのVLAN IDを表します。	
group MAC address	マルチキャストグループのMACアドレスを表します。	
Group Members	マルチキャストグループに属しているポートを表します。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると次のページを表示します。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると前のページを表示します。
G	IGMP Snoopingを有効にします。
	「G」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled IGMP snooping (E/D)>」となりますので、機能を有効にする場合は「E」を、使用しない場合は「D」を入力してください。
L	Leaveパケット受信後の動作を設定します。
	「L」と入力すると「Set Leave Mode Menu」の画面になります。「Set Leave Mode Menu」に関しては次項 (4.7.9.a) を参照してください。
U	マルチキャストフィルタリングを有効にします。
	「U」と入力するとプロンプトが「Enable or Disable Multicast Filtering (E/D)>」となりますので、機能を有効にする場合は「E」を、使用しない場合は「D」を入力してください。
C	IGMP snooping Querierを設定します。
	「C」と入力すると「Set Querier Configuration Menu」の画面に移動します。(4.7.9.dを参照)
H	マルチキャストグループのメンバーのエイジング時間を設定します。
	「H」と入力するとプロンプトが「Enter age out time>」となりますので、時間を設定してください。設定可能な値の範囲は130～1225秒です。
R	マルチキャストグループのルータポートのエイジング時間を設定します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Enter age out time>」となりますので、時間を設定してください。設定可能な値の範囲は60～600秒です。
I	Proxy Reportの待機時間を設定します。
	「I」と入力するとプロンプトが「Enter forward interval>」となりますので、時間を設定してください。設定可能な値の範囲は0～25秒です。
V	VLANフィルタの設定画面に移動します。
	詳しくは4.7.9.b.項を参照して下さい。
T	ルータポートの設定画面に移動します。
	詳しくは4.7.9.c.項を参照して下さい。
M	手動でのマルチキャストグループメンバー登録を行います。
	「M」と入力するとプロンプトが「Add or Delete static group member (A/D)>」となりますので、追加する場合は「A」、削除する場合は「D」を入力してください。続いてプロンプトが「Enter VLAN ID>」となりますので、対象とするVLAN IDを入力してください。続いてプロンプトが「Enter MAC address for multicast entry>」となりますので、対象のマルチキャストグループのMACアドレスを入力してください。その後、プロンプトが「Select port number to be changed>」となりますので、対象のポート番号を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意: IGMP Snooping機能とインターネットマンションモードの併用はできません。

4.7.9.a. Leaveモードの設定(Set Leave Mode Menu)

「IGMP Snooping Configuration Menu」でコマンド「L」を選択すると、図4-7-44のような「Set Leave Mode Menu」の画面になります。ここではLeaveパケット受信後の動作の設定を行います。

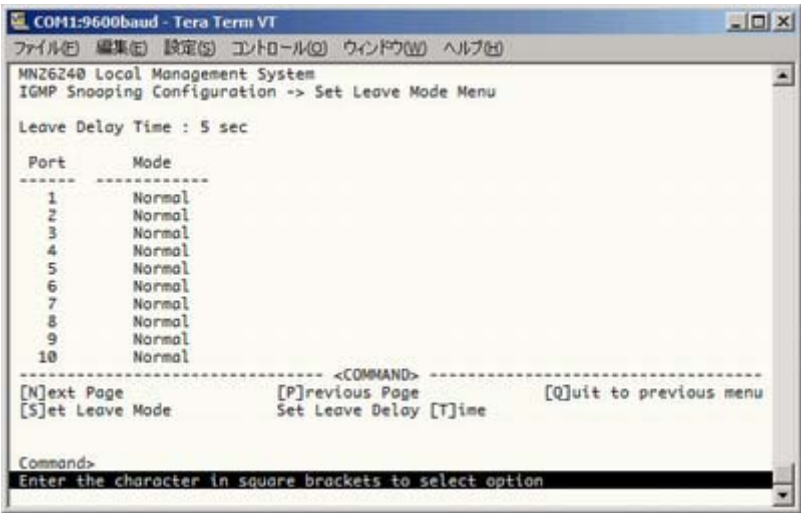


図4-7-44 Leaveモードの設定

画面の説明

Leave Delay Time	Leaveパケット受信後の待機時間を表示します。
Port	ポートの番号を表示します。
Mode	Leaveパケット受信後の動作を表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると次のページを表示します。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると前のページを表示します。
S	Leaveパケット受信後の動作を設定します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Select port number to be changed>」となりますので、設定したいポートの番号を入力してください。するとプロンプトが「Set leave mode (N/I)>」となりますので、Leaveパケット受信後、直ぐにルータポートへ送信する場合は「I」を、Leave Delay Timeの間待機してからルータポートへ送信する場合は「N」を入力してください。
T	Leaveパケット受信後の待機時間を設定します。
	「T」と入力するとプロンプトが「Set leave delay time>」となりますので、Leaveパケット受信後の待機時間を1-10の範囲で入力してください。（工場出荷時は5秒）
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.9.b. VLANフィルタの設定(Show IGMP Snooping VLAN Filter Table Menu)

「IGMP Snooping Configuration Menu」でコマンド「V」を選択すると、図4-7-45のような「Show IGMP Snooping VLAN Filter Table Menu」の画面になります。この画面ではIGMP Snooping機能の対象外（フィルタリング）にするVLANの設定を行います。

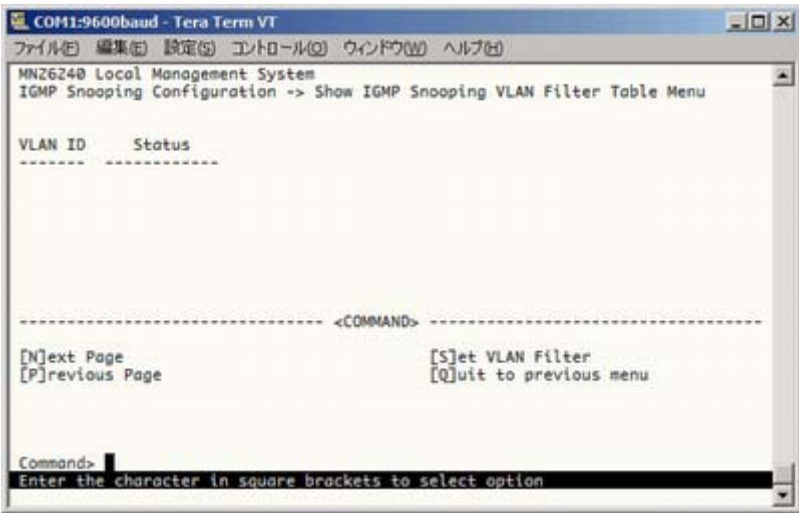


図4-7-45 VLANフィルタの設定

画面の説明

VLAN ID	VLAN IDを表示します。
Status	フィルタの状態を表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると次のページを表示します。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると前のページを表示します。
S	フィルタをかけるVLANを設定します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Enter VLAN ID >」となりますので、VLAN IDを1～4094の間で入力してください。入力後、「Filter IGMP snooping for VLAN # (F/N)>」に変わりますので、フィルタリングを行う場合は「F」を、行わない場合は「N」を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.9.c. ルータポートの設定(Show Router Port Table Menu)

「IGMP Snooping Configuration Menu」でコマンド「T」を選択すると、図4-7-46のような「Show Router Port Table Menu」の画面になります。

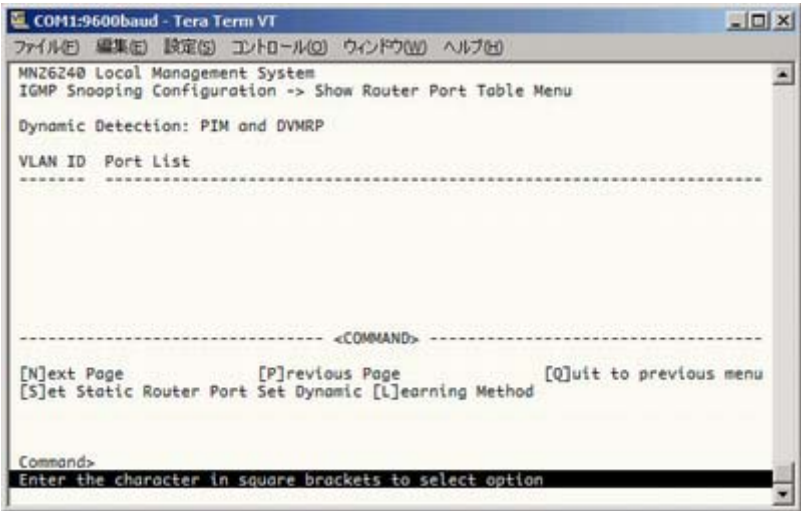


図4-7-46 ルータポートテーブル参照

画面の説明

Dynamic Detection	ルータポートの学習する方法を表示します。	
	PIM and DVMRP	PIMまたはDVMRPによって学習します。
	IGMP Query	IGMP Queryによって学習します。
	Both	上記二つの方法によって学習します。
VLAN ID	VLAN IDを表示します。	
Port List	ポートリストを表示します。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると次のページを表示します。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると前のページを表示します。
S	スタティックでルータポートを設定します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Add or Delete Static Multicast Router Port (A/D)>」となりますので、追加する場合は「A」を、削除する場合は「D」を入力してください。入力後、「Enter port number>」と変わりますので、1～26の間でポート番号を入力してください。
L	ダイナミックでルータポートを指定します。
	「L」と入力するとプロンプトが「Set dynamic learning method (P/I/B)>」となりますので、ダイナミック認識方法がPIMとDVMRPの場合は「P」を、IGMP Queryの場合は「I」を、両方の場合は「B」を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.9.d. IGMP snooping Querierの設定(Set Querier Configuration Menu)

「IGMP Snooping Configuration Menu」でコマンド「T」を選択すると、図4-7-47のような「Show Router Port Table Menu」の画面になります。



図4-7-47 IGMP Snooping Querierの設定

画面の説明

Querier Status	IGMP Snooping Querierの有効/無効を表示します。	
Current Role	IGMP Snooping Querierの状態を表示します。	
	Querier	本装置がQuerierとして動作している。
	None	他にQueryを送信する機器がいるため、本装置からのQuery送信を停止しています。
IGMP Version	送信するIGMP Queryのバージョンを表示します。	
Querier Interval	Queryを送信する間隔を表示します。	
Max Response Time	Queryに対する応答の待ち時間を表示します。	
Querier Timeout	他のQuerierがいなくなったと判断するまでの時間を表示します。	
TCN Query Count	STPのトポロジチェンジ発生時に送信するQueryの数を表示します。	
TCN Query Pending Count	STPのトポロジチェンジ発生時に送信するQueryの残数を表示します。	
TCN Query Interval	STPのトポロジチェンジ発生時に送信するQueryの送信間隔を表示します。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです。

E	IGMP Snooping Querier機能の設定を行います。
	「E」と入力するプロンプトが「Enable or Disable querier status (E/D)>」と表示されるので、有効にする場合は「E」を、無効にする場合は「D」を入力してください。
V	送信するIGMP Queryのバージョンの設定を行います。
	「V」と入力するプロンプトが「Enter IGMP version (1/2)>」と表示されるので、バージョン1を使用する場合は「1」を、バージョン2を使用する場合は「2」を入力してください。
I	IGMP Queryの送信間隔を設定します。
	「I」と入力するプロンプトが「Enter query interval >」と表示されるので、1～18000（秒）の範囲で値を入力してください。
M	IGMP Queryの待ち時間を設定します。
	「M」と入力するプロンプトが「Enter max response time >」と表示されるので、1～25（秒）の範囲で値を入力してください。
T	他のQuerierがいなくなったと判断するまでの時間を設定します。
	「T」と入力するプロンプトが「Enter querier timeout >」と表示されるので、60～600（秒）の範囲で値を入力してください。
C	STPのトポロジーチェンジ発生時に送信するQueryの数を設定します。
	「C」と入力するプロンプトが「Enter TCN query count >」と表示されるので、1～10（回）の範囲で値を入力してください。
N	STPのトポロジーチェンジ発生時に送信するQueryの送信間隔を設定します。
	「N」と入力するとプロンプトが「Enter TCN query interval >」と表示されるので、1～10（秒）の範囲で値を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.7.10. リングプロトコルの設定

(Ring Redundant Protocol Configuration)

「Advanced Switch Configuration Menu」でコマンド「R」を選択すると、図4-7-48のような「Ring Redundant Protocol Configuration」の画面になります。この画面でリングプロトコルに関する設定を行います。

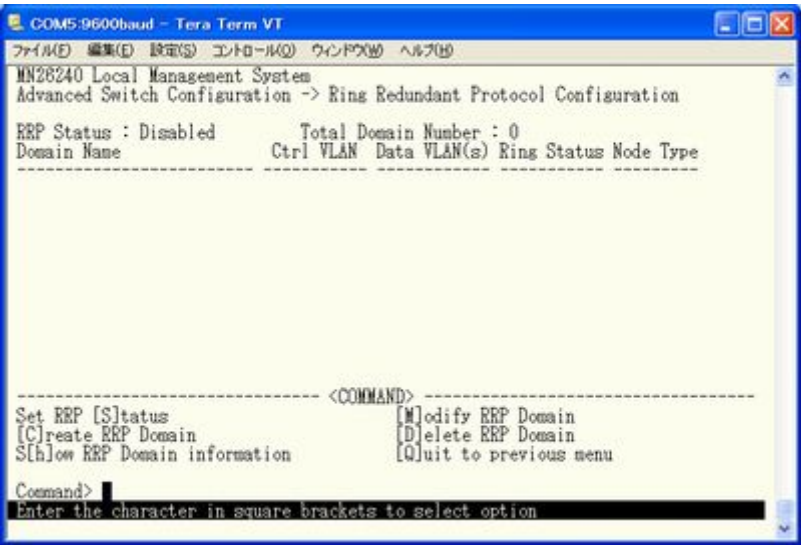


図4-7-48 リングプロトコル設定メニュー

画面の説明

RRP Status	リングプロトコル機能の状態を表示します。	
	Enabled	リングプロトコル機能が有効です。
	Disabled	リングプロトコル機能が無効です。（工場出荷時設定）
Domain Name	ドメイン名を表示します。	
Ctrl VLAN	制御用VLANのIDを表示します。	
Data VLAN(s)	データ用VLANのIDを表示します。	
Ring Status	リングの状態を表示します。	
	IDLE	リングプロトコル機能が無効であることを表します。
	Complete	リングトポロジが正しく構成されていることを表します。 このステータスはマスターノードのみ表示されます。
	Failed	リングトポロジが構成されていないことを表します。 このステータスはマスターノードのみ表示されます。
	Link-Up	リングトポロジが正しく構成されていることを表します。 このステータスはトランジットノードのみ表示されます。
	Link-Down	リングトポロジが構成されていないことを表します。 このステータスはトランジットノードのみ表示されます。
	Pre-Forwarding	リングトポロジを構成中であることを表します。 このステータスはトランジットノードのみ表示されます。
Node Type	ノードの役割を表示します。	
	Master	リングの動作を制御するスイッチであることを表します。 Masterノードはドメインに1台だけ設定します。
	Transit	Masterノード以外のスイッチであることを表します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	リングプロトコル機能の有効・無効を設定します。
	「N」と入力するとプロンプトが「Enable or Disable RRP status (E/D)>」となりますので、有効にする場合は「E」、無効にする場合は「D」を入力してください。
C	新たなドメインを作成します。
	「C」と入力すると画面が「RRP Domain Creation Menu」へ変わります。内容については次項(4. 7. 10. a)を参照してください。
D	設定されているドメインを削除します。
	「D」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Domain Name >」となりますので、削除したいドメイン名を入力してください。
M	設定されているドメインを修正します。
	「M」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Domain Name >」となりますので、設定を行いたいドメイン名を入力してください。すると画面が「RRP Domain Modification Menu」に変わります。内容については次項(4. 7. 10. b)を参照してください。
H	ドメインの情報を表示します。
	「H」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Domain Name >」となりますので、情報を表示したいドメイン名を入力してください。すると画面が「RRP Domain information Menu」に変わります。内容については次項(4. 7. 10. c)を参照してください。
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意: リングプロトコル機能とインターネットマンションモードの併用はできません。

4.7.10.a. ドメインの作成(RRP Domain Creation Menu)

「Ring Redundant Protocol Configuration」でコマンド「C」を選択すると、図4-7-49のような「RRP Domain Creation Menu」の画面になります。この画面でRRPドメインの新規作成に関する設定を行います。

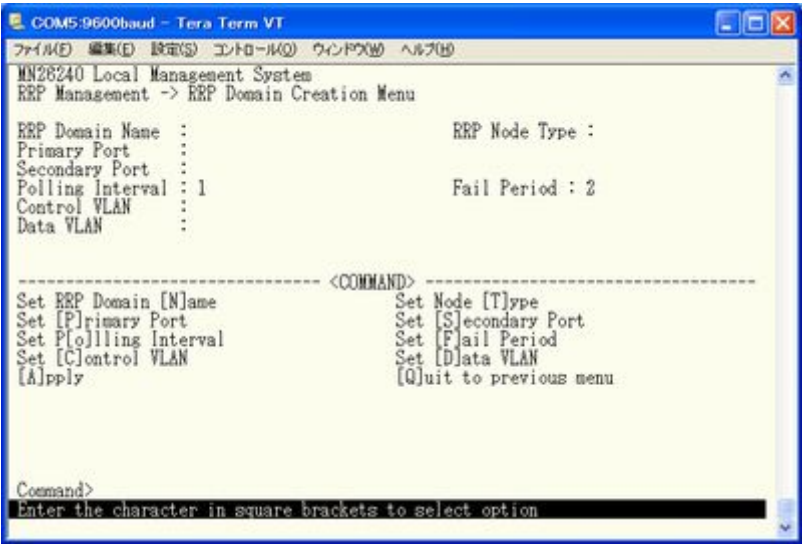


図4-7-49 RRPドメインの作成

画面の説明

RRP Domain Name	ドメインの名前を表示します。	
RRP Node Type	ノードの役割を表示します。	
	Master	リングの動作を制御するスイッチであることを表します。 Masterノードはドメインに1台だけ設定します。
	Transit	Masterノード以外のスイッチであることを表します。
Primary Port	プライマリポートを表示します。	
Secondary Port	セカンダリポートを表示します。	
Polling Interval	ポーリング間隔を表示します。	
Fail Period	ポーリングに対するタイムアウト時間を表示します。	
Control VLAN	制御用VLANのIDを表示します。	
Data VLAN	データ用VLANのIDを表示します。	

ここで使用できるコマンドは下記の通りです。

N	ドメインの名前を設定します。
	「N」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Domain Name」となりますので、設定するドメイン名を半角25文字以内で入力してください。
T	ノードの役割を設定します。
	「N」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Node Type (M/T) >」となりますので、Masterノードに設定する場合は「M」、Transitノードに設定する場合は「T」を入力してください。
P	プライマリポートを設定します。
	「P」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Primary Port >」となりますので、プライマリポートに設定するポート番号(1~10)を入力してください。
S	セカンダリポートを設定します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Secondary Port >」となりますので、セカンダリポートに設定したいポート番号(1~10)を入力してください。
O	ポーリング間隔を設定します。
	「O」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Polling Interval>」となりますので、1-2(秒)の範囲でポーリング間隔を入力してください。
F	ポーリングに対するタイムアウト時間を設定します。
	「F」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Fail Period>」となりますので、2-5(秒)の範囲でポーリングに対するタイムアウト時間を入力してください。
S	制御用VLANを設定します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Enter Control VLAN ID >」となりますので、制御用VLANに設定したいVLAN ID(2-4094)を入力してください。ポート番号を複数入力する場合はスペースなしで、カンマで区切るか、連続した数字の場合はハイフンで指定してください。
D	データ用VLANを設定します。
	「D」と入力するとプロンプトが「Enter Data VLAN ID >」となりますので、データ用VLANに設定したいVLAN ID(1-4094)を入力してください。VLAN IDを複数入力する場合はスペースなしで、カンマで区切るか、連続した数字の場合はハイフンで指定してください。
A	ドメインを設定します。
	「A」と入力すると反映されます。
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意: ドメイン設定後にそのまま「Q」(Quit)を入力すると設定が反映されません。
作成したドメインの設定を反映させるには「A」(Apply)を必ず入力してください。

4.7.10.b. ドメインの修正(RRP Domain Modification Menu)

「Ring Redundant Protocol Configuration」でコマンド「M」を選択すると、図4-7-50のような「RRP Domain Modification Menu」の画面になります。この画面でRRPドメインの修正を行います。

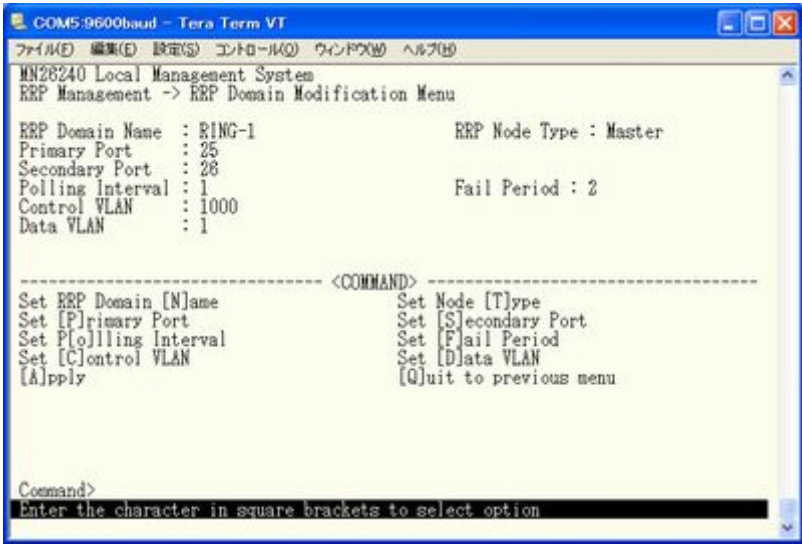


図4-7-50 RRPドメインの修正

画面の説明

RRP Domain Name	ドメインの名前を表示します。	
RRP Node Type	ノードの役割を表示します。	
	Master	リングの動作を制御するスイッチであることを表します。 Masterノードはドメインに1台だけ設定します。
	Transit	Masterノード以外のスイッチであることを表します。
Primary Port	プライマリポートを表示します。	
Secondary Port	セカンダリポートを表示します。	
Polling Interval	ポーリング間隔を表示します。	
Fail Period	ポーリングに対するタイムアウト時間を表示します。	
Control VLAN	制御用VLANのIDを表示します。	
Data VLAN	データ用VLANのIDを表示します。	

ここで使用できるコマンドは下記の通りです。

N	ドメインの名前を設定します。
	「N」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Domain Name」となりますので、設定するドメイン名を半角25文字以内で入力してください。
T	ノードの役割を設定します。
	「N」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Node Type (M/T) >」となりますので、Masterノードに設定する場合は「M」、Transitノードに設定する場合は「T」を入力してください。
P	プライマリポートを設定します。
	「P」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Primary Port >」となりますので、プライマリポートに設定するポート番号(1~10)を入力してください。
S	セカンダリポートを設定します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Secondary Port >」となりますので、セカンダリポートに設定したいポート番号(1~10)を入力してください。
O	ポーリング間隔を設定します。
	「O」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Polling Interval>」となりますので、1-2(秒)の範囲でポーリング間隔を入力してください。
F	ポーリングに対するタイムアウト時間を設定します。
	「F」と入力するとプロンプトが「Enter RRP Fail Period>」となりますので、2-5(秒)の範囲でポーリングに対するタイムアウト時間を入力してください。
S	制御用VLANを設定します。
	「S」と入力するとプロンプトが「Enter Control VLAN ID >」となりますので、制御用VLANに設定したいVLAN ID(2-4094)を入力してください。ポート番号を複数入力する場合はスペースなしで、カンマで区切るか、連続した数字の場合はハイフンで指定してください。
D	データ用VLANを設定します。
	「D」と入力するとプロンプトが「Enter Data VLAN ID >」となりますので、データ用VLANに設定したいVLAN ID(1-4094)を入力してください。VLAN IDを複数入力する場合はスペースなしで、カンマで区切るか、連続した数字の場合はハイフンで指定してください。
A	ドメインを設定します。
	「A」と入力すると反映されます。
Q	上位のメニューに戻ります。

ご注意: ドメイン設定後にそのまま「Q」(Quit)を入力すると設定が反映されません。
修正したドメインの設定を反映させるには「A」(Apply)を必ず入力してください。

4.7.10.c. ドメイン情報の表示(RRP Domain information Menu)

「Ring Redundant Protocol Configuration」でコマンド「H」を選択すると、図4-7-51のような「RRP Domain information Menu」の画面になります。この画面でRRPドメインの情報を確認できます。

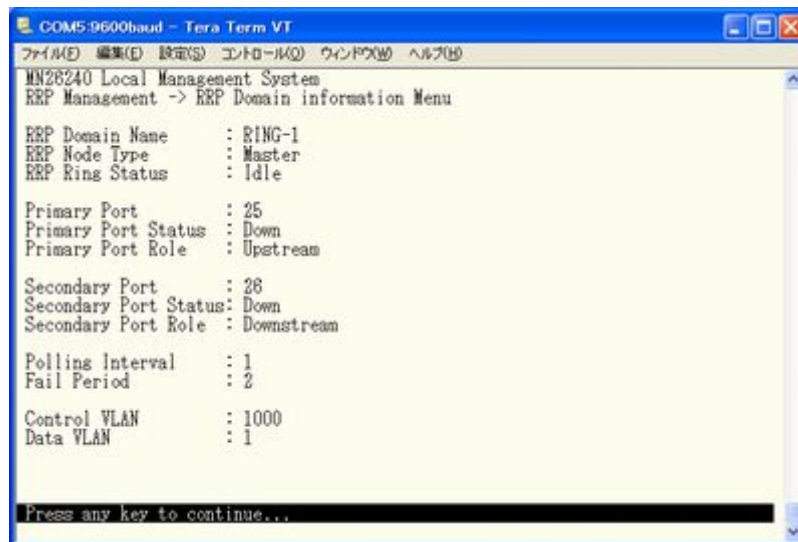


図4-7-51 ドメイン情報の表示

画面の説明

RRP Domain Name	ドメイン名を表示します。	
Node Type	ノードの役割を表示します。	
	Master	リングの動作を制御するスイッチであることを表します。 Masterノードはドメインに1台だけ設定します。
	Transit	Masterノード以外のスイッチであることを表します。
Ring Status	リングの状態を表示します。	
	IDLE	リングプロトコル機能が無効であることを表します。
	Complete	リングトポロジが正しく構成されていることを表します。 このステータスはマスターノードのみ表示されます。
	Failed	リングトポロジが構成されていないことを表します。 このステータスはマスターノードのみ表示されます。
	Link-Up	リングトポロジが正しく構成されていることを表します。 このステータスはトランジットノードのみ表示されます。
	Link-Down	リングトポロジが構成されていないことを表します。 このステータスはトランジットノードのみ表示されます。
	Pre-Forwarding	リングトポロジを構成中であることを表します。 このステータスはトランジットノードのみ表示されます。
Primary Port	プライマリポートを表示します。	
Primary Port Status	プライマリポートの状態を表示します。	
	Unknown	ドメインが無効であることを表します。
	Forwarding	通常の通信を行っている状態を表します。
	Down	ポートがリンクアップしていない状態を表します。
	Blocking	制御用フレーム以外は受信しない状態を表します。
Primary Port Role	プライマリポートの役割を表示します。	
	Upstream	Upstreamポートとして動作中です。
	Downstream	Downstreamポートとして動作中です。
Secondary Port	セカンダリポートを表示します。	
Secondary Port Status	セカンダリポートの状態を表示します。	
	Unknown	ドメインが無効であることを表します。
	Forwarding	通常の通信を行っている状態を表します。
	Down	ポートがリンクアップしていない状態を表します。
	Blocking	制御用フレーム以外は受信しない状態を表します。
Secondary Port Role	セカンダリポートの役割を表示します。	
	Upstream	Upstreamポートとして動作中です。
	Downstream	Downstreamポートとして動作中です。
Polling Interval	ポーリング間隔を表示します。	
Fail Period	ポーリングに対するタイムアウト時間を表示します。	
Ctrl VLAN	設定されている制御用VLANのIDを表示します。	
Data VLAN(s)	設定されているデータ用VLANのIDを表示します。	

4.8. 統計情報の表示(Statistics)

「Main Menu」から「S」を選択すると図4-8-1のような「Statistics Menu」の画面になります。この画面ではスイッチの統計情報として、パケット数を監視することができ、これによってネットワークの状態を把握することができます。また、エラーパケットを監視することにより障害の切り分けの手助けになります。

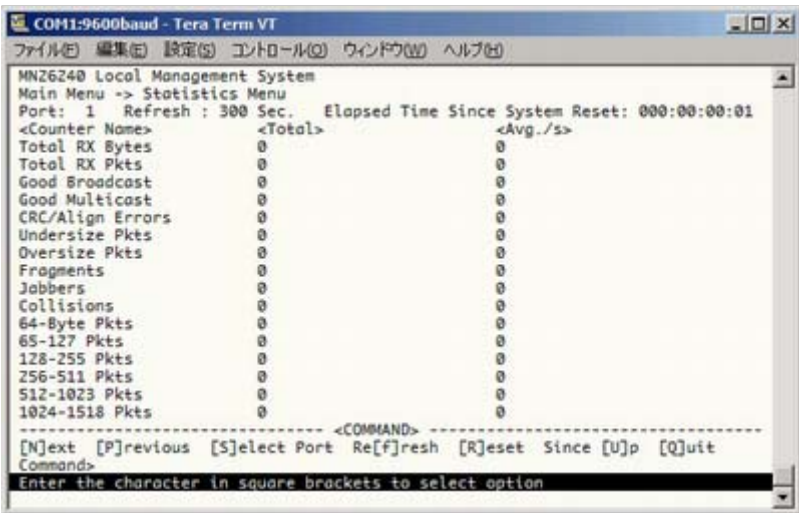


図4-8-1 統計情報の表示:起動後からの累積

画面の説明

Port	ポート番号を表します。
Refresh	再表示間隔を表します。
Elapsed Time Since System Up	現在のカウンタの値が累積されている時間を表示します。 起動または再起動してからの時間を意味します。
Counter Name	各カウンタの名前を表示します。
Total	カウンタに累積された値を表示します。
Avg./s	各値の1秒間の平均値を表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	値を表示するポートを切り替えます
	「S」と入力するとプロンプトが「Select Port number>」と変わりますので表示したいポート番号を入力してください。
N	次のポートの値を表示します。
	「N」と入力すると次のポートのカウンタを表示します。ポート26まで移動できます。
P	前のポートの値を表示します。
	「P」と入力すると前のポートのカウンタを表示します。ポート1まで移動できます。
r	カウンタの値をリセットしてからの値の表示に切り替えます。
	「r」と入力すると、すぐにカウンタの値をresetしてからの値の表示に切り替わります。画面右上の時間表示が「Elapsed Time Since System Reset」に変わります
f	カウンタの更新モードを設定します。
	「f」と入力すると、注釈行に「1 for start to refresh, 2 for set refresh rate」と表示されますので、更新を止めたい場合は「1」を入力すると、Refreshのパラメータが「STOP」を表示し、表示を更新しません。更新間隔を変更したい場合は「2」を入力すると「Input refresh time>」プロンプトが表示されますので、更新時間を入力してください。Refreshパラメータも連動して表示されます。
Q	上位のメニューに戻ります

またこの画面では本装置が起動または電源OFF、リセットによる再起動されてからの累積値（図4-8-1）とコマンドによりカウンタをクリアしてからの累積値（図4-8-2）の2種類を表示することができます。コマンドによりカウンタの値をクリアしても起動時からの累積値は保存されています。カウンタの値は約10秒で自動的に更新されます。

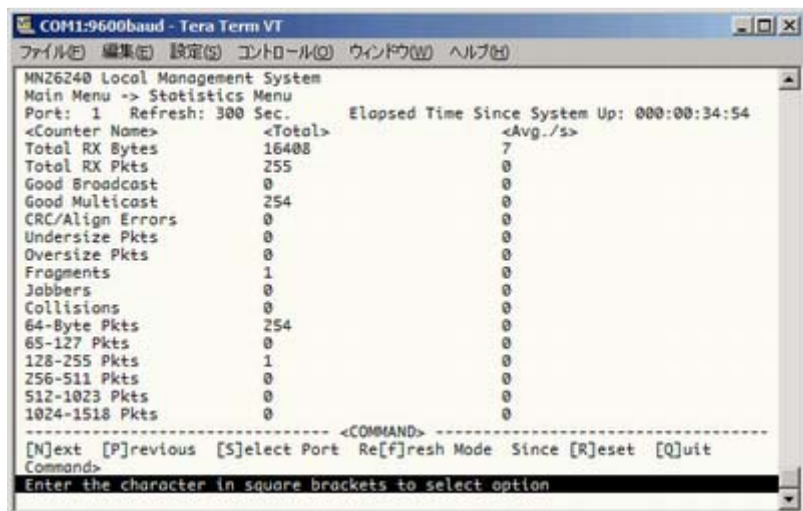


図4-8-2 カウンタクリアからの累積表示

画面の説明

Port	ポート番号を表します。
Refresh	再表示間隔を表します。
Elapsed Time Since Reset	カウンタをリセットしてからの時間を表します。
Counter Name	各カウンタの名前を表示します。
Total	カウンタに累積された値を表示します。
Avg. /s	各値の1秒間の平均値を表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	値を表示するポートを切り替えます
	「S」と入力するとプロンプトが「Select Port number>」と変わりますので表示したいポート番号を入力してください。
N	次のポートの値を表示します。
	「N」と入力すると次のポートのカウンタを表示します。ポート26まで行くと次(ポート1)には移動しません。
P	前のポートの値を表示します。
	「P」と入力すると前のポートのカウンタを表示します。ポート1では前のポートには戻れません。
u	起動時からのカウンタ表示に切り替えます。
	「u」と入力するとリセット後のカウンタの表示から、システム起動時からのカウンタ表示に切り替わります。
r	カウンタの値をリセットしてからの値の表示に切り替えます。
	「r」と入力するとカウンタの値をリセットし、全ての値を0にして再表示させます。
f	カウンタの更新モードを設定します。
	「f」と入力すると、注釈行に「1 for start to refresh, 2 for set refresh rate」と表示されますので、更新を止めたい場合は「1」を入力すると、Refreshのパラメータが「STOP」を表示し、表示を更新しません。更新間隔を変更したい場合は「2」を入力すると「Input refresh time>」プロンプトが表示されますので、更新時間を入力してください。Refreshパラメータも連動して表示されます。
Q	上位のメニューに戻ります

カウンタの内容は下記のとおりです。

Total RX Bytes	受信した全てのパケットのバイト数を表示します。
Total RX Pkts	受信した全てのパケット数を表示します。
Good Broadcast	受信したブロードキャストパケット数を表示します。
Good Multicast	受信したマルチキャストパケット数を表示します。
CRC/Align Errors	エラーパケットで正常なパケット長(64~1518バイト)ではあるが、誤り検出符号(FCS)で誤りが発見されたパケット数を表示します。そのうちパケットの長さが1バイトの整数倍のものはCRC(FCS)エラー、そうでないものはアラインメントエラーです。
Undersize Pkts	エラーパケットで、パケット長が64バイトより短い、その他には異常がないパケット数を表示します。
Oversize Pkts	エラーパケットで、パケット長が1518バイトより長い、その他には異常がないパケット数を表示します。(ジャンボフレームをのぞく)
Fragments	エラーパケットでパケット長が64バイトより短く、かつCRCエラーまたはアラインメントエラーを起こしているパケット数を表示します。
Jabbers	エラーパケットでパケット長が1518バイトより長く、かつCRCエラーまたはアラインメントエラーを起こしているパケット数を表示します。
Collisions	パケットの衝突の発生した回数を表示します。
64-Byte Pkts	パケット長が64バイトのパケットの総数を表示します。
65-127 Pkts	パケット長が65~127バイトのパケットの総数を表示します。
128-255 Pkts	パケット長が128~255バイトのパケットの総数を表示します。
256-511 Pkts	パケット長が256~511バイトのパケットの総数を表示します。
512-1023 Pkts	パケット長が512~1023バイトのパケットの総数を表示します。
1024-1518 Pkts	パケット長が1024~1518バイトのパケットの総数を表示します。

ご注意: この画面は工場出荷時には約5分ごとに画面が更新されるため、コンソールおよびTelnetのタイムアウトが起こりません。

4.9. 付加機能の設定(Switch Tools Configuration)

「Main Menu」から「T」を選択すると図4-9-1のような「Switch Tools Configuration」の画面になります。この画面ではソフトウェアのアップグレード、設定の保存・読込、再起動、ログの参照、スイッチの付加機能の利用とその際の設定を行うことができます。

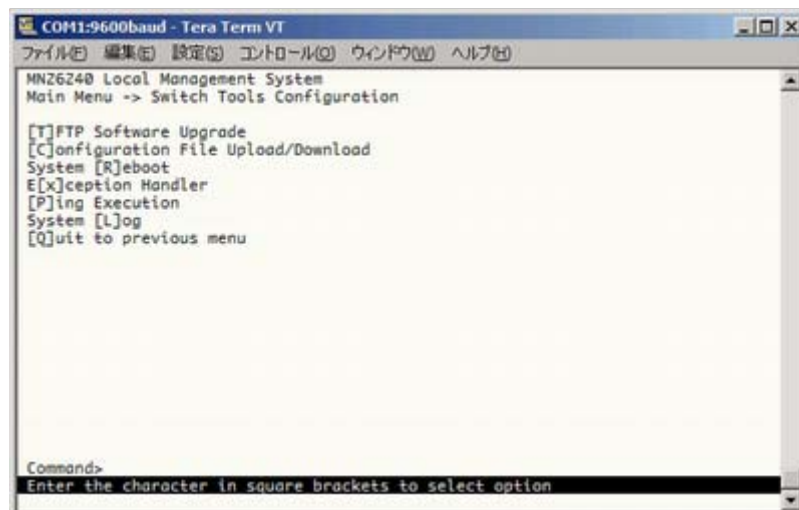


図4-9-1 付加機能の設定

画面の説明

TFTP Software Upgrade	本装置のソフトウェアのアップグレードに関する設定及び実行を行います。
Configuration File Upload/Download	本装置の設定情報の保存・読込に関する設定、及び実行を行います。
System Reboot	本装置の再起動に関する設定、及び実行を行います。
Ping Execution	本装置からのPingの実行を行います。
System Log	本装置のシステムログの表示を行います。
Quit to previous menu	Switch Tools Configuration Menuを終了し、メインメニューに戻ります。

4.9.1. ソフトウェアのアップグレード(TFTP Software Upgrade)

「Switch Tools Configuration Menu」から「T」を選択すると図4-9-2のような「TFTP Software Upgrade」の画面になります。この画面ではソフトウェアのバージョンアップとその際の設定を行うことができます。

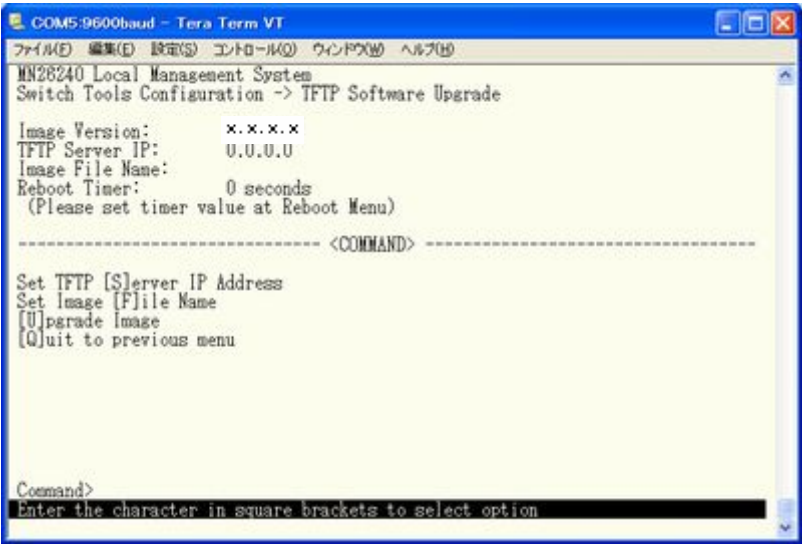


図4-9-2 ソフトウェアのアップグレード

画面の説明

Image Version/Date	現在のソフトウェアのバージョンとソフトの作成された日付を表示します。
TFTP Server IP	アップグレードするソフトウェアのあるTFTPサーバのIPアドレスを表示します。
Image File Name	アップグレードするソフトウェアのファイル名を表示します。
Reboot Timer	ソフトウェアのダウンロード後に起動するまでの時間を表示します。 本時間は「System Reboot Menu」にて設定することができます。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	アップグレードするソフトウェアの置いてあるTFTPサーバのIPアドレスを設定します。
	「S」と入力するとプロンプトがEnter IP address of TFTP server>と変わります。TFTPサーバのIPアドレスを入力してください。
F	アップグレードするソフトウェアのファイル名を設定します。
	「F」と入力するとプロンプトがEnter file name>と変わります。ダウンロードしたプログラムのファイル名を半角30文字以内で指定してください
U	アップグレードを開始します。
	「D」と入力するとプロンプトがDownload file (Y/N)>と変わり、開始するかどうかの確認をします。設定が全て間違いないかどうか確認してください。「Y」と入力するとアップグレードを開始します。設定に誤りが合った場合は「N」と入力すると元の状態に戻ります。
Q	上位のメニューに戻ります。

ダウンロードが開始されると図4-9-3のような画面に切り替わり、ダウンロードの状況が確認できます。ダウンロードが完了すると自動的に再起動し、ログイン画面に戻ります。

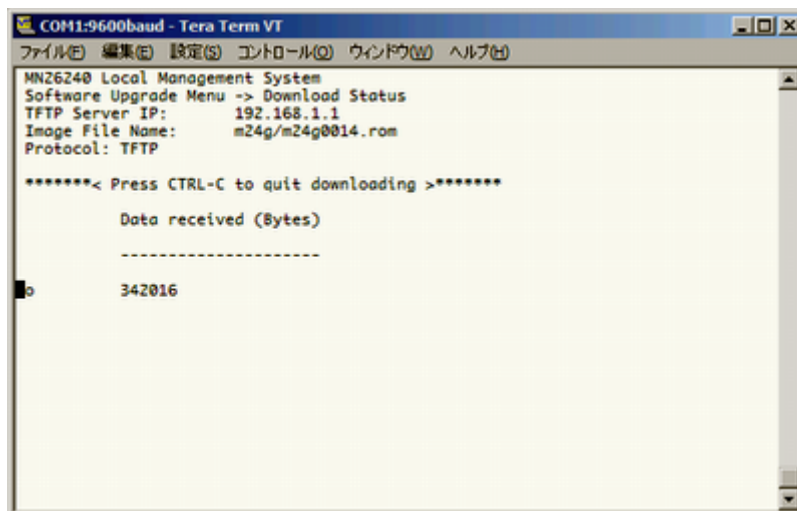


図4-9-3 ダウンロード実行中

ご注意: ダウンロードが終了すると画面下の黒帯の説明欄に「System will reset automatically after image program into flash.」と表示されます。このときはソフトウェアをFlashメモリに書き込んでいますので、スイッチの電源を切らないようにしてください

4.9.2. 設定情報の保存・読込(Configuration File Upload/Download)

「Switch Tools Configuration Menu」から「C」を選択すると図4-9-4のような「Configuration File Upload/Download Menu」の画面になります。この画面では本装置の設定情報をPCにファイルとしての保存・読込とその際の設定を行うことができます。

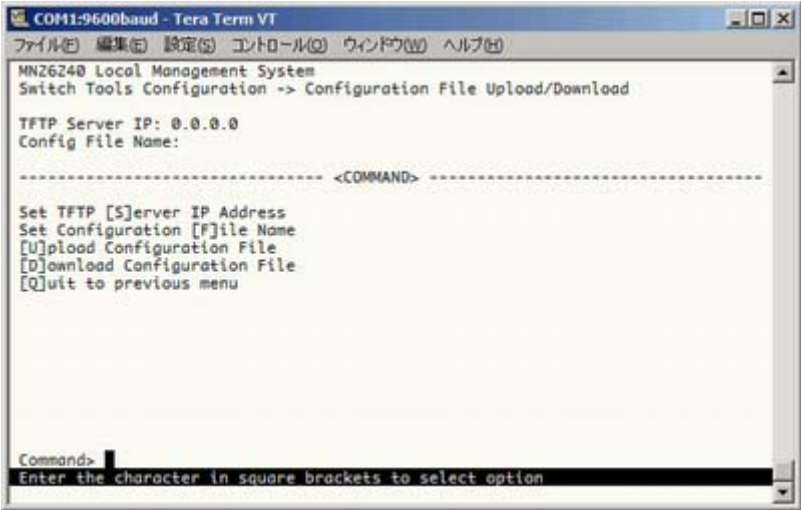


図4-9-4 設定情報の保存・読込

画面の説明

TFTP Server IP	設定の保存・読込を行うTFTPサーバのIPアドレスを表示します。
Config File Name	設定情報のファイル名を表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

S	設定情報の保存、または読込を行うTFTPサーバのIPアドレスを設定します。 「S」と入力するとプロンプトが「Enter IP address of TFTP server>」と変わります。TFTPサーバのIPアドレスを入力してください。
F	保存、または読込を行う設定情報のファイル名を設定します。 「F」と入力するとプロンプトが「Enter file name>」と変わります。ダウンロードしたプログラムのファイル名を半角30文字以内で指定してください
U	設定情報の保存（アップロード）を開始します。 「U」と入力するとプロンプトが「Upload file(Y/N)>」と変わり、開始するかどうかの確認をします。設定が全て間違いないかどうか確認してください。「Y」と入力するとアップグレードを開始します。設定に誤りが合った場合は「N」と入力すると元の状態に戻ります。
D	設定情報の読込（ダウンロード）を開始します。 「D」と入力するとプロンプトが「Download file(Y/N)>」と変わり、開始するかどうかの確認をします。設定が全て間違いないかどうか確認してください。「Y」と入力するとアップグレードを開始します。設定に誤りが合った場合は「N」と入力すると元の状態に戻ります。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.9.3. 再起動(System Reboot)

「Switch Tools Configuration Menu」から「R」を選択すると図4-9-5のような「System Reboot Menu」の画面になります。この画面では本装置の再起動を行うことができます。

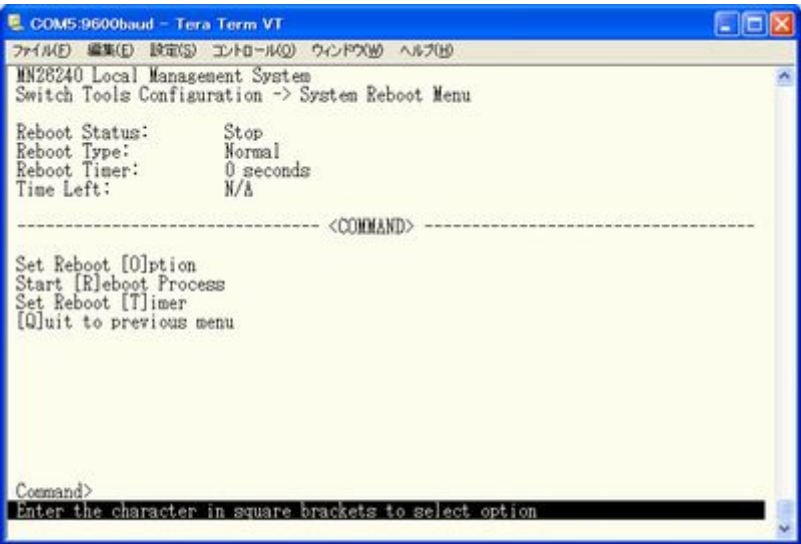


図4-9-5 再起動

画面の説明

Reboot Status	再起動のコマンドが実行されているかどうかを表示します。	
	Stop	再起動は行なわれていない状態を表します。
Reboot Type	再起動の方式を表示します。工場出荷時は「Normal」に設定されています。	
	Normal	通常の再起動をします。
	Factory Default	全ての設定が工場出荷時の状態に戻ります。
	Factory Default Except IP	IPアドレスの設定以外が工場出荷時の状態に戻ります。
Reboot Timer	再起動の実行から実際に再起動するまでの時間を表示します。工場出荷時は「0秒」に設定されています。	
Time Left	再起動の実行後に、実際に再起動するまでの残り時間を表示します。キー入力を行うことで画面表示の更新ができ、時間経過の確認ができます。	

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

O	再起動の形式を設定します。	
		「O」と入力するとプロンプトが「Select one option (N/F/I)>」と変わります。通常の再起動をする場合は「N」、全てを工場出荷時の設定状態に戻す場合は「F」、IPアドレスの設定だけを保存し、その他の設定を工場出荷時の状態に戻す場合は「I」と入力してください。
R	再起動を実行します。	
		「R」と入力するとプロンプトが「Are you sure to reboot the system (Y/N)」と変わり再度確認しますので、実行する場合は「Y」、中止する場合は「N」を入力してください。
T	再起動するまでの時間を設定します。	
		「T」と入力するとプロンプトが「Enter Reboot Timer>」と変わりますので、0～86400秒（24時間）の間の値を入力します。
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.9.4. 例外処理(Exception Handler)

「Switch Tools Configuration Menu」から「X」を選択すると図4-9-6のような「Exception Handler」の画面になります。この画面では例外処理が発生したときの動作を選択することができます。

また、例外が発生した場合はシステムログへ発生時の状態が記録されます。

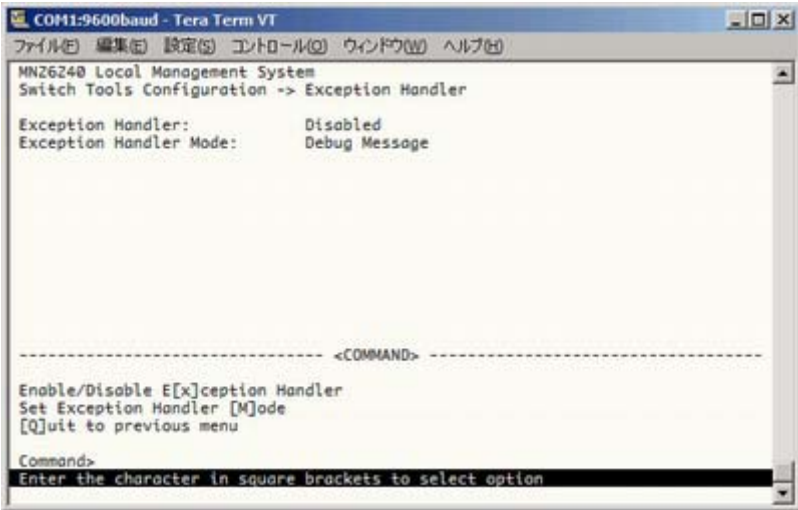


図4-9-6 例外処理の設定画面

画面の説明

Exception Handler	例外処理機能の状態を表示します。 工場出荷時は「Disabled」に設定されています。	
	Enabled	例外処理が有効であることを表します。
	Disabled	例外処理が無効であることを表します。
Exception Handler Mode	例外が発生した時の処理を表示します。 工場出荷時は「Debug Message」に設定されています。	
	Debug Message	コンソール画面上へ例外発生時の状態を表示します。
	System Reboot	自動的に再起動を行い復旧します。
	Both	上記の処理を両方行います。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

X	例外処理機能の有効／無効を切り替えます。	
		「X」と入力するとプロンプトが「Enabled or Disabled Exception Handler (E/D)>」と変わりますので、機能を有効にする場合は「E」を、使用しない場合は「D」を入力してください。
M	例外処理の方法を設定します。	
		「M」と入力するとプロンプトが「Select Exception Handler Mode (M/R/B)>」と変わりますので、デバッグメッセージを表示させる場合は「M」を、再起動させる場合は「R」を、両方を実施させる場合は「B」を入力してください。
Q	上位のメニューに戻ります。	

4.9.5. Pingの実行(Ping Execution)

「Switch Tools Configuration Menu」から「P」を選択すると図4-9-7のような「Ping Execution」の画面になります。この画面ではスイッチからPingコマンドを実行することにより、接続されている端末や他の機器への通信確認を行うことができます。

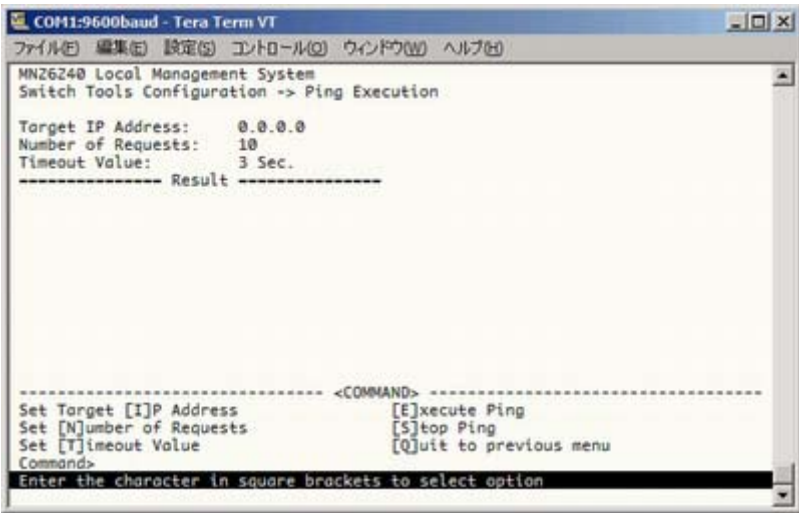


図4-9-7 Pingの実行

画面の説明

Target IP Address	Pingを実行する相手先のIPアドレスを表示します。 工場出荷時は0.0.0.0になっています。
Number of Request	Pingの回数を表示します。工場出荷時は10回になっています。
Timeout Value	タイムアウトになるまでの時間を表します。工場出荷時は3秒になっています。
Result	Pingの結果を表示します。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

I	Pingを実行する相手先のIPアドレスを設定します。
	「I」と入力するとプロンプトが「Enter new Target IP Address >」と変わりますのでIPアドレスを入力してください。
N	Pingの回数を設定します。
	「N」と入力するとプロンプトが「Enter new Request Times >」と変わりますので回数を1～10の間で入力してください。
T	タイムアウトになるまでの時間を設定します。
	「T」と入力するとプロンプトが「Enter new Timeout Value >」と変わりますので時間を1～5秒の間で入力してください。
E	Pingコマンドを実行します。また表示をクリアすることができます。
	「E」と入力するとプロンプトが「Execute Ping or Clean before Ping Data (E/C)>」と変わりますので、実行する場合は「E」、表示のクリアのみを行う場合は「C」を入力してください。
S	Pingコマンドを中止します。
	Pingの実行中に「S」と入力するかまたは「Ctrl+C」入力すると中止します。
Q	上位のメニューに戻ります。

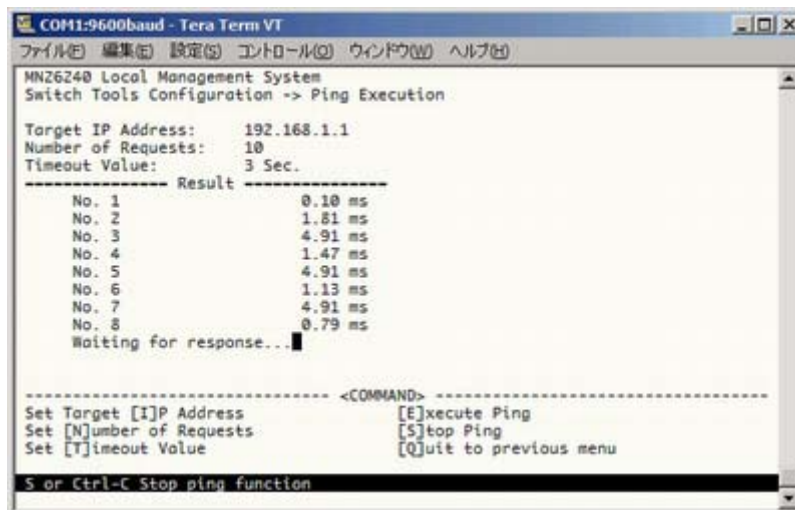


図4-9-8 Pingの実行中画面

4.9.6. システムログ(System Log)

「Switch Tools Configuration Menu」から「L」を選択すると図4-9-9のような「System Log Menu」の画面になります。この画面ではスイッチに発生した出来事（イベント）の履歴を表示します。イベントを見ることにより、-スイッチに起こった現象を把握でき、ネットワークの管理に役立ちます。

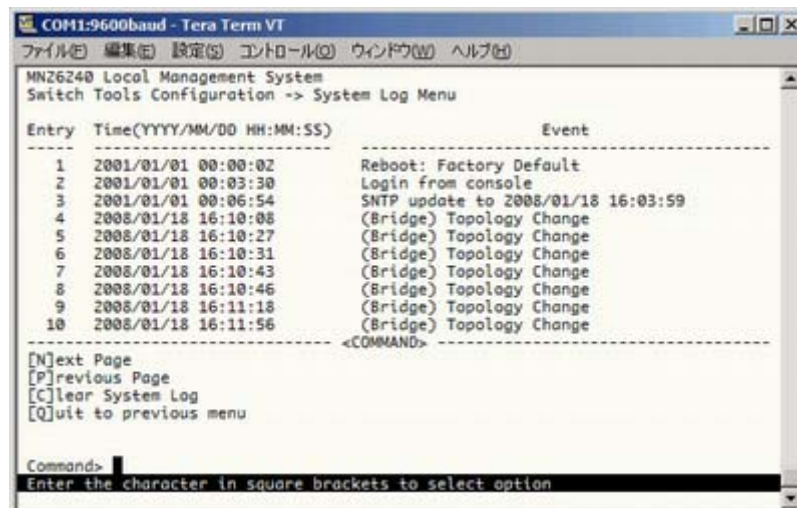


図4-9-9 システムログ

この画面で表示される各イベントは、SNMPのトラップと連動しています。トラップを発生させるよう設定してある場合はイベントとして表示されます。

画面の説明

Entry	イベントの番号を表します。	
Time	イベントの発生した時刻を表示します。時刻設定がされていない場合は起動からの通算時間が表示されます。	
Event	スイッチに発生したイベントの内容を表示します。	
	Login from console	コンソールポートからのログインがあったことを表します。
	Login from telnet, xxx. xxx. xxx. xxx	Telnetからのログインがあったことを表します。
	Configuration changed	設定が変更されたことを表します。
	Runtime code changes	ファームウェアが変更されたことを表します。
	(Bridge)Topology Change	スパニングツリーのトポロジーが変更されたことを表します。
	Reboot: Normal	本装置が再起動を行ったことを表します。
	Reboot: Factory Default	本装置が工場出荷時設定に戻す再起動を行ったことを表します。
	Reboot: Factory Default Except IP	本装置がIPアドレス以外を工場出荷時設定に戻す再起動を行ったことを表します。
	Not authorized! (IP: xxx. xxx. xxx. xxx)	SNMPによって未登録のマネージャからアクセスがあったことを表します。
	SNTP first update to yyyy/mm/dd hh:mm:ss	SNTPサーバにアクセスし、時間情報の取得を行ったことを表します。(初回のみ)
	Found other multicast router. Stopped querier function.	本装置とは別にIGMPクエリアが存在した為、機能を停止したことを表します。
	Other multicast router is expired. Restarted querier function.	別のIGMPクエリアが存在しなくなった為、機能を再開したことを表します。
	Configuration file upload	設定ファイルがTFTPを経由し外部へ保存されたことを表します。
	Configuration file download	設定ファイルがTFTPを経由して読み込まれたことを表します。
	Write configuration to primary file failed	Flashのプライマリ領域への設定保存が失敗したことを表します。
	Write configuration to secondary file failed	Flashのセカンダリ領域への設定保存が失敗したことを表します。
	(TRAP)Port-xx Link-up	ポートのリンクがアップしたことを表します。このイベントはIndividual Trapが有効で、対応するポートが設定されているときに発生します
	(TRAP)Port-xx Link-down	ポートのリンクがダウンしたことを表します。このイベントはIndividual Trapが有効で、対応するポートが設定されているときに発生します
	(TRAP)System Cold Start.	本装置が起動されたことを表します。
	(TRAP)System authentication failure	SNMPマネージャからの認証が失敗したことを表します。
	! Stus:%x IP:%x Code:%x Add:%x" ! Tsk:%s% P:%x Pri:%d"	例外処理が発生したときのシステム情報です。
	(BPDU) BPDU guard worked on Port-xx	ポートでBPDUガード機能が動作したことを表します。
	(BPDU) Port-xx is recovered.	ポートが自動復旧したことを表します。
	(RRP) FDB Flush	Forwarding DatabaseをFlushしたことを表します。
	(RRP) Ring Recover	リングトポロジが復旧したことを表します。 このログはマスターノードのみ表示されます。
	(RRP) Ring Failure	リングトポロジに異常が発生したことを表します。 このログはマスターノードのみ表示されます。

	(RRP) Change to Link-Up Status	リングトポロジが構成されたことを表します。 このログはトランジットノードのみ表示されます。
	(RRP) Change to Link-Down Status	リングトポロジに異常が発生したことを表します。 このログはトランジットノードのみ表示されます。
	(RRP) Change to Pre-Forwarding Status	リングトポロジを構成中であることを表します。 このログはトランジットノードのみ表示されます。

ここで使用できるコマンドは下記のとおりです

N	次のページを表示します。
	「N」と入力すると次のページを表示します。
P	前のページを表示します。
	「P」と入力すると前のページを表示します。
C	ログの内容を全て削除します。
	「C」と入力するとログが全て削除されます。
Q	上位のメニューに戻ります。

4.10. 設定情報の保存(Save Configuration to Flash)

「Main Menu」から「F」を選択すると図4-10-1のような「Save Configuration to Flash」の画面になります。このコマンドを選択することにより、本装置に設定した内容を内蔵のメモリへの保存を行います。この画面でプロンプトが「Save current configuration?(Y/N)」に変わりますので保存を行う場合は「Y」、行わない場合は「N」を選択してください。この保存を行わない場合、それまでに設定した内容は再起動時に消去されます。

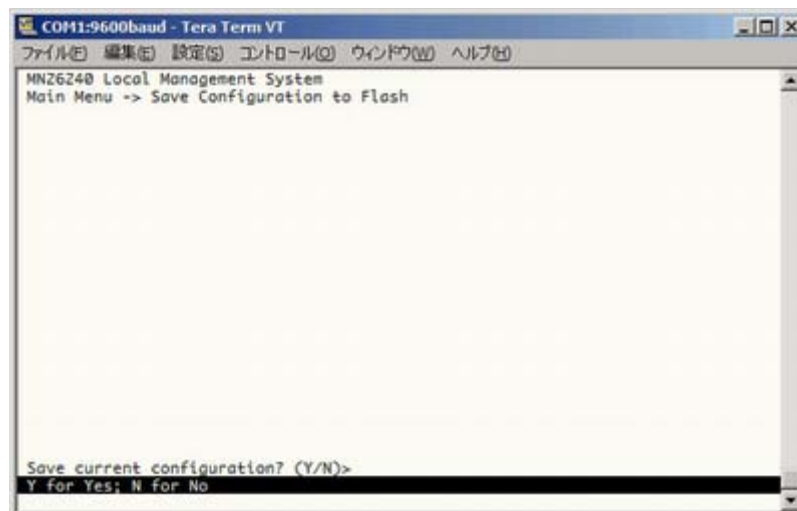


図4-10-1 設定情報の保存:保存確認

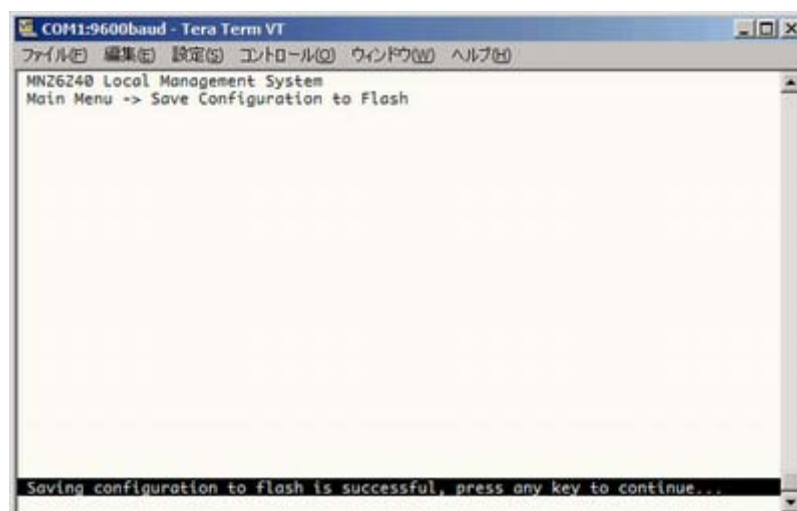


図4-10-2 設定情報の保存：保存終了

4.11. コマンドラインインタフェース(CLI)

メインメニューで、「C」を選択すると、図4-11のような画面になります。

ここからメニュー形式ではなく、コマンドラインでの設定が可能となります。

設定方法は別紙「コマンドラインインタフェース解説書」に記載されておりますのでご参照下さい。CLIからMenuへの復帰は、プロンプトから「logout」を入力してください。



図4-11 コマンドラインインタフェース (CLI)

4.12. ログアウト

メインメニューで、「Q」を選択すると、コンソールからアクセスしている場合は図4-4-1のようなログイン画面に戻り、またTelnetでアクセスしている場合は接続が切断されます。再度、操作を行うには再び4.2節のログインの手順を行なってください。

また、4.6.6項のアクセス条件で設定されたタイムアウトの時間を過ぎると自動的にログアウトします。

付録A. 仕様

- インターフェース
 - ツイストペアポート ポート1～26 (RJ45コネクタ)
 - ✧ IEEE802.3 10BASE-T準拠
 - ✧ IEEE802.3u 100BASE-TX準拠
 - ✧ IEEE802.3ab 1000BASE-T準拠
 - SFP拡張スロット ポート23～26 (ツイストペアポートと排他使用)
 - ✧ IEEE802.3z 1000BASE-SX/1000BASE-LX準拠
 - コンソールポート×1 (9ピン D-Subコネクタ)
 - ✧ RS-232C (ITU-TS V.24) 準拠

- スイッチ方式
 - ストア・アンド・フォワード方式
 - フォワーディング・レート

10BASE-T	14,880pps
100BASE-TX	148,800pps
1000BASE-T/SFP	1,488,000pps
 - MACアドレステーブル 8Kエントリ/ユニット
 - バッファメモリ 512Kバイト/ユニット
 - フローコントロール IEEE802.3x (全二重時)
バックプレッシャー (半二重時)

- 主要搭載機能
 - IEEE802.1D スパニングツリープロトコル
 - IEEE802.1w ラピッドスパニングツリープロトコル
 - IEEE802.1Q タグVLAN (最大設定数：256)
 - IEEE802.1ad リンクアグリゲーション
(最大8ポート、13グループの構成が可能)
 - IEEE802.1p QoS機能
(8段階のPriority Queueをサポート)
 - IEEE802.1x ポートベース認証
(EAP-MD5/TLS/PEAP認証方式をサポート)
 - IEEE802.3x フローコントロール

○ エージェント仕様

- SNMP (RFC1157)
- TELNET (RFC854)
- TFTP (RFC783)
- BOOTP (RFC951)
- SNTP (RFC2030)

○ サポートMIB

- MIB II (RFC1213)
- Bridge-MIB (RFC1493)
- SNMPv2-MIB (RFC1907)
- IF-MIB (RFC2233)
- Radius-Authentication-Client-MIB (RFC 2618)
- P-Bridge-MIB (RFC 2674)
- Q-Bridge-MIB (RFC 2674)
- RMON-MIB (RFC2819) グループ1, 2, 3, 9
- RSTP-MIB (IEEE 802.1w)
- IEEE8021-PAE-MIB (IEEE 802.1X)
- IEEE8023-LAG-MIB (IEEE 802.3ad)

○ 電源仕様

- 電源 AC100V 50/60Hz 1.5A
- 消費電力 最大46W

○ 環境仕様

- 動作環境温度 0～50℃
- 動作環境湿度 20～80%RH (結露なきこと)
- 保管環境温度 -20～70℃
- 保管環境湿度 10～90%RH (結露なきこと)

○ 外形仕様

- 寸法 44mm(薄さ)×440mm(幅)×256mm(奥行き)
(突起部は除く)
- 質量 {重量} 3,500g

○ 適合規格

- 電波放射	情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI） クラスA
- IEEE802.3	10BASE-T
- IEEE802.3u	100BASE-TX
- IEEE802.3ab	1000BASE-T
- IEEE802.3z	1000BASE-SX, 1000BASE-LX

付録B. Windowsハイパーターミナルによる コンソールポート接続手順

WindowsのインストールされたPCと本装置をコンソールケーブルで接続し、以下の手順でハイパーターミナルを起動します。

(Windows Vistaでは別途仮想端末ソフトウェアのインストールが必要です。)

- ① Windowsのタスクバーの[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム(P)]→[アクセサリ]→[通信]→[ハイパーターミナル]を選択します。
- ② 「接続の設定」ウィンドウが現われますので、任意の名前（例えば Switch）を入力、アイコンを選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- ③ 「電話番号」ウィンドウが現われますので、「接続方法」の欄のプルダウンメニューをクリックし、“Com1” を選択後[OK]ボタンをクリックします。
ただし、ここではコンソールケーブルが Com1 に接続されているものとします。
- ④ 「COM1 のプロパティ」というウィンドウ内の「ビット/秒(B)」の欄でプルダウンメニューをクリックし、“9600” を選択します。
- ⑤ 「フロー制御(F)」の欄のプルダウンメニューをクリックし、“なし” を選択後[OK]ボタンをクリックします。
- ⑥ ハイパーターミナルのメインメニューの[ファイル(F)]をクリックし、[プロパティ(R)]を選択します。
- ⑦ 「<name>のプロパティ」(<name>は②で入力した名前)というウィンドウが現われます。そこで、ウィンドウ内上部にある“設定”をクリックして画面を切り替え、“エミュレーション(E)”の欄でプルダウンメニューをクリックするとリストが表示されますので、“VT100”を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- ⑧ 取扱説明書の4章に従って本装置の設定を行います。
- ⑨ 設定が終了したらハイパーターミナルのメインメニューの[ファイル(F)]をクリックし、[ハイパーターミナルの終了(X)]をクリックします。ターミナルを切断してもいいかどうかを聞いてきますので、[はい(Y)]ボタンをクリックします。そして、ハイパーターミナルの設定を保存するかどうかを聞いてきますので、[はい(Y)]ボタンをクリックします。
- ⑩ ハイパーターミナルのウィンドウに“<name>.ht” (<name>は②で入力した名前)というファイルが作成されます。

次回からは“<name>.ht”をダブルクリックしてハイパーターミナルを起動し、⑧の操作を行えば本装置の設定が可能となります。

故障かな？と思われたら

故障かと思われた場合は、まず下記の項目に従って確認を行ってください。

◆LED表示関連

■電源LED (POWER) が点灯しない場合

●電源コードが外れていませんか？

→ 電源コードが電源ポートにゆるみ等がないよう、確実に接続されているかを確認してください。

■リンク/送受信LED (LINK/ACT.) が点灯しない場合

●ケーブルを該当するポートに正しく接続していますか？

●該当するポートに接続している機器はそれぞれの規格に準拠していますか？

●オートネゴシエーションで失敗している場合があります。

→ 本装置のポート設定もしくは端末の設定を半二重に設定してみてください。

◆通信ができない場合

■全てのポートが通信できない、または通信が遅い場合

●機器の通信速度、通信モードが正しく設定されていますか？

→ 通信モードを示す信号が適切に得られない場合は、半二重モードで動作します。
接続相手を半二重モードに切り替えてください。
接続対向機器を強制全二重に設定しないでください。

●本装置を接続しているバックボーンネットワークの帯域使用率が高すぎませんか？

→ バックボーンネットワークから本装置を分離してみてください。

アフターサービスについて

1. 保証書について

保証書は本装置に付属の取扱説明書（紙面）についています。必ず保証書の『お買い上げ日、販売店（会社名）』などの記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容を良くお読みの後大切に保管してください。保証期間はお買い上げの日より1年間です。

2. 修理を依頼される時

『故障かな？と思われたら』に従って確認をしていただき、異常がある場合はお買い上げの販売店へご依頼ください。

●保証期間中は

お買い上げの販売店まで保証書を添えて商品をご持参ください。

保証書の記載内容により修理をさせていただきます。

●保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店にご相談ください。

修理により使用できる場合は、ご希望により有料で修理をさせていただきます。

3. アフターサービス・商品に関するお問い合わせ

お買い上げの販売店、または下記の連絡先にお問い合わせください。

パナソニック電工ネットワークス株式会社

TEL 03-6402-5301 / FAX 03-6402-5304

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年 月 日	品番	MN
お買い上げ先	電話（ ） —		
お客様 ご相談窓口	電話（ ） —		

© Panasonic Electric Works Networks Co., Ltd. 2008-2009

パナソニック電工ネットワークス株式会社

〒105-0021 東京都港区東新橋2丁目12番7号 住友東新橋ビル2号館4階

TEL 03-6402-5301 / FAX 03-6402-5304

URL <http://group.panasonic-denko.co.jp/pewjnw/>

0802-8129